

赤ちゃんから
おとなまで

聖書教育

2021年

1

2

3

月号

マタイによる福音書

総主題

時代を生きる教会

テーマ

インマヌエル



目次

聖書教育 2021年1・2・3月号

テーマ

インマヌエル

教会学校の目的

教会学校の目的は、その活動を通して、すべての人々がイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の中領域において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある。

日本バプテスト連盟 1971年制定、1999年改訂

聖書教育ホームページ <https://www.bapren.com/>

1 目次

2 プログラム表

3 準備のための聖書日課

川上敏夫

特集・連載

4～ **特集** レント・イースターメッセージ

才藤千津子

6～ **特集** この時代の「信教の自由」

藤田直彦

8～ **連載** 協力伝道週間をおぼえて

札幌バプテスト教会

10～ **連載** 今、改めて「教会学校の目的」に目を向ける

中田義直

12 執筆者紹介

13 **概論** この時代に「マタイによる福音書」を読む

いまざれ
今給黎眞弓

今号の展開例 ● 第40課～第52課

14～ 聖書の学び・成人科

いまざれ
今給黎眞弓

16～ みんなで聴く聖書のおはなし

いまざれ
今給黎眞弓

17～ 青少年科

森 淳一

18～ 幼小科

秋山頼子

92～ 暗唱聖句手話

塩山幸子

94～ 暗唱聖句カード 新共同訳・口語訳

99 「聖書教育」読者アンケート

100 次号予告



2020年 聖書教育 2020~2022年度プログラム

2021年度 総主題 時代を生きる教会

課	月日		週題	聖書箇所
40	1月3日		これはわたしの愛する子	マタイ3:13~17
41	1月10日		力ではなく神の言葉で生きる	マタイ4:1~11
42	1月17日		自由にする律法	マタイ5:17~20
43	1月24日		イエスの望み	マタイ8:1~17
44	1月31日	協力伝道週間	平和があるように	マタイ9:35~10:15
45	2月7日	信教の自由	恐れるな、この世の力を	マタイ10:26~31
46	2月14日		問いつつ、問われつつ	マタイ11:2~19
47	2月21日		自分の十字架を背負って	マタイ16:13~28
48	2月28日		柔和なお方	マタイ21:1~11
49	3月7日		天の国はどんなところ?	マタイ25:1~13
50	3月14日		小さい者のひとりに	マタイ25:31~46
51	3月21日		共に目を覚まして	マタイ26:36~46
52	3月28日	受難週	十字架上の神の子	マタイ27:32~56
1	4月4日	イースター	行く手に立つイエス	マタイ28:1~15
2	4月11日		世の終わりまで、主と共に	マタイ28:16~20
3	4月18日		幸いである	マタイ5:1~12
4	4月25日		わたしもその中にある	マタイ18:15~20
5	5月2日		「サウル、サウル」	使徒9:1~19前半
6	5月9日		キリスト者と呼ばれて	使徒11:19~26(参照11:1~18)
7	5月16日		ただ主イエスの恵みによって	使徒15:1~21
8	5月23日	ペンテコステ	この幻を見るまでに	使徒16:6~15(参照15:36~16:5)
9	5月30日		真夜中の賛美	使徒16:25~40(参照16:16~24)
10	6月6日		光の中を歩む	1ヨハネ1:1~10
11	6月13日		イエスが歩まれたように	1ヨハネ2:1~17
12	6月20日	沖繩命どう宝の日	互いに愛し合う	1ヨハネ4:7~21
13	6月27日	神学校週間	永遠の命 イエス・キリスト	1ヨハネ5:6~15
14	7月4日		聞くだけでは終わらない	ヤコブ1:19~27
15	7月11日		人を分け隔てせず	ヤコブ2:1~13
16	7月18日		義の実は、平和を実現する人たちによって	ヤコブ3:13~18
17	7月25日		主が来られるときまで	ヤコブ5:7~20
18	8月1日		エゼキエルの召命	エゼキエル2:1~10
19	8月8日		主の聖所を背にし	エゼキエル8:1~18
20	8月15日	平和	もはやむなししい幻を見ることもなく	エゼキエル13:1~23
21	8月22日		新しい心・新しい霊	エゼキエル18:21~32
22	8月29日		立ち帰れ、立ち帰れ	エゼキエル33:10~20
23	9月5日		主こそ真の牧者	エゼキエル34:1~16
24	9月12日		主が建て直す日	エゼキエル36:33~38
25	9月19日	教会学校月間	枯れた骨よ、主の言葉を聞け	エゼキエル37:1~14
26	9月26日		真の神殿の幻	エゼキエル43:1~12
27	10月3日		あの空はどうして青い	詩編19:1~15
28	10月10日		誇らない世界	詩編23:1~6
29	10月17日		すべては主のもの	詩編24:1~6
30	10月24日		豊かな平和に	詩編72:1~14
31	10月31日		御手の業を喜び歌う	詩編92:1~16
32	11月7日		無知な者にも	詩編119:129~136
33	11月14日		大き過ぎることを求めません	詩編131:1~3
34	11月21日		主が望まれるのは	詩編147:4~14
35	11月28日	世界祈禱週間	平和の主よ来てください、この世界に	イザヤ11:1~10
36	12月5日		もはや戦うことを学ばない	ミカ4:1~4
37	12月12日		彼こそ、まさしく平和	ミカ5:1~5
38	12月19日	クリスマス	すべての人を照らすいのちの光	ヨハネ1:1~18
39	12月26日		見よ、世の罪を取り除く神の小羊	ヨハネ1:29~34

2020年10月現在

2021年1月

準備のための聖書日課

1日◎ 詩編2:7~12	お前はわたしの子	17日◎ マタイ5:17~20	自由にする律法
2日◎ イザヤ42:1~9	主の霊の働き	18日◎ マタイ4:23~25	ありとあらゆる病気と悪い
3日◎ マタイ3:13~17	これはわたしの愛する子	19日◎ レビ記13:45~46	わたしは汚れた者です
4日◎ 申命記8:1~10	主の言葉によって生きる	20日◎ レビ記14:1~9	清めの儀式を受けて
5日◎ 申命記6:16~25	主を試してはならない	21日◎ マルコ7:31~37	主の御手を置いてください
6日◎ 申命記6:4~15	主のみ仕えよ	22日◎ イザヤ53:1~5	病と痛みを担われる方
7日◎ 詩編91:3~13	主の助けと守りを信じて	23日◎ マタイ7:24~29	権威ある者として
8日◎ マタイ6:9~13	誘惑に遭わせず	24日◎ マタイ8:1~17	イエスの望み
9日◎ マルコ1:12~13	荒野のイエス	25日◎ エゼキエル34:1~16	公平をもって養われる方
10日◎ マタイ4:1~11	力ではなく神の言葉で生きる	26日◎ ヨハネ10:7~18	良い羊飼いのもとの
11日◎ ルカ10:25~37	あなたはどう読んでいるのか	27日◎ イザヤ55:6~7	主は憐れんでくださる
12日◎ 出エジプト記34:27~28	十の戒めからなる契約の言葉	28日◎ ヨハネ4:31~38	刈り入れを待つ色づいた畑
13日◎ マタイ5:21~26	途中で早く和解せよ	29日◎ サムエル記上25:2~11	あなたの家に平和
14日◎ マタイ12:1~8	人の子は安息日の主	30日◎ イザヤ57:14~21	平和、平和
15日◎ ホセア6:4~6	愛と神を知ること求めよ	31日◎ マタイ9:35~10:15	平和があるように
16日◎ マタイ5:13~16	天の父をあがめるために		

2021年2月

準備のための聖書日課

1日◎ マタイ10:16~25	言葉を与えられる神	16日◎ ルカ9:18~20	あなたは神からのメシア
2日◎ 申命記10:12~22	あなたの神、主を畏れよ	17日◎ マタイ14:22~33	あなたは神の子
3日◎ 申命記31:1~8	恐れてはならない	18日◎ ヨハネ1:35~42	岩と呼ばれたシモン
4日◎ ローマ11:17~24	むしろ恐れなさい	19日◎ マタイ10:34~39	自分の十字架を担って
5日◎ コリント二5:11~15	主に対する畏れ	20日◎ ローマ2:1~16	おのおのの行いによる報い
6日◎ ルカ12:4~7	五羽の雀は二アサリオン	21日◎ マタイ16:13~28	自分の十字架を背負って
7日◎ マタイ10:26~31	恐れるな、この世の力を	22日◎ ゼカリヤ9:9~10	子ろばに乗る王
8日◎ マタイ14:1~12	バプテスマのヨハネの死	23日◎ 詩編118:22~29	祝福あれ、ホサナ
9日◎ イザヤ26:16~19	死者が命を得るとき	24日◎ イザヤ62:10~12	御救いの行進
10日◎ イザヤ35:1~6	主の栄光を見る	25日◎ ペトロ一2:23~25	魂の牧者のもとへ
11日◎ イザヤ61:1~9	貧しい人に良い知らせを	26日◎ ヨハネ1:43~51	ナザレの人イエスとの出会い
12日◎ マラキ3:19~24	預言者エリヤの派遣	27日◎ マタイ21:12~17	ダビデの子にホサナ
13日◎ マタイ16:1~4	神の支配を見抜く	28日◎ マタイ21:1~11	柔和なお方
14日◎ マタイ11:2~19	問いつつ、問われつつ		
15日◎ マルコ8:27~30	あなたはメシア		

2021年3月

準備のための聖書日課

1日◎ ルカ12:35~40	ともし火を灯していなさい	17日◎ テサロニケ一5:1~11	眠る者は夜眠る
2日◎ ルカ17:20~21	神の国はあなたがたの間にある	18日◎ ヘブライ5:7~10	祈りと願いをささげる主
3日◎ マタイ10:16	蛇のように賢く	19日◎ ヨハネ16:16~24	悲しみから喜びへ
4日◎ マタイ24:1~14	なぜ耐え忍ぶのか	20日◎ ヨハネ16:25~33	いのちの勝利
5日◎ マタイ24:15~31	主の警告に耳を傾けて	21日◎ マタイ26:36~46	共に目を覚まして
6日◎ マタイ24:32~51	滅びを超えて	22日◎ マルコ15:21~32	ルフォスの父シモン
7日◎ マタイ25:1~13	天の国はどんなところ?	23日◎ ローマ16:13	主に結ばれたルフォスとその母
8日◎ マタイ25:14~30	主人と一緒に喜んでくれ	24日◎ マタイ20:20~28	ゼバダイの息子たちの母
9日◎ マタイ13:34~35	天地創造の時から隠されていたこと	25日◎ 詩編22:1~22	なぜわたしをお見捨てになるのか
10日◎ 詩編16:7~11	主は右にいまし	26日◎ マタイ27:15~26	群衆の愚かさ
11日◎ マタイ10:40~42	主の小さな弟子のひとり	27日◎ マタイ27:27~31	まことの王を求めて
12日◎ マタイ19:23~30	永遠の命を受け継ぐために	28日◎ マタイ27:32~56	十字架上の神の子
13日◎ マタイ28:16~20	主はいつも共におられる	29日◎ マタイ27:57~66	茫然と座り込む女たち
14日◎ マタイ25:31~46	小さい者のひとり	30日◎ コリント一15:1~11	キリストは葬られた
15日◎ マタイ17:1~8	主イエスの正体	31日◎ マタイ20:17~19	人の子は三日目に復活する
16日◎ ローマ7:13~25	肉は罪の法則のもとに		

嘆きは希望に変わる

詩編42編1〜12節
(聖書協会共同訳)



西南学院大学神学部教授・平尾バプテスト教会協力牧師
才藤千津子

昨年以來、新型コロナ感染拡大に伴って次々と思いがけないことが起こり、1年前には想像もしていなかった事態になりました。私たちの間には、今、不安と当惑、そして悲しみや怒りがあります。世界中で、人々が、教会が、厳しい状況の中、病気や貧困と闘っています。

詩編は、伝統的に礼拝で用いられてきました。詩編は、共同体の中で共有された神への呼びかけであり、祈りの言葉です。どんな言葉で祈ったら良いかわからない時でも、詩編の言葉に自分の気持ちを乗せてゆけば、思いを神の前に注ぎ出すことができます。古代イスラエルの人々は、日々の生活の苦勞と喜びの体験の折々に、嘆いたり喜んだりしながら詩編の言葉を思い巡らし、詩編の言葉に深く関わっていきました。

詩編42編は、神から離された地、追放された地で、苦惱しながらなお神を慕い求める詩編詩人の嘆きと信仰への希望を歌っています。詩人は神に呼びかけます。暑い夏、干上がった川床で一滴の清涼な水を求めてあえぐ鹿のように、私の魂は神を求めています。生けるいのちの神に、私の魂は、私の全人格は、飢え渴いているのです。続いて詩人は、「あなたはどこにおられるのですか」と、自分に降りかかる苦難や災いを、涙と共に神に訴えます。いったい、いつ、かつてのように再び神殿に入って神のみ顔を仰ぎ、神にまみえることができるのだろうか。詩人は、神の前にくずおれ、全存在を賭けて祈り求めます。

私たちの人生には、誰しも、人生の不確かさや不条理に苦しむ時があります。多くの人にとって、新型コロナ感染拡大と闘ってきた

この1年間がまさにその時だったかもしれません。私たち一人ひとりにそれぞれの困難があったと思います。また同時に、私たちの教会も苦悩しました。平尾教会でも礼拝をオンラインで行うことにしましたが、試行錯誤が続きました。このように、試練が続き自分の力ではどうにもできなくなった時、私たちはしばしば、どうしてよいかわからず沈黙してしまいます。言葉を失うのです。なんと説明して良いかわからない、ひとりぼっちで見捨てられてしまった気がする。これが、そのようなときに私たちの苦悩の根底にある不安の正体ではないでしょうか。

しかし、詩編では、詩人たちは黙りません。むしろ、情熱的に自分自身の苦悩、怒りや悲しみを神に訴えます。「なぜ、私をお忘れになったのか。なぜ、私は敵の虐げの中を嘆きながら歩くのか」(詩編 42:10)。詩人は、苦悩に悶える自分の声を神の前に注ぎ出しました。そしてその極みで、その声は「神を待ち望め。私はなお、神をほめたたえる」(詩編 42:6、12)と、神への賛美へと変わってゆきます。このことは、私たちと私たちの共同体が「神との勇氣ある対話」へ踏み出すという行為が、最終的には、全く新しい神との関係、希望に満ちた関係へとつながってゆくことを教えてくれるように思います。神がしっかりと聞き手になってくださる、私たちを受け止めてくださる。だから、神を信頼し、神に真実の思いを注ぎ出すようにと、この嘆きの詩編は教えてくれるようです。

神の前に全身全霊を投げ出すような告白を聞いたことがあります。もう20年も昔、アメリカ留学中の私が非常勤スタッフをしていたサンフランシスコのセーフハウスという場所でのことです。セーフハウスは、性暴力か

ら立ち直ろうとするホームレスの女性のために、女性牧師たちが作った共同体です。そこに入居している女性たちは、深刻な心理的トラウマやアルコール依存症、薬物依存症に苦しみながら、人生を立て直そうとしている人たちでした。グループでの話し合いの時、女性たちは溢れる涙を拭おうともせず、自分たちが経験してきた性暴力や人種差別について率直に語り、仲間の話に耳を傾けました。また時には、ピアノの弾き語りをしながら、自分の辛い経験を歌って聴かせてくれました。暗い淵の底から魂を絞り出すような彼女たちの祈りは、当時異国で孤独の中に沈んでいた私を強く勇気づけ、力づけてくれたのです。そして、この時ほど、どんな困難な時にも私たちと共にいてくださる神に感謝したことはありません。

私たちキリスト者には、神と出会う場所があります。十字架のイエス・キリストです。イエス・キリストとしてこの世に来てくださったこの方は、詩編の中に描かれたような嘆きをご自分も生きられ、人間の苦しみの底辺を経験されました。困難にあって孤独の中で祈る時、教会の仲間たちと共に祈る時、実は私たちは一人ではなく、傍らにはこの方が共におられるのです。

今年もレントとイースターの季節がやってきました。私たちの十字架と復活の主イエス・キリストは、今も私たちの間に生きて働いておられます。主に向かって私たちの心を注ぎ出すこと、主に向かって叫ぶことは、私たちの信仰の生命力を新たに呼び起こすことです。それは私たちの共同体を変えていく力です。そして、主イエス・キリストにあって、私たちの希望は決して裏切られることはありません。

この時代の 「信教の自由」

日常の中にある「信教の自由」

「信教の自由」はバプテストの大きな特徴の一つです。「信教の自由」は今、私たちの日常の中で大切に考えなければならない課題です。

教会に行くことを友だちに話せないと悩む中高生の話を聞きます。日常の中で信仰を明らかにすることは、難しいと感じることがあります。しかし、私はキリスト者であることを先に言った方が楽ということに気づき、小学校に就職してからは公言することにしていきます。

公教育の場である学校で「信教の自由」と出会うことがあります。多くの職場で水泳の時期、日本酒を撒いて安全を祈るという習慣が残っていました。指摘すると、いつもすぐに止めようということになりました。私がキリスト者であるということが影響したのかもしれない。

神社の祭礼ポスターが学校の玄関に貼られていて校長室に話に行ったこともあります。「日の丸・君が代」を「国旗・国歌」として、卒業式・入学式に義務付けられたことについて「信教の自由」の観点からも考えました。ですから、「信教の自由」は私の日常の中に生きています。

バプテストが切り拓いた 「信教の自由」

法律における「思想の自由」という概念の確立に「信教の自由」を求めるバプテストがその道筋を切り拓いてきました。

初代のバプテストの指導者トマス・ヘルウィスは、イギリス国王に対し、「国王は死すべき人間であって、神ではない。…もし国王が霊的領主や律法を設けるとしたら、国王は不滅の神になってしまい、死すべき人間ではなくなる」、また「国王よ、人間は自分たちの宗教を自ら選択することにおいて、ほぼ平等であると考えたらいいのです。人間は神の審判の座の前で、自らを擁護して答えるために、自分で立たなければならないからです。その時、国王、もしくは国王から権威を賜っている者たちによってこの宗教を持つように命令、ないし強制されたら釈明にならないからです」と訴えました。このようにして、個人の信仰・良心の自由の権利を大切にし、そのために教会と国家の分離（政教分離）をバプテストは訴えました。（恵泉バプテスト教会 HP「バプテスト Q & A」より）

「連盟前史」と今

アメリカ南部バプテスト教会から福音が伝えられた「日本バプテスト西部組合」は、戦

藤田 直彦

恵泉バプテスト教会 教会員



中教会合同により日本基督教団に加盟し、戦後改めて日本バプテスト連盟として発足しました。したがって連盟の歴史において「連盟前史」が重要になります。『日本バプテスト連盟 70 年誌』（2018 年）にも連盟前史が記されています。

連盟靖国神社問題特別委員会の『分かれ道に立って、よく見、』（1986 年）には、バプテストも参加した戦中の教団による『教師の友』に、現人神とされた天皇と聖書の神を混同した当時の教会学校指導案が載っています。（以下に現代仮名遣いに直して紹介します）

11 月 23 日にはその新しいお米で造ったお酒とご飯を神様にお供えて「神様のお恵みによりまして今年も新しい米がたくさんできました。国民は大喜び。お国はますます栄えます。まことにありがとうございます。これは今年の新米で作りましたお酒とご飯でございます。どうぞお召し上がりくださいませ。私も次にいただきます。」と奏せられ、天子様おんみずからも召し上がり、群臣にも賜ります。これを新嘗祭にいなめらいといいます。（1935 年 11 月『教師の友』幼稚科「四 感謝祭」より）

NCC 教育部平和教育資料センターには、戦中の『聖書の友』、『興亜少年讚美歌』などの資料が展示されています。天皇のために命を捧げて戦うことを教会学校も教えてきたことがよく分かります。

「象徴」となった天皇は、今も「神」としての行事・儀式・祭りを行い続けています。戦後 2 度目の大嘗祭だいじょうさいの後、校長は、「今度の天皇陛下は、第 126 代だそうです」と子どもたちに語りました。指導要領には「天皇についての理解と敬愛の念を深めるようにすること」と書かれ、教科書には被災地を訪問する天皇の写真が掲載されています。「人間の力を超えたものへの畏敬の念」が求められます。「国民に寄り添う天皇」「リベラル」のイメージが広がる一方で、「神」である天皇の姿が大きくなっているのです。

この時代の「信教の自由」

このような中、日本宗教連盟が政府に対し、コロナ危機において「持続化給付金」「雇用調整助成金」の対象に宗教法人や宗教団体を含めるようにとの要請を行いました。露骨な政治弾圧があったのではなく、宗教団体が自ら政教分離に反する誘惑に乗ってしまったのです。日本バプテスト連盟理事会はこのことに対し、「『信教の自由』と『政教分離原則』を全く無視し、ないがしろにしたこのような姿勢に断固抗議します」との声明を出しました。「目を覚ましていなさい」との主の言葉が聞こえてくるような出来事でした。私たちの「信教の自由」が問われています。この時代の「信教の自由」のために祈ります。

“パクリ”と“^{ずうずう}凶々しさ” から始まったプロジェクトは “協力伝道”だった?!

“協力伝道”とは「あらかじめ定められた相手と協力して“福音”を伝える営み」としかこれまで考えてきませんでした。しかし新型コロナウイルス感染防止のため教会に集まることができない間に、様々な場所で“出会わされた相手”と“協力”していく中で様々な出来事が起こされました。“出来事として伝わる”という“協力伝道”の新たな側面を見せられているように感じています。そして、それは私にとって“福音”でした。

感謝と祈りの掲示 プロジェクト

3月から教会での礼拝を含めたすべての集会を中止し、あらゆる手段で教会内に対してはできる限り礼拝環境を整えました。しかし、教会の外に向かって発信している情報は、教会での礼拝や各集会の中止のお知らせのみでした。そこで、1000枚もの“ムダ”になったイースター集会のチラシの一部を切り取って

カードにし、言葉を書き込んでもらい玄関前掲示板に貼り出す“感謝と祈りの掲示板プロジェクト”を始めました。すると瞬間に教会関係者のみならず、道行く人たちもたくさん言葉を寄せてくれました。朝ポストにそっとカードが入れてあったこともあり。集まりすぎて、集会案内を外し、“人を呼び込むための掲示板”から“地域の人々と共に発信する掲示板”へとその内容が一新されました。それでもスペースが足りず、向かいのコンビニにお願いすると、快く店前に看板を置き、店内に書き込みスペースも設けてくれました。

その後、教会附属のひかり幼稚園、リビングホープ教会、札幌YWCA、更に千葉教会や宇美教会もプロジェクトに参加してくださり、感謝と祈りの言葉は海を越えて広がりました。また、カードで具体的に名前を挙げたお店や施設、会社の皆さんから感謝の応答が寄せられ、そのやり取りの中から新たなプロジェクトも生まれていくことになったのです。



地域助け合い弁当配達 プロジェクト

近所の中華食堂が、外出自粛要請の影響で閉店も視野に入れていると聞き、居ても立ってもいられず、テイクアウトメニューのチラシ作りを手伝ったことから、別の居酒屋のチラシ作りも手伝うこととなりました。そのチラシを見た高齢の教会員が「配達してくれるなら頼めるのに…」とつぶやいたため、客足の途絶えた飲食店と、食事

地域助け合い
弁当配達プロジェクト

期間・数量限定

おいしい♡届けたい

弁当1個につき+100円で
お店の“おいしい”をご自宅に!!

配達可能エリア：南9-35条、西6-23丁目
配達可能日：火～土曜日（日・月はおやすみ）
メニューは裏面および各店のチラシをご参照ください
お弁当は当日の内にお召し上がりください

【注文方法】
①お弁当を注文したいお店に電話する（前日19時まで）
②弁当の種類・個数、名前、住所、電話番号を伝える（※数量限定のため受けられない場合あり）
③翌日11:30-13:00に届く
④配達員に料金を支払う

元祖中国風居酒屋 **へんみ**
注文受付：011-851-1111
サービス弁当 500円（写真は一例）

和食居酒屋 **しりとり**
注文受付：011-851-1111
日替り弁当 500円（写真は一例）

札幌バプテスト教会もこのプロジェクトを応援しています!!



の準備に苦勞する高齢者や子育て世代の双方が助け合うことにつながるよう、弁当を1個からでも届けられるシステムを作れないかと考えたのです。すると、教会員のご夫妻が利益度外視で配達業務を引き受けてくれたため、期間限定の助け合いプロジェクトとして配達サービスを始めることができました。結局5月半ばから6月末までで、両店合わせ517個の弁当が配達されました。このプロジェクトの促進のために、近所の学校や病院、会社や車屋などにも戸別にチラシを配りましたが、普段宗教的な案内は受け付けてくれないところも、「教会さん、こんなこともやっているんだね」と声をかけてくれました。お寺も十数軒回り、エキキュメニカル（超教派的）な出会いも与えられました。

持ってきて・持ってって マスクプロジェクト

「余っているマスクがあれば持ってきてください」と呼びかける取組みは、NPO法人抱樸にマスクを寄付しようとの呼びかけをFacebookで見かけて「パクリ」しました。毎週お弁当を配布している日本キリスト教会豊平教会で配ってもらえることになり、地域の人たちから寄せられた約100世帯分のマスクを届けました。さらに、南小倉バプテスト教会の谷本牧師から聞かせていただいた“どうぞのつくえ”の取組みからもアイ

デアを「パクリ」、マスクを集めているカゴに「持ってきてね」に加え「持ってってね」とも書いてみたところ、多数のマスクがなくなりました。

手作りマスクプロジェクト

教会員の数名が手作りマスクを作り始めたことから、幼稚園関係者や教会の来会者などにも、マスク作りの輪が広がりました。集会を中止していた教会には溜まっていく一方だったため、弁当配達プロジェクトの両店に依頼すると、快くマスクと“ちゃりん箱”（カンパ箱）を店内に設置してくださり、マスクが必要な多くの人たちの手に届きました。そこで教会でもマスクと“ちゃりん箱”を玄関前に出してみたところ、道行く人たちがマスクを持っていき、カンパも入れてくれるようになりました。

これらのプロジェクトを通し、札幌教会は地域に向かって随分“前のめり”にされた感じを受けています。これまで建物の内で活動し“教会の外”のスペースに思いを向けることなどありませんでした。でもそこは地域の人たちと出会い、交わりのスペースであるに留まらず、時に“協力”することすら可能とするスペースでした。これからそんな地域の人たちとの“協力”を通して、神さまがどんなことを“伝えて”くださるのか、楽しみでなりません。



今、改めて 「教会学校の目的」に目を向ける

時代を生きる教会と 「教会学校の目的」

「教会学校の目的は、その活動を通してすべての人びとがイエス・キリストを信じる信仰告白に導かれ、教会を形づくり、生の全領域において主に聞き、主を証しする生活を確立していくことにある。」

今、この時代のただなかで

2020年度『聖書教育』は「時代を生きる教会」という新しい総主題のもとに新プログラムをスタートしました。新プログラムのスタート、そして、日本バプテスト連盟が結成以来4度目となる機構改革期を歩んでいることなどから、私たちの教会学校推進と『聖書教育』誌の土台とも言える連盟の「教会学校の目的」に改めて目を向ける連載記事を掲載することとしました。「変化」のときだからこそ、プログラムの内容や活動の原点を確認することは重要です。

この連載を企画していたとき私たちは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的に広がり、私たちの『生活様式』に大きな影響を与えるということなど想像だにしていませんでした。そして、今、教会でも昨年までとは全く異なった方法で礼拝の守り、教会の活動を行っています。また、集会や行事を断念しています。このことは教会がまさに「時代」を生きているということ、そして、

社会情勢、政治の判断、経済状況などと教会の活動は切り離せないことを示しているのです。ですから、「時代を生きる」ということは、教会学校の目的が大切にしている「生の全領域」においてキリスト者として生きるということと深く結びついていると言えるでしょう。

「教会学校の目的」と 『聖書教育』誌

第2回連載では教会学校の目的に記されている「主に聞き」という言葉に着目し「聖書に記されている神の言葉」に耳を傾けるということだけでなく『日々の生活の中で、社会の中で、そして、世界の中で語られている「主の言葉を聞く」ということです』と記しました。それが「生の全領域において主に聞き」ということだからです。

ところで2005年から『聖書教育』誌の方針に変化がありました。『聖書教育』は「教案誌」と言われてきましたが、聖書学習のためのプログラム提供を大切にするようになったのです。そして、その意識を明確にするために2011年度より表紙から「教案誌」という表記を取りました。

「教案」というのは学習のためのプランを意味しています。教育用語では「指導案」とも言われるように教師やリーダーといった指



日本バプテスト連盟 常務理事
所沢キリスト教会 協力牧師
中田義直

導者が学習を導くために用いるものなのです。算数でいえば、一桁と一桁の掛け算を習得した児童がこの1時間の授業の中で一桁と二桁の掛け算ができるようになるためにはどのように指導したらよいか、という計画を示したものが「教案」という言葉の意味なのです。この「教案」と同じように用いられる言葉に「カリキュラム」という言葉があります。このカリキュラムというのはラテン語でもともとの意味は「競馬のコース」です。つまり、スタートからゴールに向かう道筋がカリキュラムなのです。このような意味を持っていますから、「教案誌」であった『聖書教育』、そしてそれまでの教会学校運動には「教会学校の目的」に示されているようなキリスト者となるためにどのように人を導くのか、という意識が少なからずあったといえるでしょう。そして、そこでは導き手に主眼が置かれてきたのです。

『聖書教育』は「教案」ではなく「聖書学習プログラム」という意識を大切にするようになりました。ここでは、「学習」という言葉が示すように教える側ではなく、学ぶ者に視点を置いています。つまり、学び手である教会学校メンバーの主体的参加を重視したいという願いがあったのです。

教会学校の目的は「生活を確立していくことにある。」という言葉で結ばれています。

この言葉を生きたものにするのは主体性の確立でしょう。言われたとおり、教えられたとおりに生活するのではなく、「主体的に」生の全領域において主に聞き、主を証しすることを自ら主体的に選び取る。そのような「生活の確立」を「教会学校の目的」は目指しているのです。

「時代」を受け止め、 「今」を生きるために

今回の連載では、第1回と第2回で「教会学校の目的」の時代背景と変遷[へんせん]について考えました。そこに記したように時代状況の変化の中で、改訂がなされ、コメントが付されるなどしてきました。バプテストは人間の考えや思想、価値観、そして、信仰理解についても「絶対的」「普遍的」とすることを拒否してきました。聖書と時代を通し、世界を通し、他者を通して語りかけておられる「神の言葉」に耳を傾け、自らを顧[かえり]み、「信仰告白」を改定することをバプテストは大切にしてきました。ですから、今後「教会学校の目的」が書き改められていくということもあるでしょう。しかし、今、この時に「教会学校の目的」に改めて目を注ぐことを通して、私自身、たくさん大切な「気づき」を与えられたことは本当に感謝でした。

COVID-19の影響によって大きな変化が「強いられている」この時代を私たちは主体的に受け止めたいと願います。そして、「今」この時に、迷い、戸惑いの中にあるからこそ、主体的に主に聞き、主を証しする生活を祈り求めていきたいのです。

執筆者紹介



概論・聖書の学び・成人科・
みんなで聴く聖書のおはなし

いまぎれ まゆみ
今給黎 真弓

豊中バプテスト教会 牧師

「よく知っている聖書のお話」を前に、どのように読むかをいつも問われています。だからこそ、いろんな人との聖書の読み解きができるのが楽しいと思います。それまで気づかなかったことに気づいたり、はっとさせられたり、教会学校がそんなわちあいの場になれるとうれしいです。生きて働かれる神の語りかけが新鮮に響いてくるひと時となりますように。



幼小科

あきやま よりこ
秋山 頼子

三鷹バプテスト教会 教会員

執筆者のリモート会議や編集の皆様の丁寧な校閲に多く教えられました。またママ祈り会と称し、子どもたちに執筆したものをテストプレイしてもらい、恵みいっぱいです。私たちの教会で今大事にしている「聖書をよく観察する」ということを（子どもたちのほうが先入観なくできますが）意識して活動にしました。小さなお子さんも、聖書をぱらぱら開くことから、聖書に慣れ親しんでくれたらうれしいです。



青少年科

もり じゅんいち
森 淳一

高崎キリスト教会 牧師

いつも『聖書教育』編集委員として、青少年科の校閲を担当しています。今回は執筆者として青少年科に関わりました。自分がいわゆる「青少年」の年代から遥かに離れてしまった今、その年代の皆さんがどのような思いで聖書に向き合うのかを想像しながら展開例を書いてみました。私の中でのキーワードは「自分」と「他者」です。聖書の言葉を間に置いて、自分自身との、そして、自分の隣を生きる他者との、よき対話の時間が与えられることを願っています。



表紙

みうら
三浦 あや

藤沢バプテスト教会 教会員

「柔らかな王さま」

子どもの頃「わたしたちはロバの子です」という賛美歌が好きでした。歌詞には、ロバは馬のように早く走れないし強くもない、だけどイエスさまを背中に乗せてエルサレムへお連れする大切な働きをしたことが歌われています。ホサナ!と喜ぶ民衆と対象的にイエスさまを敵視する人々もいるエルサレムの様子を、光と闇の構図で描きました。マタイ福音書を通して、イエスさまがどのようなお方で、どんな人と歩んだのか学んでいきたいと思ひます。

編集後記

編集人 長尾なつみ（府中キリスト教会 牧師）

コロナ危機の中で、なんとか「教会学校」をしたくて手探りで始めたリモートシステムにもだいぶ慣れてきました。嬰幼児クラスのメンバーは、リーダーの聖書のおはなしの後、応答として、自分の大好きなおもちゃやこれからの楽しい予定を目を輝かせて

紹介してくれます。そしてカメラの前で一緒にお祈りをします。成人科クラスの80代、90代のメンバーが果敢に新しい機械に取り組んでくださっている姿にも励まされます。この「時代を生きる教会」が、その教会らしいやり方を選び取ってほしいです。

【お詫びと訂正】

- ・ 2020年7・8・9月号P.47: 青少年科「聖書から…」7行目「杉原大使」を「杉原領事代理」に訂正。
- ・ 2020年10・11・12月号P.21「聖書の学び」10行目「ニルダブ」→「ニルダフ」に訂正。

- ・ 同号P.37: 幼小科ワークシートにおいて「いのち」と「おかね」が同列に比べる項目に挙げておりますが、なにもにも代えがたい「いのち」を比べる対象といたしましたことは相応しくないものでした。お詫びして訂正いたします。
- ・ 同号P.67: 幼小科ワークシート左側3

- 段目の丸枠内「われらを～すくいだしたまえ」を「われらを～すくいだしたまえ」に訂正。
 - ・ 同号P.70左側下から8行目「イスラエルの第三代の王ソロモン」を「イスラエルの第二代の王ダビデ」に訂正。
- 以上、お詫びして訂正いたします。

この時代に 「マタイによる福音書」を読む

豊中バプテスト教会
牧師 いまぎれ 今給黎 眞弓



インマヌエル

マタイ福音書では、イエスの誕生の物語の中でイエスの名が「その名はインマヌエルと呼ばれる」(1:23)と記され、最後の弟子たちを派遣する場面では、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(28:20)との約束が語られます。インマヌエルに始まり、インマヌエルに終わるのがこの福音書の特徴といっても良いでしょう。それは、神がどこまでも人に寄り添い続ける方であることをあらわしています。そしてその神の寄り添いから外れる人は誰もいないのです。

外された人々によって

マタイ福音書は、イエスの系図から始まります。アブラハムから始まる、神が人間に伴われた壮大な歴史を思い浮かべさせます。私がおににいることが、誰かとのつながりの中で生かされていることに思いを向けさせます。そしてその系図の中には、異邦人や女性たちが含まれています。ユダヤ的な表現の中に、独善的な選民意識ではなく、多様な人々によってその歴史が紡がれていることを謳っているかのようです。異邦人の信仰が褒められ、おんあなたが証言者になっていくのです。「信じている」と言うユダヤ人たちではなく「行動す

る異邦人」が称賛されています。誕生の時も、エルサレムへ入る時もエルサレムの人々(約束されたはずの人々)は不安を抱くのです(2:3、21:10)。神から選ばれた最も小さなひとりであったはずの人々がいつの間にか大きく強くなって、イエスの登場(神の介入)に不安を感じるのです。どこか「神の側に立っていた人々」が揺さぶられていきます。

証言者として

弟子たちは、「最も小さい者」として生き、最も小さい場所から「天の国」を語り、人々を癒し解放するわざへと召し出されました。現代の教会もまた、イエスを証しする書物としての聖書を前に「私たちはどう生きるか、誰とともにどこに生きるのか」を問われます。マタイ福音書にはたくさんのマリアが登場します。当時の女性たちは多くが「マリア」だったといわれています。数に入れられなかった女性たちが名前と呼ばれ、証言者となったように、私たちも私たちの生を通して証言者とされています。当然のように考えていたことが揺さぶられることによって、今の立ち位置が問い直され、イエスが生きた場所へと方向転換を促されていくのです。そしてその歩みには、「わたしは共にいる」との約束が響いてくるのです。

これはわたしの愛する子

聖書

マタイによる福音書3章13～17節

暗唱
聖句

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、
天から聞こえた。マタイ3：17

40
課

1月3日

その時

神の業には「時」があります。たとえば歴史の初めから終わりまでを貫く神の時、約束された預言の成就としての時、そして「今」を生きる私たちの時など。

バプテスマのヨハネは、荒れ野で「悔い改めよ、天の国は近づいた」と「神の支配（天の国）の時の到来」を宣言し、それに呼応した人々がバプテスマを受けていました。ヨハネは「わたしは、低みから見なおさせるために、水におまえたちの身を洗っている」（3：11）（『小さくされた人々の福音』本田哲郎訳 新世社）と語りました。「悔い改め」は「方向転換」を意味します。単に心の中が変わるだけでなく、価値観、行い、全存在がひっくり返るということです。だからふさわしい実を結ぶことを人々に迫っていました。そのような時にイエスが来られたのです（3：1～12参照）。

ヨハネのびっくり

ヨハネは、イエスがバプテスマを受けるために来られたのを見て、思いとどませようとして、「後から来る優れた方」がイエスだと分かったのでしょう。バプテスマを授ける人と授けられる人の関係を考えると、「より優れたものが授ける」のが当然と考えます。しかし、イエスは、「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」と答え、ヨハネからバプテスマを受けられるのです。ここにひとつの逆転が起こります。ヨハネに

してみれば、自分の方がイエスからバプテスマを受けねばならないのに、イエスが自分からバプテスマを受けるなんてと驚いたでしょう。バプテスマを授ける側と授けられる側の逆転によって、ヨハネの価値観がひっくり返されます。

正しいことを行うのは

とまどうヨハネにイエスは言います。自分がバプテスマを受けることは正しいことだと。「正しいこと」とは「義を満たす」（岩波訳）ことであり、「抑圧からの解放に関わること」（本田訳）です。イエスは、バプテスマ（水への沈め）にその解放の業を見ているのではないのでしょうか。しかも「我々にふさわしいこと」とおっしゃり、ヨハネはもちろんのこと私たちをも解放の業に参加することに招いておられるのです。人間の解放の業は、「誰かがやってくれる、スーパースターが登場して完成してくれる」ものではなく、共にあずかり、共に悔い改め（方向転換し）ながら成し遂げていくものです。そのような歩みが「義を満たす」ことを完成し、「ふさわしい実」を結ばせてくれるのです。その道を「一緒に行こう」とイエスは促しておられるのです。

水の沈め

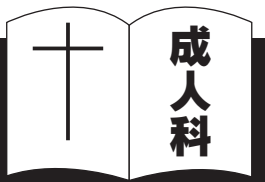
悔い改めに導くバプテスマは水に沈めることでした。水は命を象徴し、同時に死をも象徴します。すべての命は水がないと生きていくことができませんが、その水は破壊的な力

によって命を奪^{うば}うこともあります。命と死が混在する水によって見えてくるものがあります。「命と死」、「聖と俗」、「善と悪」さまざまなもの混在しています。それが私たちの生きる世界でもあります。イエスは、その世界に身を沈められたのです。混沌^{こんとん}の中で低みに置かれた、うめきつつ生きる者たち（いのち）につながっていかれたのです。そのことによって低みに置かれた者たちにも、低みを作り出している者たちにも解放がもたらされます。

水から上がると天が開いて神の霊が鳩のように降り「これはわたしの愛する子、わたしの心に適うもの」との声が響きます。「心に適う」は直訳すると「わたしは彼を喜んだ」（岩波訳）となります。水に沈み、いのちにつながるイエスは、神の喜ばれる姿でした。イエスがつながってくださったことによって、私

準備のための聖書日課			
28日	㊦	マタイ3:1~12	神が来られる
29日	㊧	マルコ1:1~8	罪の赦しを得させるために
30日	㊨	ルカ3:1~20	わたしよりも優れた方
31日	㊩	ヨハネ1:19~28	わたしたちに近づく神
1日	㊪	詩編2:7~12	お前はわたしの子
2日	㊫	イザヤ42:1~9	主の霊の働き

たちもまた神から「私の愛する子」との声を聴くことができるのです。そこからイエスの「一緒に生きよう」という招きに立ち上がっていくことができるのです。



- イエスが水の中に沈められたのは、いのちと死、聖と俗、善と悪等、

対立するものが混在するところに身を置かれる沈めでした。バプテスマを受けて「自分たちは清められた」と安心してしまっていることはありませんか。そして誰かを「まだ清められていない、向こう側の人」と枠をつくってしまうことはありませんか。バプテスマを受けた時のことを分かち合ってみましょう。それぞれの体験、言葉があります。今はどうでしょう。「悔い改め」は、方向転換を意味します。どこに向かっての方向転換でしょう

か。新しい年を迎えて、それぞれに示されていることを分かち合ってみましょう。

- 天からの「これはわたしの愛する子」という声は、イエスを通して私たちにも響いてきます。そこが信仰の出発点です。神さまから愛されていることをどのように受け止めているでしょう（たとえば、良いことが起こると神さまから愛されていると感じる。では、その逆は?）。「ねばならない」に縛^{しば}られていることはありませんか。愛への応答としての生き方はどのようなものだと思いますか。

これはわたしの愛する子

聖書 マタイによる福音書3章13～17節

暗唱聖句 「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。マタイ3：17

40課

1月3日

神さまの「時」があるということを考えてたことはありますか？「時」とか「時間」なんて、過ぎてしまえばみんな同じなのでしょう。私たちが考える「時」と神さまの考える「時」は、違うのでしょうか。

バプテスマのヨハネという預言者がいました。ヨハネはらくだの毛衣を着て、腰に革の帯を締めて、いなごと野蜜を食べものとしていました。そのヨハネが荒れ野で、人々に大声で叫んでいます。「悔い改めなさい。天の国は近づいている」。そして「私よりもすぐれた方がいらっしゃる」と、神さまが約束された救い主がこられることを人々に伝えていました。

その叫び声を自分の心にしっかりと受け止めて神さまを信じる人々が、エルサレムやユダヤ全土、ヨルダン川沿いの地方から次々にやってきて、ヨハネからバプテスマを受けました。その人々の行列の中にイエスさまもおられました。ちゃんと順番を待って、並んでおられるのです。ヨハネは、びっくりして思わず「ちょっと待ってください。いやいや、私こそあなたからバプテスマを受けるべきなのに、私があなたにバプテスマを授けるなんてとんでもないことです。立場が逆ではないですか」。しかし、イエスさまは「いいえ、今は止めないでください。神さまが決められたことをすることは、私たちにふさわしいことなのだから」と静かに言われました。ヨハネは、イエスさまの真剣なまなざしに応えるように、言



われたとおりにバプテスマをしました。みんなが受けたのと同じようにイエスさまも水の中に沈んでいけます。イエスさまの体は完全に水の中に沈みました。

イエスさまが水から上がられると、天が開いて神さまの霊が鳩のように降りてきて「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなうもの」という声が響きわたりました。その声を聞いた人々は、まるで苦しみから解放されたような気持ちになりました。「もうダメだ」と思っていたても、もう一度、立ち上がる力を神さまからいただくことができると感じたのです。

神さまの「時」は、なかなかわかりにくいことなのかもしれません。しかしそれは、今の苦しい「時」を生きる私たちに、水の中に一緒に身を沈めてくださるイエスさまが、「共に生きよう」と招いてくださるのです。

これはわたしの愛する子

聖書

マタイによる福音書3章13～17節

暗唱
聖句

「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、
天から聞こえた。マタイ3：17

40課

1月3日

聖書から…

皆さんはイエスさまがバプテスマを受けられたことを知っていますか？ バプテスマって、どうして受けるのでしょうか？ 受けている人は、どうして受けたのか、自分が書いた信仰告白を思い出してみるのもいいでしょう（覚えていますか？）。受けていない人は、どうして人はバプテスマを受けるのか、考えたことはありますか？ バプテスマを受けないと「天国に行けない」と考える人もいます。イエスさまは、天国に行くためにバプテスマを受けたのでしょうか？ 今日箇所を読むと、どうもそうではなさそうです。マタイ福音書は「悔い改めに導くために…水でバプテスマを授けている」（3：11）と、その理由の1つを記しています。

では、イエスさまは「悔い改め」が必要だったのでしょうか？

「聖書の学び」に「悔い改め」とは「方向転換」のこととありました。それは心の中も、そして生き方も変えられることです。さらに「方向転換」ですから、変えられる「方向」があります。それは水に沈むという「方向」です。「水は命を象徴し、同時に死をも象徴します」（聖書の学びより）。イエスさまは、バプテスマを受けることによって、命と死とが混在する私たちの世界に身を沈め、そこに生きることを決心されました。そのイエスさまの決心を「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言って、神さまは喜ばれました。命と死とが混在する私たちのこの世界に、イエスさまは共に生きてくださいます。

分かち合おう

- 「バプテスマ」について話し合ってみましょう。「バプテスマによって人は救われる」と聞いたり、言われたりしたことはありませんか？ しかし、バプテストの教会はバプテスマを救いの手段（ sacrament・秘跡）とは理解していません。「バプテスマ→救い」ではなく、「救い→バプテスマ」です（『いま、バプテストを生きる』「バプテストの礼典」P.24 参照）。このことを考えるとき、皆さんにとっての「バプテスマ」とは何でしょうか？
- 「バプテスマ」は、イエスさまの私たちへの生き方の招きです。水に沈み、低みへ降るイエスさま。でも「低み」へ降る生き方の招きとは、普段私たちの周りではほとんど聞かない言葉ではないでしょうか？ 「速く・高く・強く」が称賛されるような世界にあって、普段聞き慣れた言葉ではなく、異質な言葉（悔い改め・方向転換）にこそ私たちが本当に立ち止まるべきものがあるのではないのでしょうか。

これはわたしの愛する子

聖書 マタイによる福音書3章13～17節

暗唱聖句 「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。マタイ3：17

40課

1月3日

聖書から…

イエスさまは神さまの子どもなのに、悔い改めのバプテスマを受けられました。なぜでしょう？ それは私たちがイエスさまをお手本にできるようになるためです。

イエスさまが水の中から上がられたとき、天の窓が開くのが見え、神さまが「これはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ」と言われた声を聞きました。ですから私たちがバプテスマを受け、神さまのいのちにつながることを表すとき、神さまの喜ぶ声を聞くことができますのです。

みなさんの教会ではどんなバプテスマがありましたか？ きっとその時、教会が喜びで満たされたことでしょう。

活動①

「これは私の愛する子！」

- ①風船をつかって「これは私の愛する子！」といいながらメンバー同士でパスしましょう。落とさないで何回できるかな？
- ②「どうしてかわかるかな」（『ふくいんこどもさんびか』4番 日本児童福音伝道協会）これはわたしの愛する子！とってくださる神さまに向かって喜びいっぱい賛美しましょう。
歌詞に合わせて、「わ」という言葉が出てきたら、両手で輪を作り、「け」のときは、自分の髪の毛をつまんだりして、振り付けをしながら歌ってみましょう。「うれしいなうれしいな」で、手をたたく、

「救ってくれたから」のときには、「ドジョウすくい」のようにしてみるのも面白いです。

※インターネットで検索すると、歌詞をみることができます。



「わ～ け」



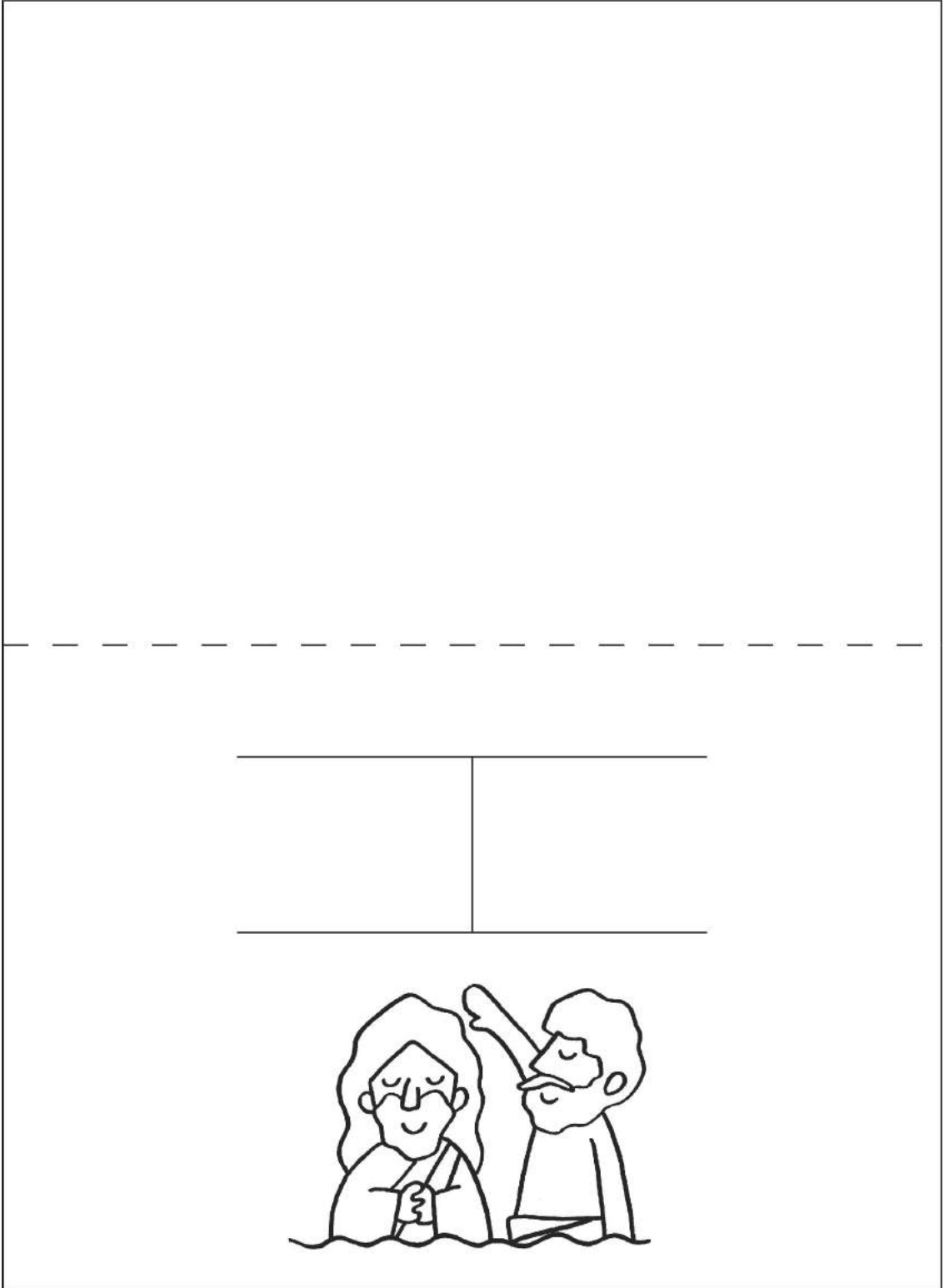
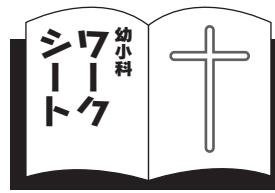
「すくってくれたから～」

活動②

ワークシート

「天の窓が開いて…」

- ①教会で行われたバプテスマを見たことはありますか？ リーダーやメンバーのバプテスマの様子を写真などで振り返りながら話し合ってみましょう。教会のバプテスマストーリーがどこにあるか見学するのもいいですね。手ざわり、におい、大きさなど、できる限りの感覚を使って感じてみましょう。
- ②ワークシートの天の窓が開いて暗唱聖句がでてくるカードを作りましょう。
 - ㊶ワークシートの絵に色をぬります。
 - ㊷天の窓にあたる実線をカッターで切ります。
 - ㊸点線を山折りにします。
 - ㊹㊸で切った天の窓を開き、開いたところに今日の暗唱聖句を書いたらできあがり。



霊に導かれて

3章で「これは私の愛する子」という天からの声が聞こえました。そのすぐ後に荒れ野に導かれ、悪魔から誘惑を受けます。荒れ野へとイエスを招くのは「霊」です(4：1)。抑圧からの解放にかかわるバプテスマから始まったイエスの歩みは、一直線にエルサレムへ向かうのではなく、人間の現実を象徴する荒れ野での試みに向き合われるのです。荒れ野は、イスラエルの40年間の放浪の旅を思い起こさせます。荒れ野での困難な旅は、同時に神の備え、守りの中を行く旅でした。空腹や渇き、強い敵との遭遇、リーダーの不在、命の危険の及ぶ厳しい道のりは不安に満ちています。その旅のすべてにおいて神は必要を満たし、守られる神でした。イスラエルをねたむほどに愛し、その背きに対しては、滅ぼしつくしてしまおうかというほどの怒りを発する神でした。そこに見えるのは、人間のどのようなもなさや神の変わらない愛でした。そして人間の神への姿勢に一喜一憂する神です。「神の試み」は相手を信頼しているからこそのものでしょうか。「このことに対してあなたはどのように答えるのか、反応するのか」と神はイスラエルに対して期待をもって臨まれていました。

神に信頼する

荒れ野の誘惑は、イエスが神に対して全幅の信頼をおいているかということが問われています。

パンの誘惑は、40日40夜断食をして空腹を覚えたイエスにとっては、大きな誘惑です。人間が生きる基本的な欲求です。目の前の石をパンに変えることができたらどんなにいいでしょう。切実に必要なものが、ぱっと目の前にあらわれたら。また、安全・安心が保障されることは人にとって大切なことです。「本当に神は守ってくださるのだろうか」と心配になる思いはいつでも湧いてきます。また「力があれば」という欲求もあります。自分勝手に力をふるうだけでなく、良いことをするために力があればと思うことがあります。高い山から見下ろした風景の中には、繁栄の陰で貧しさにあえぐ人々も見えていたことでしょう。力があればその人々を救うこともできる。

しかし、それらの誘惑に対して、イエスは抗い、徹底して神に信頼します。荒れ野のどのような揺さぶりの中でも、神の守りは揺らぐことがないことを、神の言葉に信頼して貫き通すのです。

最も大切な戒めとして示された「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(22：38)との言葉が思い起こされます。これは心もからだもひっくるめて全体で神を愛しなさいということです。まず神の揺るがない愛があるのですから。

力ではなく神の言葉

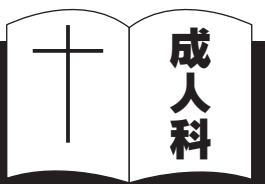
天から響いた「神の愛する子」の意味している姿をこのイエスに見ることができます。

「神の子」なら特殊な力を持ち、それを振るうことができるというイメージを打ち砕きます。

石をパンに変えることができるような力を求めず、そもそも力で人々を支配するようなあり方を退け、ただ「神の言葉」に信頼する人間イエスの姿がここに 있습니다。悪魔も「神の言葉」を使って試してきますが、それは神になり代わろうとする姿です。詩編91編を使って、「神の守りがあるから飛び降りたらどうだ」と誘惑します(4:5～6参照)。神が自分の都合通りに動くかどうかを試してみると。しかし、その詩編は、どのような敵に対しても神の守りが固くあることへの信仰告白の言葉です。悪魔は自分の言いたいように聖書の言葉を巧みに使ってきますが、神への信頼をゆるがせ、神以外のものを拝ませようとするものです。また、悪魔の誘惑はいか

準備のための聖書日課			
4日	①	申命記8:1～10	主の言葉によって生きる
5日	②	申命記6:16～25	主を試してはならない
6日	③	申命記6:4～15	主のみ仕えよ
7日	④	詩編91:3～13	主の助けと守りを信じて
8日	⑤	マタイ6:9～13	誘惑に遭わせず
9日	⑥	マルコ1:12～13	荒野のイエス

にも尤も^{もつと}そうな姿で迫ってきます。しかし、伏し拝むべきは神さまのみ。ほかの何者も代わることができませんし、自分自身が神となることはゆるされないのです。



成人科

● イエスも誘惑に遭われたことに思いを寄せましょう。誘惑とは、神さまの愛を疑わせ、神さまへの信頼をなくさせるものです。イエスは揺らぎませんでした。「主の祈り」の中に、「私たちが誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」(マタイ6:13)とありますが、私たちも誘惑の多い中を生きています。どのような時に「誘惑」を感じ、どのように向き合っているでしょう。奇跡や力を選び取らなかったイエスの姿に何を感じますか。

● 「力を持っていること」は魅力的です。神さまは私たちに力を与えられました。それはどのような「力」でしょうか。良いことをするためにも力が欲しいと思いますが、間違った用い方をすると「暴力」になります。さまざまなハラスメントの問題は深刻です。私たちの用いる力が暴力になっていると感じることはありませんか。それはどのような場面でしょう。時に、私たち自身が、力に頼り神さまさえも利用してしまうことはないでしょうか。例えば、聖書の言葉を用いて誰かを排除するような。人を生かす神の言葉に信頼するということ、「ただ主に仕えよ」と言われていることを考えてみましょう。

力ではなく神の言葉で生きる

聖書 マタイによる福音書4章1～11節

暗唱聖句 「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」 マタイ 4：4

41課

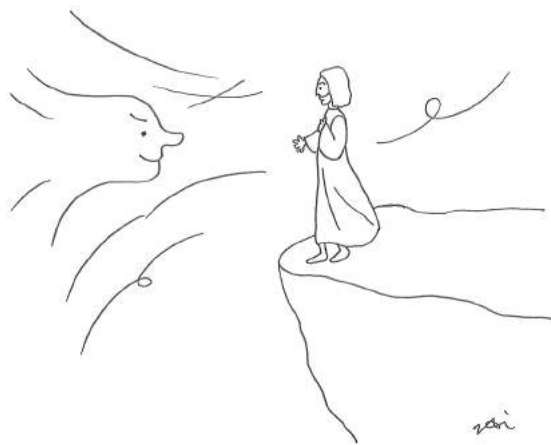
1月10日

ヨハネからバプテスマを受けたイエスさまは、神さまの力を受けて、真っすぐに神さまを礼拝するエルサレムへ向かうのではなく、たくさんの危険がある荒野へといかれます。神さまがそれを導かれ、見守っておられたのでしょうか。

イエスさまは、40日間昼も夜も断食をして祈っておられました。そこに、誘惑する者がやってきて、「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ」とささやきます。イエスさまは、おなかがぺこぺこです。目の前の石がパンになったらどんなに良いでしょう。イエスさまが神さまにお願いしたらそうなったかもしれません。生きていくためにパンは必要です。でも、そんな奇跡よりももっと大切なのは、神さまの言葉です。神さまの言葉こそが、人のいのちを生かすものです。一番大事なのは、神さまの言葉です。

誘惑するものは、次の手を出してきます。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使に命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』」と、聖書の言葉を巧みに使って、もっともらしいことを言うのです。飛び降りたら、本当に神さまが助けてくれるかしら、そんな心配がよぎったでしょうか。いいえ、イエスさまは、きっぱりと「あなたの神である主を試してはならない」と言われました。

しかし誘惑する者は諦めません。非常に



高い山へ連れていって、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と、この世のすべてを好きにできる権力をほのめかします。イエスさまには、その高い場所から豊かな暮らしをしている金持ちたちの陰になって貧しさに苦しむ人々の悲しむ顔が見えていました。もし「力」があれば、その人々を救うことができるかもしれない、そう思うとイエスさまの心はますます締め付けられました。それでもイエスさまは、「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』』と言われて、権力をもつことなく、へりくだって神に仕えることこそが大事なのだと示してくださいました。

イエスさまは、たとえどんな誘惑があったとしても、力ではなく神さまの言葉に信頼することを貫き通されたのです。伏し拝むべき方は神さまだけです。他の何も神さまに代わることはできないし、まして自分自身が神さまになってしまっってはいけないのです。

力ではなく神の言葉で生きる

青少年科



41課

1月10日

聖書

マタイによる福音書4章1～11節

暗唱
聖句

「人はパンだけで生きるものではない。
神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」マタイ4：4

聖書から…

イエスさまは霊によって荒れ野へと導かれ、悪魔の誘惑を受けられました。聖書で「荒れ野」と聞いて思い起こすのは、旧約聖書「出エジプト記」の話です（聖書の学びより）。モーセがリーダーとなって、奴隷となっていたエジプトを脱出したイスラエルの人たちでしたが、荒れ野を旅する中で不平・不満を口にし、次第に神さまを信頼して旅を続けることができなくなりました。荒れ野を旅した人たちの目には、神さまが生きるために必要な食べ物や飲み水を備えてくださるといふ恵みの伴いではなく、食べる物も飲む物も見つからない荒涼とした世界だけが広がっていたのかもしれない。

イエスさまも、エジプトから脱出し荒れ野へと導かれたイスラエルの人たちのように、霊に導かれ、荒れ野に行かれました。「空腹を覚えられた」（4：2）というイエスさまでしたから、食べる物も飲む物も見つからない荒涼とした世界がその眼前に広がっていたのではないのでしょうか。イエスさまはその荒涼とした世界を目の当たりにしながら、何を見つめておられたのでしょうか？ 私たちは、どうでしょうか？ 私たちの日常生活の中にも「荒れ野」を歩むようなときがあるかもしれません。ただ荒涼とした世界が広がるようにも感じてしまう現実の中に、私たちは何を見つめるのでしょうか？

分かち合おう

- 今週の暗唱聖句は4章4節です。暗唱聖句を覚えながら、その言葉について率直に感想を分かち合ってみましょう。たとえば「人はパンだけで生きるものではない」と、イエスさまは言われました。これは食べ物があるときには言えても、そうでないときには口にすることさえ難しい言葉ではないのでしょうか。しかしその言葉は40日間の断食の後、空腹を覚えられたイエスさまから発せられたものでした。空腹時に語られた「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」。イエスさまはどのような思いで語られたのでしょうか？
- 私たちも「荒れ野」にいるように感じることはありませんか。自分の思い通りに事が進んでいかないとき、石をパンに変えるが如く「自分の思い通り」を願う私たちもあるでしょう。でも「荒れ野」に神さまはおられないのでしょうか？ 「自分の思い通り」ではない現実を生きる私たちがいます。イエスさまも、その現実を生きられました。そこに「荒れ野」を生きるような私たちへのメッセージがあるのではないのでしょうか。

力ではなく神の言葉で生きる

聖書 マタイによる福音書4章1～11節

暗唱 聖句 「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」 マタイ 4：4

41課

1月10日

聖書から…

バプテスマを受けられた後、イエスさまは、荒れ野でサタンの誘惑にあわれました。サタンの誘惑はたくみです。満たされること、神さまの守りを信じて生きること、人々を助けて神さまの国を築くこと、どれも大切なことです。しかし、イエスさまはサタンの思い通りには動きませんでした。また神さまにお願いしてスーパーパワーを発揮するようなこともしませんでした。ただひたすら神さまの言葉に信頼し続けたのです。最も大切な戒め「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(マタイ 22：37) をイエスさまは本当に行われたのです。

活動①

「力ではなく…」

●準備 ●ボウル、材料（片栗粉 100g、水 70g）

カタクリームを作ってみましょう！

- ①材料をボウルに入れて混ぜたらでき上がりです。
- ②急に力を加えると固体になり、力をゆるめると液体になります。食紅で色をつけて遊んでもきれいです。
- ③でき上がったカタクリームを指で突つくと指ははね返されますが、力をぬいて

ゆっくり入れるとその中に指がはいっていきます。この不思議な感触を楽しみながら、みことばの中に身をゆだねていくことを体験してみましょう。

活動②

ワークシート

「絵合わせカルタをつくろう ～サタンの誘惑カード」

ワークシートをコピーして、絵合わせカルタをつくりましょう。

サタンの誘惑カードとそれに対抗したイエスさまカードをそれぞれ一組ずつ、計三組をつくりまます。

イエスさまカードには、聖書に書いてあるイエスさまのセリフを書き込みましょう。

●カードゲームのルール

- ①誘惑カードとイエスさまカード、計6枚を各自が持ち、二人一組になります。
- ②「せーの」で、カードを一枚ずつ出し合います。聖書の通り、誘惑カードに対してイエスさまカードを出せたら、イエスさまカードを出した人の勝ちです。そうでなかったら誘惑カードの勝ちとなります。

*そのほか、裏返しにして絵合わせカルタとして遊んだり、カードゲームのようにして二人で遊んだりできます。

絵合わせカルタをつくろう ～サタンの誘惑カード



① 神の子なら、
石がパンになるように
命じたらどうだ。(4:3)



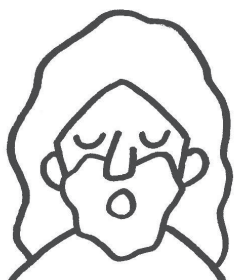
② 神の子なら、
飛び降りたらどうだ。
(4:5)



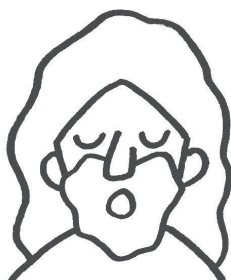
③ ひれ伏して
わたしを拝むなら、
これ(世のすべて)を
みんな与えよう。(4:9)



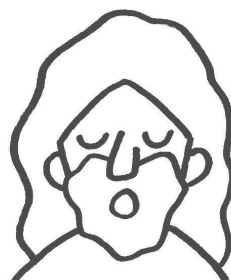
①



②



③



廃止するためではなく 成就するため

「律法や預言者」(5：17)とは、モーセの律法と預言者の書という意味ですが、ヘブライ語聖書全体を指しています。ちなみにルカによる福音書では、「モーセの律法と預言者と詩編」という表現をしています(ルカ24：44)。「律法を廃止する」とは、律法の解釈の幅を広げたり甘くしたりして破壊していることを意味し、「律法を成就する」とは正しい解釈を主張する時の言葉です。ラビたちの議論でいつもこのように使われていたようです。イエスは常にこの議論をふっかけられ、「あなたは律法を廃止するために来た」と言われていました。安息日に麦の穂を食べたり、人々を癒すイエスの活動が「律法破り」に見えていたのでしょうか。「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」(ルカ10：26)との問いかけが響いてきます。

一点一画も

ヘブライ文字は「一点一画」という言葉がしっくりくるような形をしています。小さな点にしっぽが生えているような文字、角の尖った文字とカーブした文字など、ちょっとした違いで意味が変わります。写本をするときには、正確に写さねばならないので大変な苦労があったのではと想像します。どんな小さな点や画も決して消えることがない、つまり律法の権威は永遠であり持続するものだとい

うことを意味しています。それは単に文字だけのことを言っているのではなく、神さまのイスラエル(すべての人々)に対する愛の計画に基づいた律法の大切さです。シナイ山で与えられた10の言葉は、単なる禁止の命令ではありません。そこには、イスラエルをエジプトの奴隷状態から解放された神さまが愛しておられるから「他の神を必要としなくて良い」、神さまがすべてを与えてくださるから、「ねたんだり殺したりする必要がない」という意味合いでした。根底にあるのは、神さまの愛と憐れみです。その神さまとの関係の中で互いを尊重しあいながら生きていくための言葉でした。

あなたがたの義

律法学者やファリサイ派は、律法を細かく調べ「律法を破らないためのきまり」を作っていました。こと細かく書かれている律法を守ることに大事でしたし、守るように人々にも教えていました。聖書に登場する「罪人」とは「律法の決まりを守れない人」のことです。「安息日に働いてはいけない」というきまりがあっても働かざるを得ない人々は「罪人」です。倫理的な良し悪しや犯罪行為ではなく、「律法のきまりを守れているかないか」が判断の材料でした。しかしイエスは、律法学者やファリサイ派の人々の義を厳しく批判します。そんな読み方をするのであれば、兄弟に対して腹を立てる者は裁きをうけ、「ばか」と言う者は最高法院に引き渡されるべきなのです(5：22)。表面に出てきている事

柄ではなく、その根底にあるものを問うているのです。「殺すな」というより、殺しに至る思いが問われています。

マタイによる福音書 12 章には、安息日に麦の穂を摘んで食べたり、癒しを行われたイエスにファリサイ派の人々が言い募る場面があります。「安息日には何もするな」との掟より、イエスは安息日に何をされたかに目を留めたいと思います。神さまが求められたのは「憐れみであって、いけにえではない」(マタイ 12:7、ホセア 6:6 参照) のです。律法の決まりを守ることによって神さまからの救いは得られません。神さまの救いはそもそもそのようなものではないのです。

人間の努力ではなく、神さまから与えられる義によってしか救われないのです。「あなたがたの義」は、イエスによって示された神

準備のための聖書日課			
11日	㊦	ルカ10:25~37	あなたはどの 読んでいるのか
12日	㊧	出エジプト記 34:27~28	十の戒めからなる 契約の言葉
13日	㊨	マタイ5:21~26	途中で早く和解せよ
14日	㊩	マタイ12:1~8	人の子は安息日の主
15日	㊪	ホセア6:4~6	愛と神を知ること を求めよ
16日	㊫	マタイ5:13~16	天の父をあがめる ために

さまの愛を受け取り、いのちと解放の歩みへと踏み出すことです。それなしには、天の国に入ることはできないのです。



成人科

- ゆるしと解放を告げ知らせる福音(喜びの訪れ)だったはずの「聖書」

が、誰かを縛るものとなっていないでしょうか。聖書は、時代も場所も違ふところで語り継がれていたものが文字になり、編集・編纂されたものです。しかも私たちは、多くの言語に翻訳されたものを手にしています。生ける神さまを指し示すものとして聖書を大切にしますが、絶対化はしません。「聖書をどう読むか」という問いかけは、私たちが聖書を解釈することができるということです。学者や経験・知識の多い人々のものではなく、「わたしが神学する」ことが許されているのではないのでしょうか。鍵になるのは、「そ

れが人を生かすものであるかどうか」というところです。成人科(各科)は特に有効な話し合いの場所です。お互いの解釈を聴き合しましょう。「正しい解釈」というよりも、その人にとって大切な事柄としての聖書の読みを聴き合い、対話することができます。

- 1995年1月17日阪神淡路大震災が起きました。その場にいた多くの人々にとっては忘れてたくても忘れられない日です。地震や豪雨災害などの自然災害は起こり続けています。被災地の方々、その後を生きる方々を覚えて祈る時をもちませんか。

自由にする律法

聖書

マタイによる福音書5章17～20節

暗唱
聖句

「わたしが来たのは…廃止するためではなく、完成するためである」
マタイ5：17

42
課

1月
17日

イエスさまは、山の上で人々に教えておられます。人々は、その教えを一生懸命に聞きました。「幸い」とは何か、「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」、そして大切な律法のことについても話してくださいました。

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだと思ってはならない」。聞いている人たちはドキッとしました。人々が一番大切にしている「律法」や尊敬する預言者について、いったい何を語るのだろう。みんなの目がイエスさまの語られる言葉に注目します。「わたしは、律法を廃止するためではなく、完成するために来た」。これは、いったいどういう意味なのだろうか。イエスさまは、続けて大きな声で言われました。「はっきり言っておく。すべてのことが実現し、天地が消え去るまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない」。

旧約聖書はもともとヘブライ語で書かれました。ヘブライ語の文字は、小さな点にしっぽがはえているような文字や、角のつがった文字とカーブした文字などがあります。よくよく目を凝らしてみないと区別がつかないこともあります。その小さな点や画一つも消え去ることがないのです。とても大切な神さまのおきて（律法）です。

かつてモーセがシナイ山で与えられた10の言葉は、「～してはならない」という、単なる禁止の命令ではなく、「他の神を必要としなくてよい」という神さまの愛がい



っぱいつまった言葉でした。神さまが愛してくださっているから、他の神さまはいらない。神さまが必要なものを備えてくださるから、他の人のものを欲しがらなくても良いということです。あなたたちは、神さまから愛されているから、お互いのことを尊重しながら生きていける存在なのだという言葉でした。

律法学者やファリサイ派の人びとも、律法の「一点一画も」たがわないように「律法を破らないためのきまり」を作って大事にしました。そして「律法の決まりを守れない人」は「罪人だ」といって、何かにつけ神さまから離れているのだと決めつけていました。人々をがんじがらめにしていたのです。イエスさまが大事にされたこととは違っていました。本来の律法は、人々を自由にするものでした。「一点一画も」というのは、文字にされたものを細かく守ることではなく、その基になっている、神さまのたっぷりの愛の中で一人ひとりが自由に生きること、そして苦しみから解放されて歩みだすことでした。

自由にする律法

聖書 マタイによる福音書5章17～20節

暗唱 聖句 「わたしが来たのは…廃止するためではなく、完成するためである」
マタイ5：17

42課

1月17日

聖書から…

皆さんは、聖書はどのような書物だと思いますか？「神さまの教えが書かれている」、それも1つの答えでしょう。ある人は、聖書を読み始めた頃は新鮮な驚きや発見もあり、聖書を読むのが楽しかったそうです。けれども、時が経つにつれて最初の感動は薄くなり、逆に読めば読むほど落ち込むこともあったと言います。どうして聖書を読むと落ち込むのでしょうか？それは聖書が写し鏡のように読む人の姿を浮き彫りにし、読む人の愛のなさや闇の深さを露わにすると感じたからかもしれません。私たちも、もし律法学者やファリサイ派の人たちのように、聖書に書かれている律法の「おろそ一点一画」も疎かにしないように決まりを作って大事にしようとするなら、できない自分に落ち込んだり、できない誰かを批判したりするかもしれません。

けれどもイエスさまは、聖書（律法）をどのような書物と思っているのでしょうか？イエスさまは「律法の文字から一点一画も消え去ることはない」（5：18）と言われ、律法学者やファリサイ派の人たちのように律法を大切にされました。しかしイエスさまにとって聖書（律法）は、事細かな決まりを守るための書ではなく、何よりも神さまの深い愛と恵みを感じることができる温かで優しい書ではなかったのでしょうか。皆さんにとって聖書（律法）は、どのような書物でしょうか。何よりも神さまの深い愛と恵みを感じることができる書であってほしいと思います。

分かち合おう

- 聖書は「神さまからのラブレター」と表現されることもあります。そんな風に聖書を感じたことはありますか？本当に心が沈んでしまったときに、思い出したイエスさまの物語や心に浮かんだみことばがあったでしょうか。
- 学校や社会（教会も）でいろいろな決まりの中を生きている私たち。時折、どうしてこのような決まり（ルール）があるの？…と考えたこともあるでしょう。何のための「決まり」？イエスさまはそのことを問いかけられます。決まりの意味（思い・精神）を問い続け、考え続けていくことが大切ではないでしょうか？律法を「完成」（5：17）することは、イエスさまの仕事です。では、私たち（人間）に求められていることは何でしょうか？

自由にする律法

聖書 マタイによる福音書5章17～20節

暗唱聖句 「わたしが来たのは…廃止するためではなく、完成するためである」
マタイ5：17

42課

1月17日

聖書から…

昔、神さまはモーセを通して私たちに10の戒め（言葉）をくださいました。それは神さまが私たちを愛して守ってくださるから「他の神を必要としなくて良いよ」、神さまがすべてを与えてくださるから「ねたんだり、うばったりする必要がないよ」という意味でした。安心して神さまを信頼して良いのです。人々はこの戒めを一点一画も間違えないで守ろうとするあまり、何百という数の細かいいきまりが生まれました。それは喜んで守るものというより、「守らなくてはいけないもの」となり、人々を息苦しくさせ、守れない人を差別するものとなってしまったのです。

そのような人々にイエスさまは律法を破るためではなく、神さまのみ心、神さまの愛は一点一画も変わらないということを伝えるためにご自分がこられたのだと言われました。

という意味になってしまうので注意！)。
主の：右手をグーにして親指だけ立てる。
(グッドのポーズ)
もの：右手をにぎりなおす

②「イエスさまをキャッチ！」

私たちも、ものも、時間も、すべて神さまのものです。ですから私たちの喜びはそのことを受け入れた時に泉のようにあふれてくるのです。神さまのみ心、イエスさまに見立てた風船を高いところから落として、それをキャッチしてみましよう。取れなくても大丈夫。求める人に神さまは何度も何度も与えてくださいます。キャッチできるようになったら少しずつ重さのあるもので挑戦してみましよう。けがをしないように気をつけてくださいね（丸めたティッシュ、少し水を入れた風船、ぬいぐるみやクッションなど）。

活動①

「すべて主のもの」

①新生讃美歌 109 番「ひとものもときも」（日本バプテスト連盟）を賛美しましょう。

「すべて主のもの」というところに手話をつけてみます。

すべて：両手で大きなOをえがく（Oがちゃんと閉じていないと「ほとんど」と

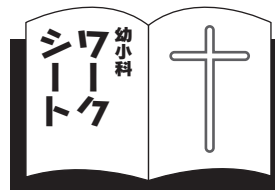
活動②

ワークシート

「一点一画暗号文」

みことばの暗号文が届いたよ。ワークシートの下線部分の言葉に、1～2画を足したり引いたりして、完成させましよう。例を参考に、チャレンジしてみましよう。

三 `ろ `ゝ `Y `国 `王 `幸 `Y `10(5) 幸
`ー `ロ `き `Y(4) 11 `ス `2(3) 幸 `王(2) Y(1)
※答え



みことばの暗号文が届いたよ。

次の言葉の下線部に、1～2画を足したり引いたりして、完成させましょう。

※ヒント：似ている文字を探して《こたえ》の□に入れてみてね。

(例 人、大、犬、天 / マ、又 など)

(1) 犬が独りでいるのは良くない

《こたえ》 □が独りでいるのは良くない

(2) 王はぶどうの本

《こたえ》 □はぶどうの□

(3) その名はイシママエレとよばれる

《こたえ》 その名はイ□マ□エ□とよばれる

(4) 天はパンだけで生さるものではない。

神の日から出る二つ三つの言葉で生さる。

《こたえ》 □はパンだけで生□るものではない。

神の□から出る□つ□つの言葉で生□る。

(5) 必の貧しい大々は辛いである。

大の匡はその大たちのものである。(又クイ五：二)

《こたえ》 □の貧しい□々は□いである。

□の□はその□たちのものである。

(□□イ五：□)

山を下りる

山の上の説教（5章から7章）の後、イエスは山を下りてこられます。すると重い皮膚病（レプラ）を患った人がイエスに近寄ってきます。ギリシア語の「レプラ」は律法に定められた複数の重い皮膚病をさしていたと考えられています。レプラになった人は、「けがれたもの」とされ、社会からも礼拝からも排除はいじよされていました（レビ記13章参照）。またその人に触れた人も「けがれる」と言われていたので、「わたしはレプラです」と大声で叫びながら、人々を遠ざけなければなりませんでした。つらいのは体の機能的な差しさわり以上に、共同体の中で居場所がなくなってしまうことです。すなわち「けがれたもの」とは「しかるべき場所から外れたもの」であり、「清いもの」とは「しかるべき場所にあるもの」といえます（『共観福音書の社会科学的注解』ブルース・マリーナ／リチャード・ロアポー著 新教出版社）。当時の社会には様々な枠があり、その枠から外れた人々は、社会から排除され、神からも見捨てられた人々とされていました。山から下りたイエスは、枠付けや排除の渦巻く中に生きる人間のただ中に入り、切り捨てられた人々に出会っていかれるのです。

わたしはもちろん望む

この個所では、重い皮膚病の人、百人隊長（異邦人）のしもべ、ペトロのしゅうとめ（女性）のいやしがおこります。皮膚病の人が、「主

よ、御心ならば」（8：2）とひれ伏すと、イエスは「私は（もちろん）望む」（8：3 岩波訳注）と、言うより早く手を伸ばして触れていかれます。「けがれた」人に触れることはその「けがれ」を引き受けることとなります。しかしイエスはおかまいなしに、目の前のひとりが回復することはご自分の望みだと言われるのです。

百人隊長は、自分の大切な少年が中風ちゅうふう（脳発作による後遺障がい）に苦しむのがしのびなくてイエスのもとにきました。「私が行って」というイエスの言葉に対して、「ただ、ひと言おっしゃってください」と求めます。権威のもとにある百人隊長は、言葉の重みを知っていました。自分がひと言命令すると、部下は指示通りに動きます。そのようにイエスの言葉は必ず実現する、だから「お言葉」だけで十分だという信頼がそこには見えます。その信頼にイエスは驚き、「これほどの信仰」（8：10）と称賛されます。そして遠く離れたところにいる少年はその時にいやされるのです。

ペトロの家に入ったとき、イエスはしゅうとめが熱に苦しむものをご覧になり、彼女に触れます（他の並行箇所では、執りなす人たちが登場しますが、ここではイエスからの関わり）。レプラの人への接触もそうですが、男性が女性の手に直接ふれることは非常識なことでした。私たちが福音書の中にたびたび発見する「触れるイエス」は実は驚くべき姿なのです。熱から解放されたしゅうとめは、イエスをもてなします。「もてなした」と訳されたディアコネオーは「仕える、奉仕する」という言葉の未完了形ですからイエスに「仕

え始めた」(岩波訳)と訳されて良い個所です。そして多くの病人がこのようにイエスから(癒しを)望まれ、触れられ、解き放たれて、招かれていったのでした。

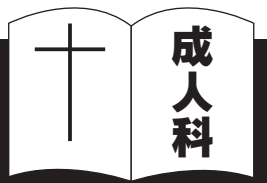
イエスの権威

「権威」とは、自ずとそれに服従せざるを得なくなるものではないでしょうか。百人隊長が持っていた権威は、序列の力関係から生じるものでした。しかし、イエスの「権威」は、強い力ではなく、愛と慈しみから生じるものでした。

誰かが痛んでいるとき、傷んでいる人の傍らに立とうとする人がいるとき、自分では声も上げられないような人を前にしたとき、動

準備のための聖書日課			
18日	㊦	マタイ4:23~25	ありとあらゆる病気と悪い
19日	㊧	レビ記13:45~46	わたしは汚れた者です
20日	㊨	レビ記14:1~9	清めの儀式を受けて
21日	㊩	マルコ7:31~37	主の御手を置いてください
22日	㊪	イザヤ53:1~5	病と痛みを担われる方
23日	㊫	マタイ17:24~29	権威ある者として

かずにいられないものなのです。そして、それが人を解放し、立ち上がらせていく力となっていったのでした。



成人科

- イエスが出会われた重い皮膚病を負った人、外国人、女性たちは、

ただ病気を患っているというだけではなく、社会の中で軽んじられ排除されていた人々でした。しかし、イエスは誰に対しても誠実にひとり的人格として向き合います。そしてその人を縛るものから解放し、立ち上がる力を与えられたのです。私たちが元気に生きることを妨げるような枠とはどのようなものがあるでしょう。居心地の悪さや窮屈きゆうくつと感じたことのある言葉があれば、それはどんな「枠づけ」からきている言葉だと思いますか(例えば、「男らしく」「女らしく」「クリスチャンらしく」などの「らしさ」の強要など)。

- イエスは、僕への愛情のゆえにイエスに期待し、行動をおこした百人隊長を称賛しました。それを「信仰」と呼び、受け止めてくださいました。抑圧されていた人が解放されることがイエスの喜びであったように、誰かといっしょに立とうとする姿もまた喜んでくださっているのではないでしょうか。誰かが私の傍らに立ってくれたと感じたこと、祈ってもらった心強さの体験がありますか。また誰かの信仰に驚かされ、それまで抱いていた偏見や枠組みが壊された経験があれば、話し合ってみましょう。

イエスの望み

聖書 マタイによる福音書8章1～17節

暗唱 聖句 「彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った」
マタイ8:17

43 課

1月24日

イエスさまが山から下りてこられると、たくさんの人たちがついてきました。そこに一人のレプラという重い皮膚病の人が、イエスさまの足元にひれ伏して「主よ、もし神さまがゆるしてくださるなら、わたしのこの病気はなおって清くなれるのですが」と言いました。当時このような病気の人には体の痛みだけでなく「罪人だ」と社会で差別され嫌われていたので、礼拝に行くこともできず、居場所もなくなっていたのです。神さまからの罰ともいわれていました。「そうなのかな」と自分でも心配することもあったのでしょう。イエスさまは、その人の目を見ながら、その人の痛むその手に触れていかれました。そして「あなたが元気になることがわたしの望みなのだから」とイエスさまが言われた途端、その皮膚病の症状はみるみる改善したのです。しかしイエスさまは、そのことを誰にも言わないように、ただ祭司のところに行って病気がなおったことを証明してもらうようにと伝えました。

イエスさまがカファルナウムの町へ入られたとき、一人の百人隊長が近づいてきて「主よ、わたしの大事な部下が病気でひどく苦しんでいるので助けてください」と懇願しました。イエスさまはすぐに「わたしが行って、いやしてあげよう」と言われたのですが、百人隊長は「とんでもない、家まできていただくまでもなく、ただ一言だけくださればいいのです。わたしたち兵隊



はみな、上司の言葉に従うのですから」と言いました。イエスさまは、その百人隊長の言葉に突き動かされて言われました。「帰りなさい。あなたが信じたとおりにするように」。そのとき部下の病気はいやされたのです。

そのあとイエスさまは、ペトロの家に行きました。ペトロの義理のお母さんは、高熱で寝込んでいました。イエスさまはすぐに彼女のそばに駆け寄って、その手をやさしく包み込むと、たちまち熱が下がり、お母さんは起き上がってイエスさまに従ったのです。

これらの出来事は、すぐに人々の知ることとなり、夕方になるとたくさんの病気の人たちがイエスさまのところへ連れて来られました。イエスさまはそのすべての人をいやされたのです。その様子を目の当たりにしていた人は、旧約聖書のイザヤ書の言葉を思い出し、それが実現したのだと思いました。

イエスの望み

聖書 マタイによる福音書8章1～17節

暗唱 聖句 「彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った」
マタイ 8：17

43課

1月24日

聖書から…

同じ言葉でも、誰が語るかで、その言葉の重みは変わってくるのでしょうか？ イエスさまが「大丈夫」と言うのと、別の人が言うのとでは違いますか？ もし違うと感じるならば、それはなぜでしょうか。自分の部下の病のいやしを願っていた百人隊長は、何よりもイエスさまの「ひと言」(8：8)を求めました。他の誰かではなく、イエスさまの一言です。どうして「イエスさま」なのでしょう？ まず百人隊長の気持ちになって、ぜひ、みんなまで考えてみたいと思います。

今日の箇所には、その理由は書かれていません。想像すると、この百人隊長はイエスさまの評判をいろいろと聞くことがあったのかもしれない(4：23～25参照)。イエスさまの評判とは、出会うすべての人を心から慈しみ愛してくださる方の姿です。その評判は、「この方なら！」との思いを百人隊長に与えたのではないのでしょうか。この世の権威は、武力や経済力などの力を背景として、その言葉にも重みを持たせようとするでしょう。しかし、イエスさまの権威は違います。どこまでも、どこまでも、一人ひとりすべての命を惜しみなく愛してくださる方としての権威です。私は心から思います。私を愛してくださるイエスさまの言葉…、その言葉は、私にとって何と重くかけがえのないものなのでしょうか。

分かち合おう

- 「フェイク」と呼ばれる嘘の情報が事実や真実をのみ込んで、嘘の情報でつくられた世界の方が「現実」とも成りかねないような時代です。私たちはなぜイエスさまの言葉(ひと言)を求めるのでしょうか？ それは、私たち人間の側の状況に関わらず、イエスさまが変わらぬ愛を信実^{まこと}に注いでくださるからではないのでしょうか。「言葉」にもっとも大切(必要)なものとは何でしょうか？
- みんなでゲームをして楽しみましょう。トランプの「ダウト」という遊び方を知っていますか？ トランプの「A(1)」から順に一人ずつ「2」「3」「4」…、と、自分の出すカードの数を言いながらトランプの数が見えない方を表にして出します。自分の手持ちのカードに出すべき数字のカードがなくても、うそのカードを出すこともできます。もしうそのカードだと思ったら、他の人は「ダウト」とコールし、そのカードを確かめることができます。「ダウト」のルールを、インターネットで検索してみてください。応用編として、聖書各書のカード(同一カードを複数枚用意)を自作するのもいいです。「創世記」から順に出していきます。うそはゲームでもドキドキしませんか？

イエスの望み

聖書 マタイによる福音書8章1～17節

暗唱 聖句 「彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病を担った」
マタイ8：17

43課

1月24日

聖書から…

けがをしたとき、誰かに手を当ててもらおうと、なんだか痛みが少し消えるような感覚になることはありませんか。まさに「手当て」ですね。イエスさまは病気に手を当てて、癒してくださいました。それだけでなく、言葉だけで治してくださることもあったというのです。

天地創造のはじめ、神さまは私たちを最も良いものとして造ってくださいました。神さまがそう望まれたからです。みなさんの周りで苦しんでいる人、悲しんでいる人はいますか？ 私たちはその人のために、どのようにお祈りできるでしょうか？ ご自分の子どもである私たちが癒され、喜びにあふれることを造り主なる神さまは望まれています。

活動①

「イエスさまにゆだねて、ひたして…」

- ① 染め紙をしてみよう：障子紙や白いコピーフィルター、半紙、キッチンペーパーなどを好きなように折り、絵の具や濃いめに作った食紅の色水にひたします。
- ② 染まったら新聞紙の間に挟んで余分な水分を取ります。
- ③ ゆっくり開いて、乾かしたらできあがり。乾いて完成した紙は、アイロンをあててブックカバーにしたり、しおりにしたりすることができます。色水に触れた紙がそれを吸収する様子を観察していると、イエスさまが病人に手

を当てられた時、その人の痛みを引き受けてくださった姿と重なります。私たちの痛みをイエスさまが引き取ってくださったら、この染め紙のようにイエスさまも、神さまの子としてますますきれいになられるのでしょうか。

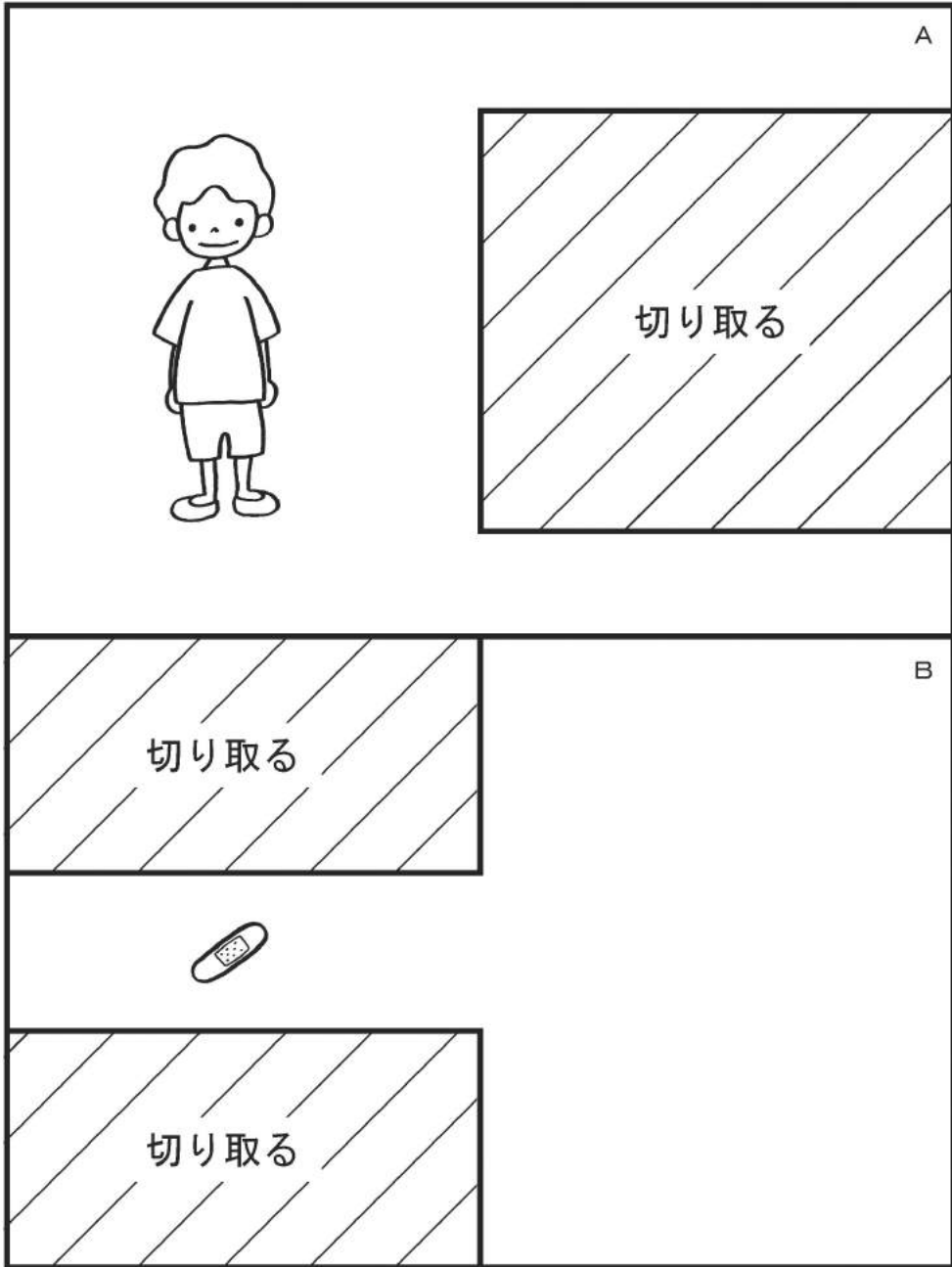


活動②

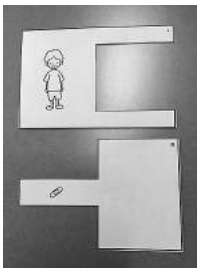
ワークシート

「手当てをしたら…」

- けがをした子どもがあら不思議。「よろしい、清くなれ」というと元気になるよ。
- 準備●ワークシート、はさみ、テープ
- ① ワークシートの上半分がA、下半分がBです。太線で切りとります（図1）。
 - ② イラストに色をぬりましょう。
 - ③ Bの上にAを重ね、絆創膏のイラスト部分だけが子どもの上に重なるようにして（図2）テープで貼り合わせ、たて半分に折り目をつけたらでき上がりです。
 - ④ 本を閉じるように、左半分を右半分に重ねます（図3）。
 - ⑤ 「よろしい、清くなれ」と言いながら、本を開くように右側へめくりまわす（図4）。するとけがをして絆創膏を貼っていた子どもが、絆創膏がとれて元気になりました。神さまありがとう！



①



②



③



④





平和があるように

聖書

マタイによる福音書9章35節～10章15節

暗唱
聖句

行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。
マタイ 10：7

44
課

1月
31日

深く憐れみ

イエスは、ガリラヤだけに留まらず、「町や村を残らず回って」いかれました。神の福音の及ばぬ場所はないというように。その目には、「飼い主のいない羊」のような群衆の姿が映ります。飼い主のいない羊は、迷い、散らされ、野の獣の餌食となり、打ち捨てられ、誰も探そうとする者のいない悲惨な状況を表しています（エゼキエル 34：1～6等）。世話をされるどころか、略奪され、傷ついていました。病を負い悪霊に苦しめられていました。そのようなあり様を「深く^{あわ}憐れまれた」のです。ヘブライ語の「憐れみ」「ラハミーム」は、子宮・母胎を語源とする言葉です。エレミヤ書では「憐れまずにはいられない」（31：20）と神がイスラエルに対して嘆く場面があります。この「憐れみ」は「胎が痛む」という言葉です。子宮は人体の中でただ一つ他者のために存在するものです。ほかの人間のいのちを育み、相手を自分の体内の奥深くに受け入れ、自分の血と肉、いのちまで分け与えるものです（『荒れ野に立つイエス』前島誠 世界日報社参照）。イエスの福音の言葉と癒しのわざは、この神の痛みとつながります。イエスは「働き手になれ」ではなく、「働き手を送ってくださるよう^なに収穫の主^に願いなさい」（9：38）と言われます。イエスの憐れみの思いを自分の思いとし、天の国の到来を告げる働き手を求めておられるのです。

収穫の主に願って

イエスは12人を呼び寄せて、「けがれた霊」に対する権能を与え、派遣します。「12人」はイスラエルの12部族と重なります。イエスの周りには、女たちや他にも従っていた人々がいたと思われ^ますから、12人の精鋭が選ばれたというより、弟子（仕えた人々）たちへの委託と派遣と考えた方が良いと思います。イエスの権能とは、人々の痛み^にに共感して、相手に触れていく（その人の「けがれ」を引き受けていく）ものです。触れてはならないとされたその手に触れることや、「清くなれ」と宣言することが、病に打ち伏せられている人にとってどんなに力になったことでしょうか。世の権力ではなく、神の愛をあらゆるイエスの言葉と行いが弟子たちに委ねられたのです。それは、イスラエルの失われた羊から始まります。「まずイスラエルの打ちめされた羊のところへ行け」と言われます（10：5～6）。何も持たず、誰かの世話になる存在として弟子たちは遣わされます。イエスは独りで働かれませんでした。弟子たちも2人ずつで動きます。独りではなく誰かと一緒に遣わされます。助け合い、混乱や争いも含みながら。弟子たちに託された務めはマタイの教会が聞いた務めであり、現代の教会に託された務めとしても受け取ることができます。

平和を願いなさい

ユダヤの挨拶言葉は「シャローム（平和）」です。シャロームは、円、完全な状態であることを意味します。100人の人が入り、99人が「平和だ」と言っても、1人でも「平和ではない」という人がいたら、それは平和な状態とは言わないそうです。「平和があるように」と挨拶するというのは、安否を問い食べ物と泊まる場所を提供することでもあります。具体的にもてなすのです。「平和を求める祈り」は具体的な行動を引き起こします。それに対し、「足の埃を払い落とす」のは、相手との関係を断ち切ることを表します。イエスの宣教は多くの人々の解放と癒しを起しますが、拒絶も起りました。同じように弟子たちも、イエスから委ねられた権能によってなす弟子たちの言葉や癒しの出来事を拒絶

準備のための聖書日課		
25日	㊦	エゼキエル 34:1~16 公平をもって 養われる方
26日	㊦	ヨハネ10:7~18 良い羊飼いのもとの
27日	㊦	イザヤ55:6~7 主は憐れんで くださる
28日	㊦	ヨハネ4:31~38 刈り入れを待つ 色づいた畑
29日	㊦	サムエル記上 25:2~11 あなたの家に平和
30日	㊦	イザヤ57:14~21 平和、平和

する人々に出会います。しかし、そこで立ち去っても良いと言われているのです。弟子たちは、務めを委ねられましたが、その結果もまた握りしめずに委ねていくことが許されているのです。



成人科

- イエスから、人々の痛みへの共感の思いといやしと祝福の権能を与えられて派遣される弟子たちの姿に教会の働きを思い描きます。私たちの教会が大事にしていることはどのようなことでしょうか。教会の使命（ミッションステートメント）を確認するのも良いでしょう。私たちの生活の中で「伝道する」「証しする」とは、どのようなことでしょうか。私たちの言葉やふるまいから何が「伝わって」いるのでしょうか。それらは「平和の挨拶」となっているのでしょうか。「してあげる」ではなく、「お世話になることを喜べる」関わりでしょうか。
- 日本バプテスト連盟の協力伝道週間は、連盟に連なる諸教会・伝道所を覚えて祈ります。ユニークな個性をもつそれぞれの教会が、バプテストの主義と理想に基づき、キリストの福音を証しするために協力し集まっています。どのような協力のあり方があるのかを考えてみましょう（連盟から出される冊子などを参照）。また近隣教会との協力とはどのようなものがありますか。「遠さ・近さ」は、単なる距離ではありません。繋がり、祈り、経済的な支援をするというかたちの協力もあります。繋がる存在を喜ぶことも協力の形ではないでしょうか。

平和があるように

聖書

マタイによる福音書9章35節～10章15節

暗唱
聖句

行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。
マタイ 10：7

44
課

1月
31日

イエスさまは、ガリラヤの町だけでなくたくさんの町や村を訪ね歩き、神さまの教えを宣べ伝えていきました。さらにありとあらゆる病気や悪いに苦しむ人たちがいやされました。また多くの人びとが、羊飼いのいない羊のように弱りはて、命の危機にさらされている様子を見て、おなかの奥がものすごく痛くなるような痛みを感じながら、深く憐れまれたのです。そこで言われました。「収穫は多いが働き手が少ない。だから収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい」。聞いている弟子たちは少し驚いたことでしょう。大勢の人がイエスさまのもとに悪霊を追い出し、病気をいやしてほしいと願ってやってくる目まぐるしく忙しいこの状況の中です。それでもイエスさまは、「あなたたちがもっと働きなさい」と言うのでもなく、「神さまの助けがあって、多くの共に働く仲間が与えられることを願いなさい」と言われたからです。

そして12人の弟子たちにけがれた霊を追い出し、あらゆる病気や悪いをいやす働きを託されたのです。この12人の弟子たちは、単独行動ではなく、かならず二人ずつペアになって派遣されていきます。ふたりで一緒に行くことは難しいこともあります。時々けんかもしたかもしれません。でも協力することができます。ひとりではがんばらずに誰かを頼りにして良いのです。そして本当に今、苦しみ悩んでいる人たちを



助け、悪霊を追い払い、病気や悪いをいやしなさいと具体的に示してくださいました。たくさんのもんをもっていかなくても良いのです。神さまが助けてくださるから。イエスさまが弟子たちにあたえてくださる働きとは、人々の痛みと共に感じて、相手の痛んでいるところにそっと触れていくこと。それが神さまの愛をあらわす言葉と行いです。この弟子たちに託された務めは、私たちの教会に託されていることでもあります。「シャローム（平和があるように）」。弟子たちは出かけて行った先で、イエスさまに教えていただいた挨拶をしました。そして訪れた家々の平和を祈りました。しかしその挨拶を受け入れて、食べ物や泊まる場所を用意してくれる家もありますが、そうでなく受け入れない人たちもいました。もちろん、そういうこともあるのです。弟子たちは働きを託されましたが、その結果は神さまに委ねていくことができるのです。

平和があるように



聖書

マタイによる福音書9章35節～10章15節

暗唱
聖句

行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。
マタイ 10：7

聖書から…

ユダヤの挨拶の言葉を知っていますか？「シャローム」です。イエスさまは弟子たちに派遣した先の町や村で「シャローム（平和があるように）」と挨拶するように教えました（10：12）。私のシャロームのイメージは真ん丸です。真ん丸ですから、少しくぼんだり、出っ張ったりしても、真ん丸にはなりません。100人中、たとえ1人でも「平和ではない」という人がいたら、それは「シャローム」とは言わないというから驚きです（聖書の学びより）。私たちが「平和」というとき、それは単に戦争のない状態をイメージしていることが多いかもしれません。もちろん「戦争がない」ということも大事です。でも、「シャローム」の平和に照らされるなら、今の私たちのこの社会にも本当の平和のための課題があることに気づくでしょう。

イエスさまの「真ん丸（シャローム）」のセンサーは、とても敏感です。それは自分ではない誰かの痛みを、自分のからだが痛むほどの思いをもって受けてくださると言うからです。私たちは、なかなか他者の痛み思いを寄せることができません。イエスさまが弟子たちを「2人ずつ」で派遣されたのは、お互いの思いに寄り添いながら「シャローム」の平和について考え続けるためかもしれません。

分かち合おう

- どうしてイエスさまは12弟子を「2人ずつ」の組にして派遣されたのでしょうか？「聖書の学び」にも、ヒントになる言葉があります。感じたことを分かち合ってみましょう。たとえば私は、すべての人にとって「もう一人（他者）」の存在がいつも必要だからと思いました。同質な「自分」という存在だけでは「シャローム」をつくることはできないのかもしれません。お互いが自分と違う（異質な）存在に出会っていく。今週は、「協力伝道週間」です。皆さんの教会には、違う教会同士の出会い（協力）の機会はありますか？
- 作家の高橋源一郎さんが韓国を旅したときの話を新聞に書いておられました（朝日新聞 2019年12月19日付「高橋源一郎の歩きながら、考える」）。高橋さんは「慰安婦像」として知られている「平和の少女像」と向き合われました。高橋さんは、韓国の済州島にある「ベトナム人の母子の像」も訪ねられました。日本と韓国、それぞれに歴史的な加害責任を問いかける像とのことです。この2つの像は、キム・ソギョンさん、キム・ウンソンさんご夫妻がつけられました。「シャローム」とは何か？の問いかけです。

平和があるように

聖書 マタイによる福音書9章35節～10章15節

暗唱 聖句 行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。
マタイ 10：7

44課

1月31日

聖書から…

12人の弟子たちは2人ペアで行動したそうです。私たちが教会に行っていることや、みことばを友だちに伝える時、ドキドキすることがありますね。聞いてくれるかな、拒否されたらどうしよう、いろんな思いになることがあります。だから私たちは教会の人とお祈りをして、一緒に伝えるのです。たとえ教会の仲間が近くにいない時でも、それはもう一人ではありません。何よりインマヌエルの主（マタイ 1：23）が共にいてくださいます。

みことばを聞いた友だちが大人になり、思い出して教会に行ってみたということをよく聞きます。蒔かれたみことばの種は、むだになることはないのです（イザヤ 55：10～11）。

活動①

「2人ペアでやってみよう」

- ① **ペアでおにごっこ**：二人一組で輪っか（新聞紙をひねり、端と端をとめて作る）の中に入り、二人で一緒ににげる。追いかける人も2人ペアだととちょうどいいですね。
- ② **ペアあわせゲーム**：はし、スプーンとフォーク、くつしたなど、ペアをみつけていくゲーム。箱にペアになるものを入れて見えないようにし、手だけを入れて探すのもおもしろいです。イエスさまの

弟子たちが2人ペアで行動したように、一つだけでなく、ペアにしてあげましょう。

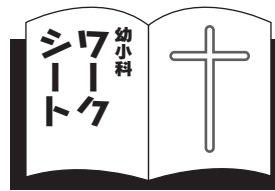
活動②




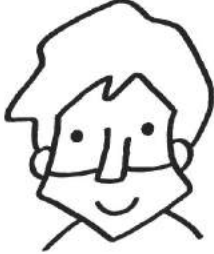






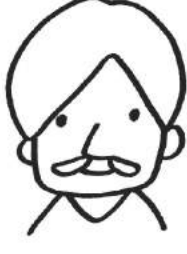

ワークシート

「12弟子のなまえ」

- ① **12弟子の名前を全員言えるかな？**：賛美「12でしのなまえ」（『ふくいん子どもさんびか』503番日本児童福音伝道協会）を歌いながら、歌の順番に名前を書きましょう。職業がわかる弟子はそれも書きます。（参照 マタイ 4：18～22、マタイ 9：9～13）
- ② 線で切り取って、バラバラにしたものをもう一度歌の順番に並べてみましょう。
- ③ 最後は指人形にして、遊んでみましょう。あいさつは「こんにちは」も「さようなら」も「シャローム」ですよ。





 () ()	 () ()	 () ()
 () ()	 () ()	 () ()
 () ()	 () ()	 () ()
 () ()	 () ()	 () ()



恐れるな、この世の力を

聖書

マタイによる福音書10章26～31節

暗唱
聖句

だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。マタイ 10:31

45課

2月7日

恐れるな

イエスの弟子派遣は、「狼の群れに羊を送り込むようなもの」(10:16)でした。迫害が起こり、親しい者たち、家族も分裂するようなことが起こり、「すべての人々に憎まれる」(10:22)とまで言われています。しかし、最後まで耐え忍ぶために逃げても良いのです(10:22,23)。従っていきいたい想いを受け止めてくださり、「弟子は、師以上のものではないから、師のように」なら十分だと言ってくださっているのではないでしょう

か。「だから彼らを恐れるな」(10:26 口語訳)と語られます。イエスが弟子たちを遣わされたのですから、恐れなくても良いのです。隠されているもので知られずに済むものはないように、今は覆われている真実が明らかになる「その日」が来るから、その時には、迫害していた人々も神を知ることになるということです。

イエスの言葉は、揺さぶりを起こします。イエスの予告そのものが聞いたことのない「覆われた状態」を指していましたから、人々を不安にさせたと思います。弟子たちにとっても、イエスの言葉やなさることは、不思議に思えたでしょう。しかし、そこで顕わにされてくるものがあります。平和に見える中に、実は「平和ではないもの」が隠されていることが多いのです。「神を礼拝する」と言いながら、そこに排除や差別がしっかりと根付いていることがあるのです。信じていたものが崩される経験をするかもしれません。しかし、

私たちはそれらが明らかにされる日を仰ぎ見ることができます。イエスが、こっそり語られること、解き明かされる事柄を大胆に屋根の上で語るようにと言われます。著者マタイは、イエスを神の約束(イスラエルを回復されるという)の成就としてのメシアと表現していますが、それが誰の目にも明らかになる時を期待するのです。

恐れよ

迫害や拒絶に遭う事は、恐ろしいものです。精神的にも肉体的にも苦しくて、逃げ出したくなります。あまりにも酷い場合、死を選びたくなることさえあるかもしれません。しかし、そのようなときにも目の前の迫害者ではなく、それよりもはるかに力ある方に目を向けることができるのです。「魂も体も」は、人間の全体性を表します。肉体、社会的なあり方、その人の生き方、さらに肉体の死の向こう側まで、すべてをひっくるめた「人そのもの」に対して影響を与えることのできる方です。すべてを完全に知り、支配し、さらに永遠の死という判決を下すことのできる方。この世の権力者や迫害者たちよりもはるかに影響を与える神のみを恐れよと言われていきます。しかし、その神は裁きの一面だけではありません。

伴われる神

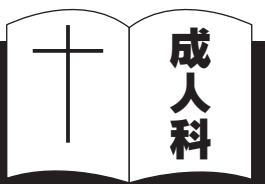
神は、雀に目を留められる神です。2羽の雀は1アサリオンで売られています(10:

29)。1 アサリオンは、1 デナリオン（労働者の1日分の日当）の1/16です。300円強ほどでしょうか。しかも1羽の値段でなく2羽の値段です。それほど価値の低い、生活の中によく見るありふれた雀です。岩波訳聖書では、「しかしそのうちの1羽すらもあなたたちの父なしに地上におちることはない」（10：29）と訳します。「すなわち、地に落ちるときは神が支えつつ共に落ちてくれる、の意」（同注）です。

たとえそのうちの1羽の雀が落とされるときでも（それは人によって落とされたのかもしれませんが）、神が支えながら共に落ちてくださるといなのです。神は、無価値とされ、誰も目にとめないような雀にさえ、そのように扱われるのだから、あなたたちに対してはなおさらだといなのです。私たちの髪の毛の

準備のための聖書日課			
1日	㊦	マタイ10:16～25	言葉を与えられる神
2日	㊦	申命記10:12～22	あなたの神、主を畏れよ
3日	㊦	申命記31:1～8	恐れてはならない
4日	㊦	ローマ11:17～24	むしろ恐れなさい
5日	㊦	コリント二5:11～15	主に対する恐れ
6日	㊦	ルカ12:4～7	五羽の雀はニアサリオン

数を数えるほどに私たちを知り尽くし、愛してくださる神です。私たちは、その神の愛のゆえに神を畏れ、神以外の者を恐れることはないのです。



成人科

- 「恐れてはならない」と語りかけられています。私たちに恐れを抱かせるものは、何でしょう。自由に信じるところに従って生きることができていますか。
- 教会は、2月11日を、「建国記念の日」ではなく、「信教の自由を守る日」としています。天皇を神的なものに位置付けるのではなく、まことの神以外を神としないという表明でもあります。人間が神になろうとする時、いのちが奪われ、尊厳が傷つけられ、戦争を引き起こします。そのような動きに抵抗し、政治権力と結びつくことを拒否（政教分離）します。
- 天皇制は、日本に住む私たちの身近なところにしみ込んでいます。元号、国民の祝日、戸籍制度、差別の源（“尊い人”の存在は対極の“卑しい人”を作り出します）、など。また、私たちが礼拝で賛美する賛美歌の歌詞の中にも影響しています（『新生讃美歌ブックレット』の用語解説参考）。教会も歴史の中で天皇制に組み込まれ、また自らの利益のために利用してきた面もあります。戦前は、力で天皇を神と拝むことを強要されましたが、最近はソフトムードになってきています。「神ではないものが神とされていく」ことを見極める感性が求められています。そのために私たちにできることは何でしょうか。

恐れるな、この世の力を

聖書

マタイによる福音書10章26～31節

暗唱
聖句

だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。マタイ 10:31

45
課

2月7日

弟子たちは、イエスさまから大切な働きをまかされて村や町を回るようになります。「神さまの国が来た」といううれしい知らせをもって、イエスさまがされたように病気の人たちのそばにいたり、悪霊を追い出したりします。わくわくするような働きです。でも、イエスさまは「みんなから嫌われたり、仲間はずれにされたり、もしかすると牢屋に入れられたりするかもしれない」と言われます。うれしい知らせなのに、みんなから嫌われ、人々がバラバラになるというのです。そんな時は、逃げても良いのです。みんなと仲良くできなくても良いのです。また他の所へ行って、イスラエル全部にイエスさまから託された働きをすれば良いと言われます。イエスさまに従っていきたいという想いがあれば良いのです。

嫌われることは怖いし、いやです。人々にもわかってほしいし、仲良くしてほしいと弟子たちも思ったでしょう。でも恐れることはありません。イエスさまのように神さまに信頼していけば良いのです。人は、わからないと不安になります。弟子たちの言葉やイエスさまの言葉が本当なのかなと疑ったり、今まではこうやって「きまり」を守ってきたのに、違うと言われると不安になったりします。でも、それがはっきりとわかる日が来るから心配しなくても良いのです。「どうしてこんなことが」と思うようなことがはっきりとわかるようになる。



こっそりやっているつもりでも、みんなの前に明らかになる時がくる。その時にはみんながイエスさまの言葉を理解することができるようになる。わからなかったことがわかるようになるから、堂々とイエスさまから託された働きをなささいと言われるのです。

どんなことも恐れることはありません。恐れなければならないとしたら神さまだけです。この世の誰よりも力があり厳しい神さまです。でも1羽の雀を心配する神さまです。雀はどこにでもいる小さな鳥です。イエスさまの時代も安売りされるような鳥でした。撃ち落されて食べられることもあります。だれかが石を投げて落ちてくる雀がいたら、それを支えながらいっしょに落ちてくださるような神さまです。雀にすら、そんなに心を留めてくださる神さまは、あなたたちのことを放っておかないよと、弟子たちを慰めるのです。あなたたちは、雀よりももっと大切にされているのだからと。神さまは私たちの髪の毛の数まで数えるくらいに、私たちをよく知っていて大切にしてください方なのです。

恐れるな、この世の力を



聖書

マタイによる福音書10章26～31節

暗唱
聖句

だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。マタイ10:31

聖書から…

皆さんの教会学校では「みんなで聴く聖書のおはなし」を読みますか？ まず聖書を読み、その後でぜひ読んでみてください。聖書が私たちに何を語りかけようとしているのか、さらにイメージが膨らむと思います。この課の学びのテーマ（週題）は「恐れるな、この世の力を」です。イエスさまから「神さまの国が来た」という、うれしい知らせを携えて村や町を巡ることになった弟子たちでしたが、期待と同時に不安や恐れを抱いていたようです。弟子たちは何を恐れていたのでしょうか？「みんなで聴く聖書のおはなし」には、次の言葉がありました。「イエスさまは『みんなから嫌われたり、なかまはずれにされたり、もしかすると牢屋にいれられたりするかもしれない』と言われます。…（中略）…嫌われることは怖い、いやです。人々にもわかってほしいし、仲良くしてほしいと弟子たちも思ったでしょう」。

私たちにも、弟子たちのような恐れがありませんか？ 誰だって嫌われたくありません。仲間はずれにされたくもありません。自分のことを理解して欲しいと思います。私たちはそうした不安や恐れのお気持ちを埋めるために、この世の何かで安心を得ようとするかもしれませんが、イエスさまは弟子たちに、一羽の雀さえ神さまの深い愛を受けていること、そして神さまはどこまでもその雀と共にいることを話されました。その神さまが、私たちが愛し共にいてくださらないことなどあるでしょうか。「恐れるな」と言われるイエスさまの言葉を忘れないでいたいと思います。

分かち合おう

- 皆さんにとっての恐れとは何でしょうか？たとえば、「自分」というものに対する恐れはありませんか。自分を他者と比較して卑下したり、価値がないと思ったりすることはないでしょうか。自分の価値は、他者との比較によってはかることができるでしょうか。一羽の雀を愛され、その雀が落とされるなら、ご自身も共に落ちるとまで言われる神さま…。その神さまは、私たち一人ひとりが他の誰かになることなく、わたしがわたしであることを何より喜び、わたしを愛してくださる方です。
- 「信教の自由を守る日」を知っていますか？今週2月11日は市販のカレンダーには「建国記念の日」とあります。私たち日本バプテスト連盟の諸教会では「信教の自由を守る日」としています。一人ひとりの「わたし（個）」が大きな力によってまとめられ、わたし自身であることが許されない時代がありました。この日のことについて調べてみましょう。

45課

2月7日

恐れるな、この世の力を

聖書 マタイによる福音書10章26～31節

暗唱聖句 だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。マタイ 10:31

聖書から…

神さまは何と力が強く、優しいお方でしょうか。そんな神さまが私たちを愛して、インマヌエル（神は私たちと共においてくださる）と約束してくださっています。

ある子どもが、友だちからひどいことを言われて落ち込んでいました。お母さんに相談すると、母親はこう言いました。「だれになんと言われようと、お母さんはあなたのことを愛していますよ。そのことを忘れないで」と。周りの人が私たちのことをどう思おうと、どう扱おうと、私たちは神さまの子どもです。悲しくなったり恐れたりすることもあるでしょう。そんなとき神さまの言葉（暗唱聖句）を思い出しましょう。私たちはこの言葉をそのまま聞いて、遠慮なく神さまのそばに近づくことができるのです。

活動①

「恐れよ！恐れるな！」

①恐れよ恐れるなゲーム：「おおかみ」役（今日の聖書では、「迫害者」と「ひつじ」役（私たち）に分かれておにごっこをします。「ひつじ」は「おおかみ」から逃げましょう。もしつかまってしまったら、今日の暗唱聖句を見ないで言ってみましょう。言えたら「おおかみ」から解放されます。

追加ルール…「神さま」役を加えます。その場合、「おおかみ」は神さまから逃げます。ひつじがおおかみにつかまった

ら動けませんが、神さまが助けにきてくれたら再び動けるようになります。おおかみが神さまにつかまったら「神さまに従います」と言ってひつじ役になります。おおかみがいなくなったらゲーム終了です。

②**ドキドキボックス**：箱の中に手を入れて、何が入っているか当ててみましょう。見ないでさわると、ドキドキが増しますよ。（ぬいぐるみ、聖書、鉛筆、こんにゃく（袋入り）など。さわってもけがをしないものを入れましょう）どんなときも、神さまが共においてくださる「インマヌエル」だから大丈夫です。

活動②

ワークシート

「インマヌエルカードをつくろう」

●準備●ワークシート、画用紙、はさみ、筆記用具、のり

- ①画用紙を半分に折った状態で片手を当てます。親指とひとさし指がカードの折った部分にくるようにして手形をとり、親指の先と人差し指の先以外を切り抜きます（切り抜いて開くとハート型ができます）。
- ②カードができ上がったら、カードの内側に今日の暗唱聖句とワークシートのすずめのイラストを貼ります。
- ③色を塗ってカードを完成し、誰かにプレゼントしましょう。悲しんでいる人や勇気の出せない人が、今日のみことばを見て元気を出してくれたらうれしいですね。

インマヌエルカードをつくろう

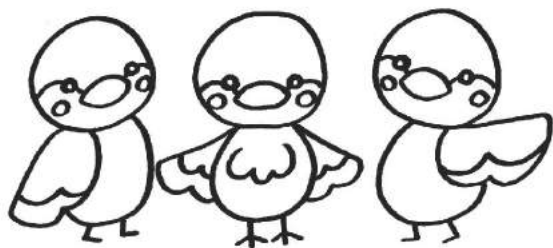


だから おそれるな。
あなたがたは
たくさんの すずめよりも
はるかに まさっている。
(マタイ10:31)

だから
おそれるな

45課

2月7日



参考写真

ヨハネの問い

バプテスマのヨハネは、ガリラヤの領主ヘロデ・アンティパスが兄弟の妻ヘロディアを妻としたことを律法違反として批判し、投獄されてしまいます（マタイ 14：1～12）。獄中のヨハネはイエスの評判を聞き、弟子たちに「来るべき方」がイエスなのかどうかを尋ねさせます。

ヨルダン川でバプテスマを施し、一番近くで「これはわたしの愛する子」との天からの声を聴いたはずのヨハネがここでは揺れています。逮捕前のヨハネは、神の迫りくる裁きを人々に語り、バプテスマを施していました。マタイ 3 章（第 40 課）では、自分より後に来る方は「聖霊と火」でバプテスマを受けるとしていました。「斧が木の根元におかれ、良い実を結ばない木は切り倒される」（3：10）ように、人々の罪を糾弾し、裁いていく方を想像していたにもかかわらず、実際耳にするのは人々に手を置き、癒し、解放を告げるイエスの姿でした。イエスの活動は、ヨハネの投獄後でしたから（4：12）、直接見たことがなく「来るべき方は、この方なのだろうか」との不安が湧いてきたのでしょうか。獄中で自分のために、またイスラエルのこれからのことを考えながら、早く確証が欲しかったのでしょうか。その問いを率直にイエスに向けていきました。

あなたがたは何をみるか

イエスは、ヨハネの弟子たちの質問に直接

的な答えを与えません。ただ「あなた方が見聞きしたことを伝えなさい」と言うのです。「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き…貧しい人は福音を告げ知らされている」（11：5）。それらを聞いて、見て、どう決断するのかと促します。「つまずき」（11：6）は、イエスへの信頼が揺らぐことです。予想を裏切るイエスの姿に揺さぶられ、戸惑いながらも、起こっている出来事をイザヤの言葉（イザヤ 35：5～6、61：1 など）の成就とみて、「来るべき方」はこの方だと信頼して歩みを起こすのか否かの判断がヨハネに委ねられます。

それは、群衆に対しても同じでした。ヨハネについてイエスは、最高の預言者、預言者以上の者だと絶賛します。「女から生まれたもののうち…」とは、人間の中で最高という意味です（11：11）。そして、彼こそが預言されたエリヤだと言われます（マラキ 3：23 口語訳 4：5）。ヨハネが来るべきエリヤだとするなら、荒れ野でヨハネの宣教を聞いた人々は、神の時の到来を受け止め、約束されたメシアへの信仰の備えをすべきなのです。天の国では、そのような決断を起こす者が、偉大な預言者と同じ位置なのだとされています。

今の時代

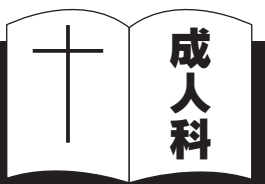
イエスは、今の時代を、ごっこ遊びに不平を言う子どもたちにたとえます（11：17）。結婚式ごっこをしよう（「笛を吹く」）と言っても歌ってくれず、葬式ごっこをしようと言

っても泣いてくれないと。ヨハネが食べも飲みもしないと「悪霊につかわれている」と言い、イエスに対しては、「大食漢で大酒のみ」と称し、まじめに取り合おうとしません。厳しく神の律法を守り正しい行いをするよとのヨハネの宣教に対しても、いやしと解放のイエスの宣言に対しても、向き合おうとしません。イエスに対して、さらに隣人に対して無関心なあり方です。「つまずかない者は幸い」と言われますが、つまずかない人はいません。イエスへの信頼が揺れていたヨハネが責められてはいません。その疑問や不安は受け止められ、問い返されます。無関心ならつまずくことすらないでしょう。信頼するからこそ、疑問を投げかけることができます。それは向き合い応答する関係にあるということであり、イエスの解放の出来事（天の国）へ

準備のための聖書日課			
8日	㊦	マタイ14:1~12	バプテスマのヨハネの死
9日	㊦	イザヤ26:16~19	死者が命を得るとき
10日	㊦	イザヤ35:1~6	主の栄光を見る
11日	㊦	イザヤ61:1~9	貧しい人に良い知らせを
12日	㊦	マラキ3:19~24	預言者エリヤの派遣
13日	㊦	マタイ16:1~4	神の支配を見抜く

の招きです。

ヨハネも群衆もイエスの問いの前に立たされていました。あなたがたは何を見、何を聞き、どう決断するのかと。



- 「つまずき」とはどんなイメージですか。なぜヨハネは疑問や戸惑いを感じたのでしょうか。不思議な出来事を見たはずのヨハネが揺らいでいます。「つまずき」はひとつのチャンスかもしれません。何につまずくのか、何故つまずくのかと問い直すことができます。「つまずき」の経験がありますか？ それはどのようなことで、そこから何に気づかされましたか。

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、通常の礼拝式ができなくなった教会もありました。集まり、言葉を交わし、握手し、大

きな声で賛美し、食卓を囲む交わり、当然のようにできていたことができなくなりました。礼拝が再開された時、どんなにうれしかったことでしょうか。「あたりまえ」になってくると「心が動く」ことが少なくなります。私たちの心は、誰かが泣いているときにかきむしられるように痛み、誰かが喜んでいるときに一緒に躍り上がるのでしょうか。私たちはイエスの呼びかけにどう応えますか。17日からレントに入ります。この期間、自分の大好きなものを我慢して過ごす人もいます。イースターの日喜びを解放するのです。この時期を静かにイエスの言葉と行いに思いを巡らしつつ過ごしてはいかがでしょうか。

問いつつ、問われつつ

聖書

マタイによる福音書11章2～19節

暗唱
聖句

わたしにつまずかない人は幸いである。
マタイ 11 : 6

46
課

2月
14日

バプテスマのヨハネは、荒れ野でバプテスマを施し、人々に、「悪いことをせず、神さまのみ心に沿って正しく生きるように」と勧めていました。それは誰に対してもそうでした。強い人に対しても同じです。当時ユダヤを治めていた領主に対しても間違っていたことは間違っていると言いました。そのために牢屋に入れられてしまいます。牢屋の中でイエスさまのなされたことを聞きました。暗い牢の中でどんな思いでいたことでしょうか。ヨハネは自分の弟子たちをイエスさまのもとに送って「来るべき方はあなたでしょうか」と尋ねます。「イエスさまを信じて良いのでしょうか…」。

イエスさまはヨハネの弟子たちの質問に「そうだ」とも「ちがう」とも答えません。「あなたたちが聞いたこと、見たことを伝えなさい」と言われました。目の見えない人が見え、足の不自由な人が歩き、聞こえない人が聞こえ、貧しい人々がうれしい知らせを聞いている、そんな出来事をヨハネに知らせなさいと。どんなことが起きているのかをよく見て自分で判断して良いのです。「わたしにつまずかない人は幸いである」と言われましたが、イエスさまを信じて生きる生き方はうれしいものだよ。神さまからの力があるよ。そのことを受け止めてほしいということでしょう。

イエスさまは、その場にいた人々にも信じることの大切さを語りました。バプテスマのヨハネは、神さまが約束された預言者



エリヤだと言われました。それは神さまの約束は必ず実現するということです。さらにひとつのお話をされました。「結婚式ごっこをしようと言ったのに一緒に踊ってくれなかった、お葬式ごっこをしようと言ったのに一緒に泣いてくれなかった」と文句を言う子どもたちのお話です。人々の様子はそれと似ているというのです。バプテスマのヨハネが神さまのきまりをきちんと守って食べも飲みもしないと、「あいつはおかしいよ」と言い、イエスさまがみんなと一緒にご飯を食べてお酒を飲んでいると「あいつは罪びとと一緒にだ」と文句を言う人たちがいるのです。一緒に泣いたり楽しんだりしてくれないのは寂しいものです。何をやっても文句ばかりというのも寂しいものです。知らん顔されるのも寂しいものです。

そうではなくて、イエスさまを信じてイエスさまのもとに来てごらん。知らん顔しないで、たくさんうれしいことをからだで感じて確かめてごらん。わたしたちもそう招かれています。

問いつつ、問われつつ



聖書

マタイによる福音書11章2～19節

暗唱
聖句

わたしにつまずかない人は幸いである。
マタイ 11:6

聖書から…

「なぜ?」「どうして?」と問うことは、不信仰の現れと思うことがあるかもしれません。皆さんは、どう思いますか? 信仰者は、問うたり、疑ったりしてはいけないのでしょうか? バプテスマのヨハネは、投獄された牢の中から自分の弟子をイエスさまのもとに遣わして、「来るべき方は、あなたでしょうか」と尋ねました。ヨハネは彼自身を襲う危機の中で不安を覚え、心が揺れていたのでしょうか。「イエスさまは、待ち望んでいた救い主なのか?」…、と。私たちも、この世界に起こることを思うとき、「なぜ、こんなことが起るのか?」と、問わざるを得ない出来事に直面することがあるのではないのでしょうか。そして、直ぐには答えの出ない現実に悩み苦しみながら、「なぜ?」を抱えて生きるようなことがあるかもしれません。

イエスさまは、ヨハネの問いに直接的な答えを与えませんでした。どうしてでしょうか? 直ぐに答えが出るような現実ばかりがあるわけではないからでしょう。イエスさまは、ご自身がヨハネ以上に「なぜ?」「どうして?」を問いながら、この世界を生きてくださった方ではないのでしょうか。十字架で神さまに「なぜ?」を問うておられるイエスさまは(27:46)、ヨハネの、そして私たちの「なぜ?」と共にいてくださる方であり、直ぐに答えの出ない不条理も多いと感じるこの世界にあって、悩み苦しみながら生きる私たちの希望であり続けてくださる方ではないでしょうか。

分かち合おう

- 教会でお互いに「なぜ?」「どうして?」を問いつつすることはできますか?『聖書教育』の教会学校は「共同学習」をお勧めしています。みんなで「なぜ?」「どうして?」を問いつつ学びの場です。私たちは、バプテスマのヨハネのように「わからない」という気持ちも大切にしたいと思います。そこに、イエスさまの導きがあるのではないのでしょうか?
- この課の暗唱聖句は「わたしにつまずかない人は幸いである」(11:6)です。石につまずいて転ぶように、聖書の言葉に「つまずいて」転ぶような思いになったことはありますか? 同じマタイ福音書には「悲しむ人々は、幸いである」(5:4)とか、「敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」(5:44)などのイエスさまの言葉もあります。そうしたイエスさまの言葉にみなさんは「つまずき」ませんか? 「つまずく」から気づくこともあるのではないのでしょうか? 「つまずく」私たちをイエスさまは招いてくださいます。

46課

2月14日

問いつつ、問われつつ

聖書

マタイによる福音書11章2～19節

暗唱
聖句

わたしにつまずかない人は幸いである。
マタイ 11：6

聖書から…

神さまはどんなお方でしょうか？ たくさん意見が出るかも知れませんね。でも、それは神さまのほんの一面だということをおぼえていきましょう。聖書が語る神さまは、私たちが思い描く以上に大きな方です。今日の聖書箇所では、私たちが「あなたは本当に救い主ですか？」とイエスさまに対して疑問を持つこと、つまずきを感じることも、イエスさまは受け止めてくださることが書いてあります。あきらめずに聖書をよく読み、教会学校の友だちと一緒に祈りをして、もっと神さまを知っていきたいですね。神さまは求める人、探す人、門を叩く人に必ず応えてくださいます。さあ、こう祈ってみませんか。「神さま、どうか私にわかる方法であなたのことを教えてください」。

活動①

「ひろ～くて、ふか～いイエスさまの愛」

①イエスさまの愛は地平線が見える草原のように、底が見えないほど深い海のように、とても広く深いものです。「すんばらしき主イエスの愛は」（「友よ歌おう」20番、いのちのことば社）を賛美しましょう。歌に慣れてきたら、「ひろく、ふかい」のところを息の続く限り「ひろく、ふ～かい！」とのばして歌ってみましょう。手をのばして、部屋の端から端まで移動しながら「広さ」を、ジャンプしたりしゃがんだりしながら「深さ」

を表現してみてもおもしろいですね。

②「つまずいても大丈夫！」

イエスさまの広く深い愛は、私たちの疑問やつまずく気持ちも受け止めてくださいます。ピンポン玉をスプーンに乗せて、レースをします。慣れてきたら、少し難しいコースに挑戦してみましょ。落としても、つまずいても大丈夫。最後まであきらめずゴールを目指しましょう。

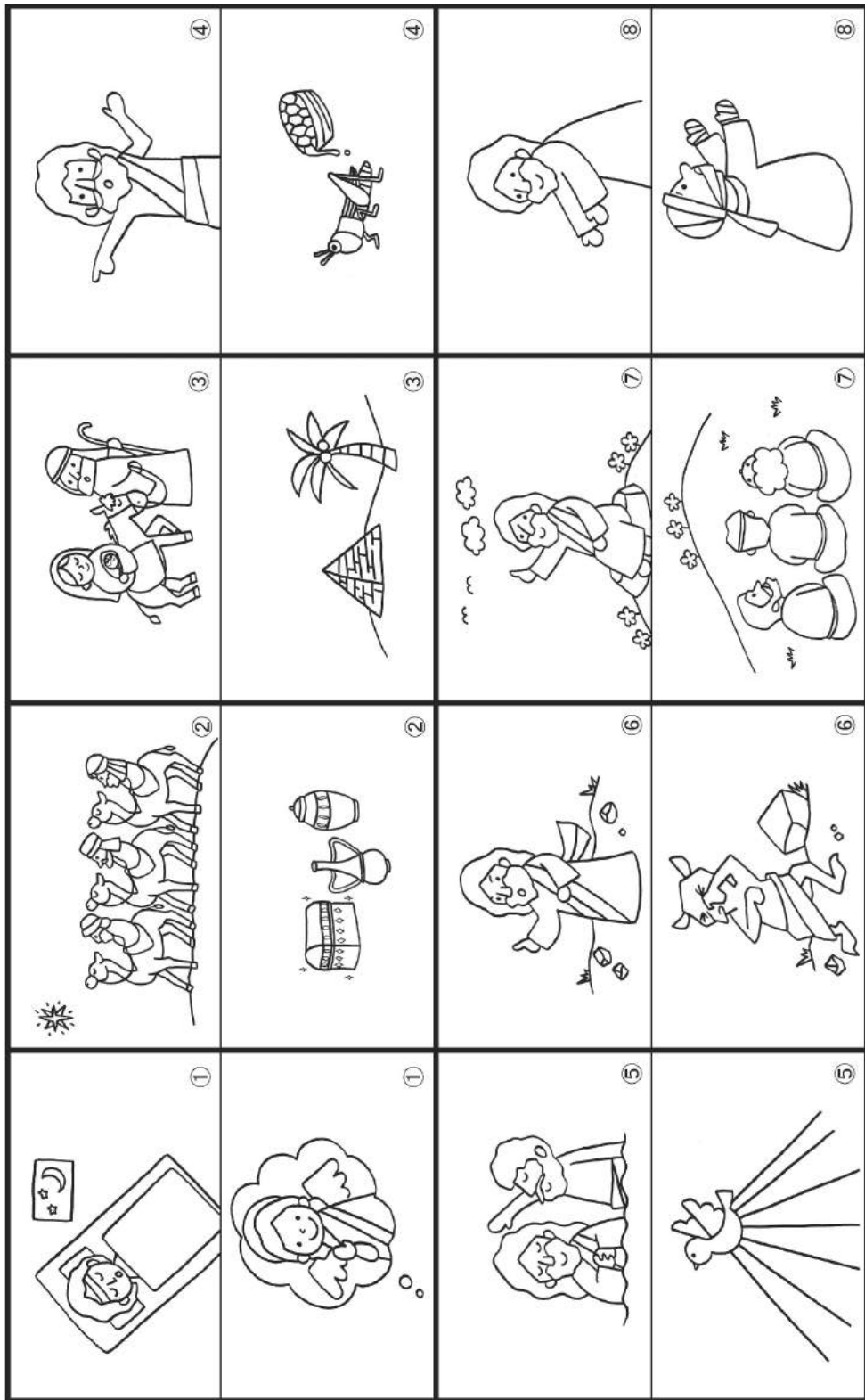
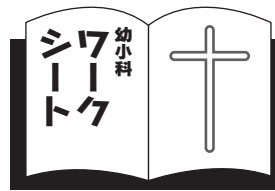
活動②

ワークシート

「絵合わせカルタ（マタイ版）を作ろう」

マタイ福音書から絵合わせカルタを作って遊みましょう。絵を描くのが好きなメンバーは、次の聖書箇所を読んで、自分で絵を描いてみましょう。

- ①夢をみるヨセフ／夢の中でお告げを語る 天使（1：18～20）
- ②東方の学者たち／黄金・乳香・没薬の贈物（2：9～11）
- ③ヨセフ、マリアと逃げる幼子イエスさま／エジプト（2：14）
- ④バプテスマのヨハネ／いなごと野蜜の食べ物（3：4）
- ⑤イエスさまのバプテスマ／鳩のような神の霊（3：16～17）
- ⑥断食するイエスさま／誘惑して負けるサタン（4：1～4）
- ⑦丘の上で、座ってメッセージを語られるイエスさま／それを聞く弟子たち（5：1）
- ⑧重い皮膚病を患っている人／触れて清くされるイエスさま（8：2～3）



自分の十字架を背負って

聖書

マタイによる福音書16章13～28節

暗唱
聖句

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。
陰府の力もこれに対抗できない。マタイ 16 : 18

47
課

2
月
21
日

イエスはだれか

人が何者かを問う時、出身地や家系、所属するグループなどによって計られます。他の人が何と言っているかは、その人の存在を決定づける大切な事柄でした。イエスは、弟子たちに人々の評判を尋ねます。人々は、偉大な預言者たちの名前をあげます。預言者たちは、神の言葉を預かり、語った人々でした。その時代を見極め、何が正しくまた間違っているかを権力にこびず人々に告げていきました。病人を癒し、死人を生き返らせたイエスの奇跡を見た人々は、そのような偉大な預言者だと言っていたのかもしれませんが。

「それではあなたがたはわたしを何者だというのか」との問いにペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えます。「メシア」は、「油注がれた者」の意味です。神の働きのための力と権威を与えられ、ヘブライ語聖書では、王、大祭司、預言者たちがその務めのために油を注がれました。「生ける神の子」は、マタイ福音書だけが記す告白です（マルコ、ルカの並行箇所参照）。預言者の一人としてではなく、特別な存在としての告白です。当時の社会は、ローマが支配していました。そこで使われるデナリオン銀貨には、皇帝の肖像と「カイザル・アウグストス・神の子・救い主」と刻印されていました（『EKK 新約聖書注解』1 / 3 教文館）。皇帝も自身を「神の子」と呼ばせていたのです。皇帝に使われていた呼び方を、ナザレのイエスに対して用い、「いのちを与え、いのちの源である生ける神の子」と告白したのです。

岩盤まで掘り下げて

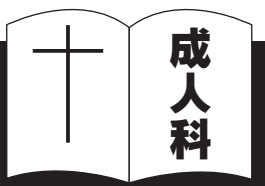
ペトロの告白に対し、イエスは、それは神からのものだと言われます。ペトロがどれほど理解していたかではなく、神が告白させてくださったというものです。「わたしもあなたに言うておく。あなたは岩（ペトロ）だ。この岩盤（ペトラ）まで掘り下げてわたしの民の集会（教会）を建てる」（『小さくされた人々のための福音』本田哲郎訳、新世社）と訳されています。教会（エクレシア）は、地の下の岩盤まで掘り下げたところに立つものです。生ける神の力は最も小さくされたところに注がれています。そこに天の国の鍵が授けられます。「つなぐことも解くこともできる」鍵です。「つなぐ」は「禁じる」こと、「解く」は「許すこと」で、「あなたがたが地上で禁じることは、神も禁じる。あなたが地上で許すことは、神も許す」ということになります。当時は律法学者たちが「禁じ・許して」いたことを集会（教会）に与えられたのです。神の国（支配）に入ることを禁じられていた人々に、入ることを許す権威が与えられたのでした。

自分の十字架

イエスの迫害の予告に対し、ペトロは、そんなことはありませんと言います。ペトロの思い描いていたのは、迫害ではなく君臨だったのかもしれませんが。そのことに対して「サタン、引き下がれ」と言われます。「十字架」は迫害、暴力の象徴です。誰にでも喜ばれ、

受け入れられることではなく、迫害や排斥・^{はいせき}排除が付きまとうのです。それらはこの世の価値観と違っていたら当然引き起こされてくるものです。しかし、イエスは神の絶対的な愛に信頼し、生き抜きます。生まれや性別、職業、からだの状態にかかわらずすべてのいのちは神から与えられ、愛されている存在なのだと言われたイエスは、迫害や暴力が迫る中でもそのメッセージを変えることをしませんでした。自分の生きる場で、イエスが生きられたように生きる時に十字架を背負うこととなります。しかし、それは、イエスによって背負われた存在としての自分を見出すところであり、いのちを見出す場にもなりません。低い抑圧された者たちの場所には、神の伴いがあるからです。

準備のための聖書日課			
15日	㊦	マルコ8:27～30	あなたはメシア
16日	㊧	ルカ9:18～20	あなたは神からのメシア
17日	㊨	マタイ14:22～33	あなたは神の子
18日	㊩	ヨハネ1:35～42	岩と呼ばれたシモン
19日	㊪	マタイ10:34～39	自分の十字架を担って
20日	㊫	ローマ2:1～16	おののおの行いによる報い



成人科

● 地の下の岩盤まで掘り下げたところにイエスの民の集い（教会）が立てられます。そこには教会の役割が示されています。低みに立てられる教会としてどのように立つことができるでしょう。低みからの視点とはどのようなものかを話し合ってみましょう。それぞれの教会の始まりや歴史を調べたり、長年教会生活をしておられる方の証しを聞いたり、教会が大切にしている「教会の信仰告白」を考えてみると、教会がどのようにイエスに従ってきたかを知ることができます。

- 鍵が預けられるということは、「つないだり解いたり」することができ、それがそのまま天上にもつながる大きな判断です。私たち（教会）に委ねられたこととは何だと思いませんか。何ができるでしょうか。
- 自分の十字架を背負ってイエスについていくということは、どのようなことかを話し合ってみましょう。十字架は、イエスに負わせたものであり、さらに自分で負うものでもあります。自分の十字架を背負って歩いて行こうとする時、そのようなわたしを背負ってくださるイエスをもまた見出すことができるものです。

自分の十字架を背負って

聖書

マタイによる福音書16章13～28節

暗唱
聖句

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。
陰府の力もこれに対抗できない。マタイ 16 : 18

47
課

2月
21日

イエス・キリストとは、「イエスは救い主です」という信仰告白です。イエスさまは、弟子たちに「あなたがたはわたしを何者というか」と尋ねられました。ほかの人たちは、偉い預言者の一人かもしれないと言っていたのです。預言者は神さまの言葉を人々に伝えた人です。ペトロは「あなたは、メシア、生ける神の子です」と言いました。「預言者の一人ではなく、神の子です。神さまと同じです」という告白です。イエスさまは、それは神さまがさせてくださった告白だから、そこに教会を建てると言われました。そして天の国に入る門の鍵をあげようと言われました。イエスさまの時代には、病気の人や外国人や律法のきまりを守れない人々は、入る資格がないと言われていました。でも、鍵があると自由に入ることができます。みんなが入ることができるようになるのです。

さらに、イエスさまはこれからエルサレムに行くこと、苦しみを受けて殺されること、三日目によみがえることを弟子たちに打ち明けられました。それを聞いたペトロは、「とんでもない」と言いました。どんな思いがペトロの頭をかすめたのでしょうか。病気の人を癒したり悪霊を追い出したりしたイエスさまです。感謝されても苦しめられるなんてとんでもないと思ったのかもかもしれません。イエスさまはそんなペトロに「サタン、引き下がれ」と言われます。びっくりする言葉です。でもそれくらい大事なこ



とをペトロに言われました。みんなから喜ばれるばかりではないのです。

わたしたちもイエスさまと同じように、困っている人や寂しい思いをしている人と一緒にいたり、お祈りしたりすることができます。でも、いじめられている人の味方をすると一緒にいじめられて嫌われることがあります。恐くて知らん顔したくなります。イエスさまはどうだったでしょう。イエスさまも恐かったかもしれません。でも誰もいじめられてはいけません。神さまから愛される大切ないのちです。だから味方をしました。どこでも神さまと一緒にいてくださると信じていたからです。今イエスさまが生きておられたらどこにいらっしゃるでしょう。きっと泣いている人と一緒にいてくださると思います。もし、イエスさまに従っていきたいと思うなら、私たちもそこにいたいと思います。最後まで人々を愛されたイエスさまを神さまが喜ばれたように、わたしたちにできる形で従っていくことをイエスさまは喜んでくださるのです。

自分の十字架を背負って

聖書 マタイによる福音書16章13～28節

暗唱 聖句 わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。
陰府の力もこれに対抗できない。マタイ 16：18

聖書から…

イエスさまは弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」（16：15）と問われました。皆さんにとってイエスさまとは「何者」ですか？ 人々が「洗礼者ヨハネ」とか、エリヤなどの偉大な「預言者の一人」と言う中で、ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」（16：16）と答えました。ペトロはイエスさまを、自分の救い主（メシア）と告白したのです。その救い主であるイエスさまが、弟子たちに、そして、私たちに言われます。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（16：24）。

「自分の十字架を背負う」とは、どういうことでしょうか？ 「聖書の学び」には「自分の生きる場で、イエスが生きられたように生きるときに十字架を背負うこととなります」とあります。私たちも、そのことをクラスで思い巡らしてみたいと思います。46課の「分かち合おう」の繋がり言えば、「敵」と呼ぶような他者を愛し抜かれたのはイエスさまその人でした。悲しみの現実に、神の幸いを忘れなかったのもイエスさまその人です。でも、イエスさまのそのような「生」を、誰が生きることなどできるでしょうか？ この問いの前に立ち尽くすしかない私たちを引き受けて、ご自身の十字架を負うイエスさまがおられます。そのイエスさまに背負われて、私たちは今日もそれぞれの十字架を負うようにと招かれています。

分かち合おう

- 「イエスさまに従う」ということが、教会の中で語られたり、賛美歌で歌われたりすることがあります。たとえば、皆さんはどのような思いで、その賛美歌を歌っていますか？ 『新生讃美歌』（日本バプテスト連盟発行）の中に「イエス（主・神・み旨・み心など）に従う」の歌詞が含まれた曲を調べてください。その歌詞を味わいながら、もう一度「イエスさまに従う」とは何かを考えてみましょう。
- 「WWJD」という言葉を聞いたことがありますか？ What Would Jesus Do？ 「イエスならどうされるか？」です。私たちは「イエスさまに従う」と言いながら、自分の思い通りの神（イエス）さまを求めていたり、自分が願う理想の神さまのイメージがあったりするかもしれません。イエスさまは「わたしに」従いなさい」と言われました。「こんなとき、イエスさまならどうされるだろう？」。そうした問いが私たちの生き方を少し違うものにするでしょうか。

自分の十字架を背負って

聖書

マタイによる福音書16章13～28節

暗唱
聖句

わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。
陰府の力もこれに対抗できない。マタイ 16 : 18

聖書から…

教会はイエスさまから天の国の鍵^{かぎ}を与えられました。この鍵を持っていれば、天の国に入るのも、入るのを禁止するのも自由です。そんなに大事なものを渡されたら、緊張してしまいますね。なぜイエスさまはそんな大事な鍵を教会に渡されたのでしょうか。それは「あなたは生ける神の子です」と告白したペトロの上にイエスさまが教会を建ててくださったからです。

わたしたちの教会も、この鍵を神さまから委ねられています。ですから教会は、緊張しながらも、「教会に加わりたい」「神さまを信じて生きていきたい」というみんなと、仲間になっていきます。困っている人、寂しい思いをしている人と一緒にいて、お祈りができるような教会、神さまから愛されている命が大切にされる教会、それが神さまが支配する国、神さまの守りがある天の国そのものではないでしょうか。

活動①

「天の国の鍵」

●準備●段ボールや空き箱、アルミホイル
「神の国と神の義」(『新生讃美歌』293番日本バプテスト連盟)を賛美しましょう。賛美しながら天の国の鍵を作ってみましょう。天の国の鍵ってどんなのかな？

- ①段ボールや空き箱に鍵の絵を描きます。
- ②描いたら線をハサミで切ります。空き箱を使う時は同じ形を数枚切って貼ると厚

みが出て鍵らしくなります。

- ③アルミホイルをかぶせてでき上がり。

活動②

ワークシート

「クロスワード 天の国の鍵」

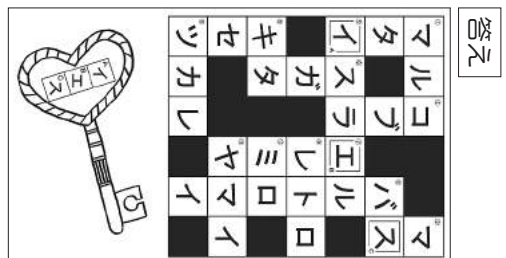
クロスワードを解いて、天の国の鍵を見つけよう。

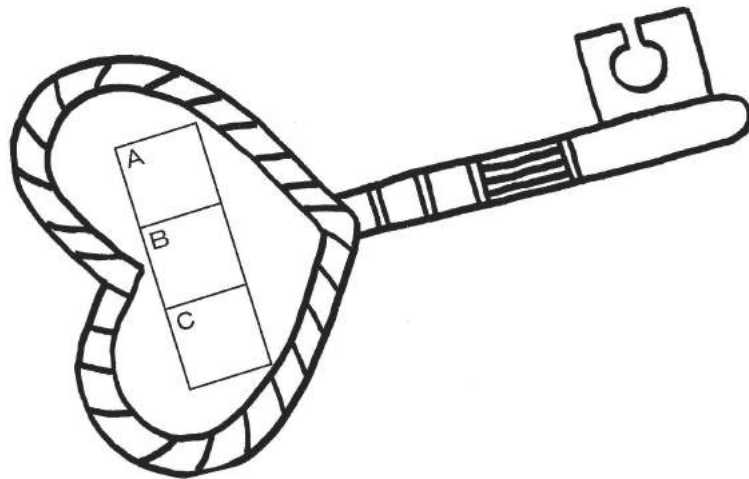
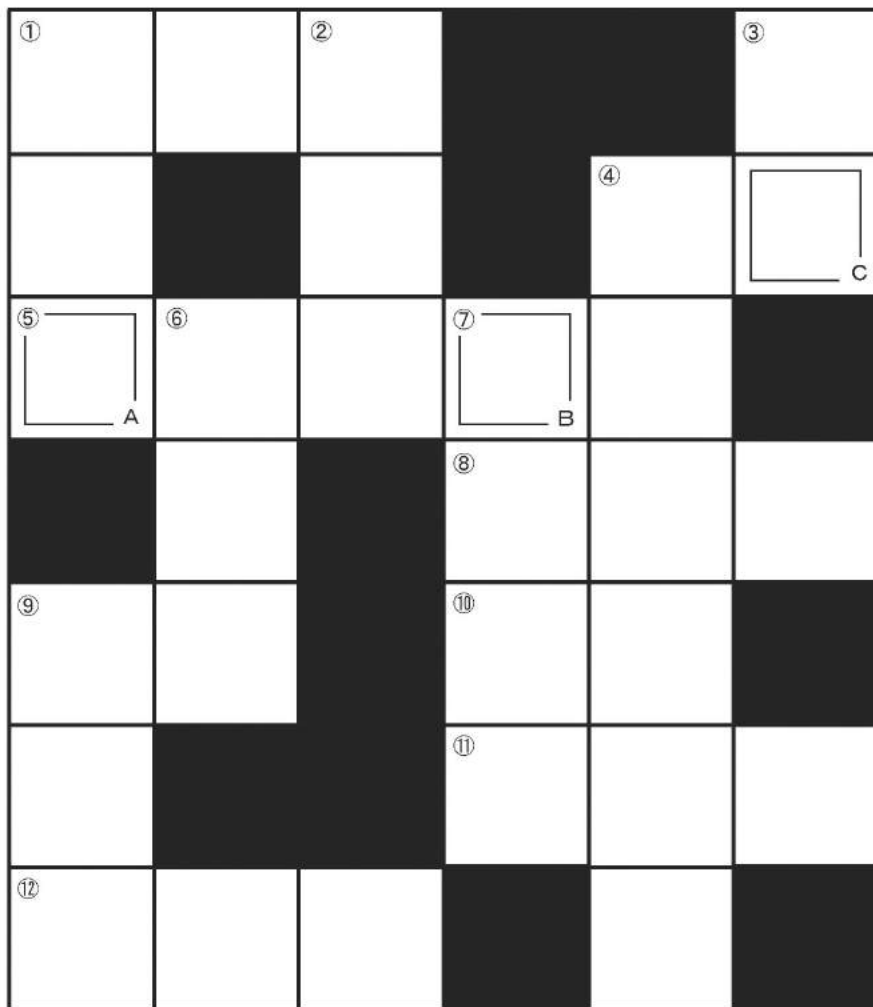
- ヒント：たて①今日は〇〇〇福音書を読む
②猛毒をもっているへび
③『ともしびを〇〇の下に置く者はいない』(マタイ 5 : 15)

- ④ 12弟子の一人。(マタイ 10 : 3)
- ⑥ 『イエスの〇〇〇が彼らの目の前で変わり…』(マタイ 17 : 2)
- ⑦ 涙の預言者(イザヤ書の次にある書)
- ⑨ 一年に4つある

よこ①(たて①)の次の福音書

- ④ 路線〇〇、〇〇ツアー
- ⑤ イサクの息子ヤコブのこと。ヘブライ語で神の支配という意味。
- ⑧ 古いものを好むこと。〇〇〇な服。
- ⑨ 東、西、南、あと一つは？
- ⑩ 〇〇のヴィーナス
- ⑪ 病気のこと
- ⑫ 〇〇〇た者はわたしが休ませてあげよう(マタイ 11 : 28)。





ろばにのって

イエスのエルサレム入城の場面です。エルサレム手前の村で弟子たちにろばを調達させます。協力者がその村にもいたのかもしれませんが。21：3は合言葉のようにも思えます。弟子たちは、イエスの言われたようにろばを引いてきます。著者マタイは、ろばに乗ってエルサレムに入るイエスを記します。この背景には、ゼカリヤ書の預言があると思われます（ゼカリヤ9：9～10）。神がイスラエルに与える王は、馬に乗る戦士のような王ではなく、柔和であって（9：9口語訳）、ろばに乗ってこられる平和の王です。武力を手放し平和をもたらす王が約束されています。ここで使われている「高ぶることなく」のヘブライ語「アーニー」には、「貧しい、不幸な、哀れな、へりくだった、柔和な」という意味があります。

柔和な王

「柔和」というと、「穏やか、やさしい」という印象がありますが、「柔和」と訳されているギリシア語「プラウース」は福音書の中ではマタイだけが使っている言葉で、3回登場します（5：5、11：29、21：5）。本田哲郎訳では、「抑圧よくあつにめげない」と訳しています。何重もの抑圧に苦しめられても打ち倒されず、顔をあげ抗あらがう瞳を想像します。抑圧者に対して力で抵抗するのではなく、ただ屈するのでもなく、新しい抵抗の仕方、非暴力抵抗（5：39）の知恵があります。21：12

からは神殿の境内で商売をしていた人々を追いつく激しい様相を見せています。言うべきことは言う芯の強さのようなものでしょうか。イエスは、神に対しては徹底して従順な生き方でした。神が人間に対して心動かされて寄り添われたように、傷む人々に心突き動かされて寄り添って生き抜かれました。十字架を前にして悲しみもだえながら神に祈る姿があります。しかし、「あなたの御心が行われますように」と委ねていくのです（26：42）。人々に対しては、ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても人をおどろかさず、正しくお裁きになる方にお任せになりました（ペトロ2：23）。神に委ねることができることも「柔和」の意味にとれるかもしれません。イエスの生きざまには、このような「柔和」を見ることができます。決して穏やかで優しいだけではありませんでした。先述のヘブライ語の意味を考えると、貧しく不幸で哀れな姿がそこにあります。神が与えると約束した王は、軍馬に乗る王ではなく、弱く貧しい姿（イザヤ53：2参照）でした。ろばに乗るイエスの姿は、まさに「柔和な王」を現したものでした。

ホサナ

ろばに乗ったイエスを村の人々は歓迎します。約束されたメシアとしてのイエスを歓迎している民衆がいます。「ホサナ（救ってください）」の声に連なる人々は、癒いよされた人、解放された人々がそこにはいて、「ろばに乗る王」を歓迎し、期待したのでしょうか。し

かし、エルサレムに入ると様子は変わります。「都中の者が…騒いだ」(21:10)は、好意的な反応ではなく、恐れによる身震いを意味します(28:4参照)。イエスの誕生の時も同じような反応がヘロデとエルサレムにありました(2:3)。十字架を前にしてエルサレムに入る時にもまた同様のことが起こったと著者マタイは記します。イエスを前にして揺れるのです。宗教的な中心地エルサレムの人々にとってガリラヤは、「異邦人のガリラヤ」であり、「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言われるようなところです(ヨハネ1:46)。貧しい群衆と登場した預言者がどれほどの者だろうと、イエスの登場は、それまでの価値観をひっくりかえし、「恐れ」をもたらすものでした。救いを期待した群衆と、騒ぎ立つエルサレム。イエスを前にして

準備のための聖書日課

22日	㊦	ゼカリヤ9:9~10	子ろばに乗る王
23日	㊦	詩編118:22~29	祝福あれ、ホサナ
24日	㊦	イザヤ62:10~12	御救いの行進
25日	㊦	ペトロ一2:23~25	魂の牧者のもとへ
26日	㊦	ヨハネ1:43~51	ナザレの人イエスとの出会い
27日	㊦	マタイ21:12~17	ダビデの子にホサナ

さまざまな思いが渦巻きます。この不安が間もなくイエスを十字架へと追いやっていくのです。



成人科

- ろばに乗ったイエスの登場は、人々にいろいろな反応を起こさせます。ガリラヤの人々は大喜びをし、エルサレムは騒ぎ立ちます。その姿は、堂々とした馬にまたがる姿ではなく、あまり見る影もない様で登場します。武力ではなく平和をもたらす王の姿です。周辺にいた人々は喜び、中央にいた人々は戸惑います。まったく新しい価値観は、私たちにある種の挑戦をしかけます。固まった価値観を壊し新しいものを作り上げていくか、拒否し排除しようとするか。喜んだ人々はなぜ喜んだのでしょうか。
- 「いったいこれはどういう人だ」との群衆の声は、私たちへの問いかけのようにも響きます。どのように答えるでしょうか。柔和な方でろばに乗るお方はどのような方だと思いますか。分かち合ってみましょう。みすぼらしく弱弱しい姿でイエスが来られたらあなたはどのように反応すると思いますか。イエスに何を期待しているのかが垣間見えてくるのではないのでしょうか。イエスを自分に都合の良いイメージに閉じ込めていませんか。

柔和なお方

聖書

マタイによる福音書21章1～11節

暗唱
聖句

お前の王がお前のところにおいでになる、柔和な方で…
荷を負うろばの子、子ろばに乗って。マタイ 21:5

48
課

2月
28日

イエスさまの一行がエルサレム近くのベトファゲという村に着いたとき、イエスさまは、弟子たちに「村に入るとすぐ子ろばがいるからそれを引いてきなさい。誰かに何か聞かれたら『主がお入り用なのです』と答えなさい」と言われました。弟子たちが村に入るとその通りだったので、イエスさまの言われたように子ろばを連れてきました。イエスさまがろばに乗られるとたくさんの人々が集まって、道に自分の服や木の枝を敷きます。そしてイエスさまにむかって「ダビデの子にホサナ」と叫びました。「ホサナ」とは、「救ってください」という意味で、特別な人が来た時にみんなで喜んで迎えるやり方でした。

昔昔、イスラエルには王様はいませんでした。よその強い国には王様がいて軍隊があります。イスラエルの人々は強くなりたくて、神さまに王様をくださいと祈りました。神さまはそれに賛成しません。民が苦しむからです。それでも王様が欲しいと願うので神さまは王様を選びました。結果は神さまの言う通りでした。イスラエルの民は長いこと王様に苦しめられることになり、王様は強くなりたくて戦争をします。強い武器を持ち立派な馬に乗っていきま。そのうち戦争に負けて国もなくなってしまいます。

心もからだもボロボロになったイスラエルの民に、神さまが本当の王様を与えると約束されました。ゼカリヤという預言者が、



その王様は、子ろばに乗ってやって来ると預言したのです。ろばは平和を表しています。武器ではなく平和でみんなを治める王様。一番小さい人を大切にされる王様。みんなが平和に仲良く暮らせて、ちゃんとごはんが食べられるような国を作る王様。泣いている人がいたらすぐに行って慰めてくれる王様。イスラエルの人々はそんな神さまの約束を待ち望んでいました。イエスさまがろばに乗って登場された時、村の人々は、「約束の王様」を想像したのでしょうか。「この方ならわたしたちを助けてくれるかもしれない」と思ったかもしれません。

エルサレムに入っていくと、町中の人々が、「これは誰だろう」と驚きます。人々の心はザワザワします。イエスさまが来られた時、喜んで迎えた人と怖がった人たちがいたのです。なぜでしょう。そこには、いろいろな思いが巻き起こっていました。マタイは、「イエスさまこそが、神さまが約束してくださった王様だ」と言いたかったのです。私たちだったらイエスさまのことをどんな方だと言うでしょう。

柔和なお方

青少年科



聖書

マタイによる福音書21章1～11節

暗唱
聖句

お前の王がお前のところにおいでになる、柔和な方で…
荷を負うろばの子、子ろばに乗って。マタイ 21：5

聖書から…

イエスさまはろばに乗ってエルサレムに来られました。それは旧約聖書ゼカリヤ書に書かれている神さまの約束の実現でした。神さまは本当の王さまをイスラエルの人たちのところに送ってくださったのです。でも、ろばに乗る王さまってどうですか？ イスラエルの人たちの反応も様々です。「王さま」と聞いて、皆さんは何をイメージしますか？ また本当の王さまが与えてくださる「救い」とは、どのようなものだと思いますか？

ろばに乗る王さまイエス…、自分の王さまのイメージとかけ離れているイエスさまの姿に、驚き恐れる人たちがいました（21：10）。「ダビデの子にホサナ（救ってください）」（21：9）と歓喜の声を上げた人たちも、このとき本当の意味での「救い」を知る人はどれほどいたでしょうか。思い起こせば、牢の中にいたバプテスマのヨハネも（46課）、また「あなたはメシア、生ける神の子です」と告白したペトロも（47課）、イエスさまに躓かないではおれませんでした。それほどまでに、私たち人間（この世）が描く「救い」や「平和」は、神さまが与えてくださるそれらのものとはまったく異なるものでした。まことの救いと平和は人間からではなく、ただイエスさまが来てくださる（エルサレム入城）ことによって、私たちに与えられるものなのです。

分かち合おう

- ろばに乗ってこられる平和の王さまイエス…。皆さんは、そのイエスさまをどのようにお迎えしますか？ 歓迎しますか？ 驚き恐れますか？ それとも無視しますか？ この世の常識や価値観に照らして言うならば、そのどこに平和や救いが実現するのでしょうか。今もこの世界の多くの人々が「馬に乗ってくる王さま（軍事の象徴）」に救いを求めているのではないのでしょうか。ろばに乗って来る王さまのどこに、私たちの平和や救いがあるのでしょうか？
- 「聖書の学び」に「柔和」という言葉の解説があります。「柔和」という言葉には、どのようなイメージがありますか？ 分かち合ってみましょう。「聖書の学び」には「神に委ねることができることも『柔和』の意味にとれるかもしれません」とありました。先の見通しが効かないような不安も多いこの時代にあって、何でも「わかる（判断する・答えを得る）」ということで安心を得たい気持ちもありますか？ でも、人生のすべてを人間の力で切り拓くことはできません。人間の「わかる・わかった」を手放して、わからない（神に委ねる）を生きたときに、備えられる道があるのではないのでしょうか。

48課

2月28日

柔和なお方

聖書

マタイによる福音書21章1～11節

暗唱
聖句

お前の王がお前のところにおいでになる、柔和な方で…
荷を負うろばの子、子ろばに乗って。マタイ 21:5

聖書から…

今日の聖書箇所は過越祭という大事なお祭りの前。準備の人々でにぎわうエルサレムに、子ろばに乗ったイエスさまがやってきました。その場は、まるで王様が入城するかのような歓迎ぶりです。子ろばに乗ったイエスさまは、みんなと同じ目の高さです。全然強そうにも偉そうにも見えません。イエスさまの行列がエルサレムに入ると、今度はイエスさまを受け入れない人々に出会ったのです。

イエスさまはそんな王様です。自分がののしられ、苦しめられているときでさえ神さまに従い、人々を愛された王様です。どんなときでも神と人に仕えた王様です。だからこそ、私たちがどんなに苦しくても、「インマヌエル（主が共にいてくださる）」と知ることができるのです。

活動①

「子ろばに乗って」

●準備 ●緑の紙、折り紙、筆記道具

①「主は豊かであったのに」（『新生讃美歌』

176 番日本バプテスト連盟）を賛美しましょう。

②子ろばに乗ったイエスさまを作りましょう。手の型を2つ、緑色の紙に取り、それを棕櫚の葉に見立てます。折り紙で作った子ろばにイエスさまを乗せ、最後に暗唱聖句を書いたらでき上がりです。



活動②

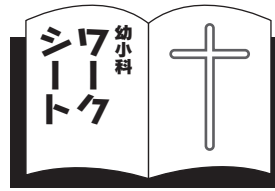
ワークシート

「弱くて強い？ 低くて高い？ びっくりを探せ！」

聖書には弱いのに強かったり、低められた人が高められたりと、普通では考えられないこと、びっくりするようなことがたくさん書かれています。それは神さまがなされたことだと私たちが知るようになるためです。聖書を開いて、ワークシートにあるびっくりを探してみましょう。

た？主師記7:1~7 答え(300)人。
ちなみに一人何人倒す計算？割り算のできる人はやってみよう。
式：13万5000 ÷ (300) = (450) 450人
(4)5千人の給食。男だけ5千人の群衆に、どのくらい
の食べ物が必要だった？マタイ 14:19
(5)20パンと(2)匹の魚
(5)天の国でいちばん偉い者はだれ？マタイ 18:4
「自分を(低<)して、この(高<)も(子ど)のようになる人が、
天の国でいちばん偉いのだ。」

景観
(1)マタイの誕生。創世記 17:17
お父さんの名前(アブラハム)、年齢(100)歳くらい。
お母さんの名前(サラ)、年齢(90)歳くらい。
(2)エリコの戦い。エリコの町をどのように倒した？
ヨシヤ記 6:1~19
①町の周りを(1)周する。(6)日間続ける。
②(7)日目には、町を(7)周する。雄羊の(角笛)を
吹き鳴らし、陣の声をあげたら、町の壁は崩れ落ちる。
(3)マタイの戦い。ミナブツ人13万5000人に対し、
キチオンたちは最終的に何人まで勝つようにと主は言われ



(1) イサクの誕生。 創世記17:17

お父さんの名前 ()、年齢 () 歳くらい

お母さんの名前 ()、年齢 () 歳くらい



(2) エリコの戦い。エリコの町をどのように倒した? ヨシュア記6:1~5

① 町の周りを () 周する。それを () 日間続ける。

② () 日目には、町を () 周する、雄羊の () を
吹き鳴らし、関の声をあげたら、町の () は崩れ落ちる。



(3) ギデオンの戦い。ミディアン人13万5000人に対し、

ギデオンたちは最終的に何人で戦うようにと主は言われた? 士師記7:1~7

答え () 人

ちなみに一人で何人倒す計算? 割り算のできる人はやってみよう。

式 $13万5000 \div () = ()$ 答 () 人



(4) 5千人の給食。男だけで5千人の群衆に、どのくらいの食べ物が必要だった?

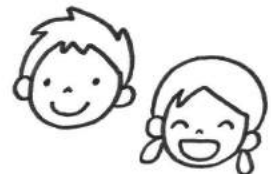
マタイ14:19

() つのパンと () 匹の魚



(5) 天の国でいちばん偉い者はだれ? マタイ18:4

自分を () して、この () のようになる人が、
天の国でいちばん偉いのだ。」



天の国はどんなところ？

聖書

マタイによる福音書25章1～13節

暗唱
聖句

だから、目を覚ましていなさい。
マタイ 25 : 13

天の国のたとえ話

イエスのたとえ話は、日常のさまざまな場面から語られています。身近でありながら、その中にありえない出来事が挟まれているように感じられます。聞き手はドキッとさせられ、自分自身を問われます。身近な事柄として受け止めつつも、すんなりとは自分のものにできないようなダイナミックさがあります。「天の国はこのようなものだ」とイエスが語られるとき、人々は期待を膨らませ、同時に自分を問われる体験をしていたのではないのでしょうか。教訓的な語り口調というより、聴衆に対して「あなたはどうか？ どう生きる？」と問いかけるイエスの姿が浮かびます。イエスの譬え話は、「～のようなものです」（同一）と「比べられる」（比較）と訳すこともできます。今回の「たとえられる」（25：1）は後者で、天の国（神の国）は「婚礼と比べられる」と訳すことができます（『イエスの譬え』J.エレミヤス 善野碩之助訳 新教出版社）。そこから読んでいきたいと思えます。

10人のおとめの話

「比べる」のですから、婚礼式にまつわる事柄の中で起こった出来事全体が天の国と比べられるというものです。花婿が花嫁を自分の家に連れていく行進を、歌とダンスで盛り立てるおとめたちがこのたとえ話の主役です。花嫁の友人たちか、または花婿の家の召使だったのかもしれませんが。準備をして待ちましたが、花婿の到着が遅れ、全員が眠り込

んでしまいます。アクシデントがありますが、「賢い」おとめたちは、予備の油を持っていたので対応でき、花婿といっしょに祝宴の席に着くことができます。しかし、「愚かな」おとめたちは、油を持っていなかったのので間に合いません。予想しない出来事により、10人のおとめたちに分断が起こっています。いざという時に協力して事に当たるのではなく、備えをしていた者たちだけが「賢い」とされ、宴会に入ることができます。最後に登場する「主人」は「愚かな」おとめたちを「お前たちを知らない」と閉め出してしまいます。持てる者だけが生き残ることができ、そうではない者たちは捨てられていくようなことは、イエスの話を聞いた人々も身近なこととして知っていたでしょう。しかし、天の国もそのようなものなのでしょうか。

備えていること

10人のおとめの物語は、他の福音書には記されていません。著者マタイが、イエスの再臨がなかなか実現しない時代を生きる教会に対して、「だから、目を覚ましていなさい」（25：13）と、「その日、その時」の到来に対しての備えを促しているのでしょう。「備える」とは、いつ来ても良いように今を生きることではないのでしょうか。

譬えと比較する「天の国」は、私たちの生き方への問いです。予想外の出来事が起こった時に助け合うこと、誰かを残すのではなくみんなが喜びの宴に入れるように「賢さ」を用いることができます。「目を覚ましてい

なければ」と思っても眠り込んでしまう、何が起きても臨機応変に対応できる知恵と力を持てれば良いと思うのですが、そもいかないのが私たちです。そんな時に互いに共感し、助け合い、一緒に喜ぶ場所に神の国を想像します。イエスは神の国の到来（すでに来ている）を宣言されました。生き残りのために誰かを犠牲にしたり排除したりする必要のない神の支配が約束されたのです。取り残され、捨てられる心配をしなくても良いのです。誰もが完全にはなれないところ、「賢さ」も「愚かさ」をもイエスは引き受けてくださっています。だからこそ、分断ではなく共にいのちが守られる道を探ることができます。「あなた方の中に神の国はあるのだ」と宣言されたイエスの恵みに立つときに、今を生きる私たちが、豊かな神の国を垣間見ることができるのです。

準備のための聖書日課

1日	㊦	ルカ12:35~40	ともし火を灯していなさい
2日	㊦	ルカ17:20~21	神の国はあなたがたの間にある
3日	㊦	マタイ10:16	蛇のように賢く
4日	㊦	マタイ24:1~14	なぜ耐え忍ぶのか
5日	㊦	マタイ24:15~31	主の警告に耳を傾けて
6日	㊦	マタイ24:32~51	滅びを超えて



成人科

- たとえ話を、自由に聞き、解釈することができますか？ イエスさ

まのたとえ話を聞いていた人たちのように、文字ではなくお話として語り聞かされていたことを想像しながら、このたとえ話を聞いてみましょう。どんなところにひっかかりましたか。また何が印象に残り、新たに気づいたことがあるでしょうか。正しいか間違っているかではなく、率直な思いを自由に出し合ってみましょう。油を準備していた人、していなかった人がいっしょに生き残る道はなかった

のか、分かち合うことはできなかったのか、など考えたことはありますか？

- この家の主人は、間に合わなかったおとめたちをドアの外に閉め出してしまいましたが、神さまの支配されるところは、このたとえ話のように誰かが閉め出されてしまうようなところなのでしょう。私たちが信じる神さまはどのような方なのか、私たちの群れはどのような共同体（教会）を造ろうとしているのか、どんなイエスを伝えていこうとしているのか、話し合ってみましょう。

天の国はどんなところ？

聖書 マタイによる福音書25章1～13節

暗唱 聖句 だから、目を覚ましていなさい。
マタイ 25 : 13

イエスさまが、たとえ話をされました。明かりを灯す役割の10人のおとめたちのお話です。結婚式をする人たちにとっては、うれしい時です。花婿が花嫁をつれて行進をおこなうと夜遅くになることもあります。その時にランプを持って明かりを灯す役割を与えられたおとめたちがいました。花嫁の家で花婿が迎えにくるのを待っていました。なかなか来ないので、みんな眠り込んでしまいました。しかし、「花婿がきたよ、みんな起きて」という声に飛び起きます。5人のおとめは、ともしびと一緒に油を用意していたので、すぐに立ち上がっていくことができました。でも、他の5人は油の用意が足りなくて、ともしびをつけることができません。準備をしていた5人に「私たちに油を分けてください」とお願いしますが、「お店に行って買ってきなさい」と言われてしまいます。そこで夜中の町に出て行って探し回ります。ようやく帰ってくると、もう宴会の席の扉が閉まっています。入ることができません。「開けてください！」とどんなに叫んでも「お前たちのことは知らない」と言われてしまうのです。

と、こんな話をされたイエスさまは、「天の国を想像してごらん。こんなだと思いませんか」と人々に問いかけます。みなさんはどう思いますか？ 天の国も賢い人たちだけが入れるのでしょうか？ 油を分け合って、みんなで一緒に入ることはできないの



でしょうか？ もし、「賢い」5人の方に自分が入っていたらどう感じるでしょう。安心しますか。もし「愚かな」5人に入っていたらどう感じるでしょう。油をわけてもらえずに夜中の町を捜し歩いてやっと準備できたと思っていたら、扉が閉められて入れてもらえません。どんなに悲しいでしょう。「天の国」はそんなものでしょうか。

わたしたちは、いつも完全になれるわけではありません。一生懸命がんばってもそれができないこともあります。失敗もたくさんします。そんなわたしたちにイエスさまは、「神さまから見たら、どんなに小さな人も神さまの大切な子どもで、守ってくださいよ」と言ってくださいました。だから、わたしたちも誰かを大切にすることができるのです。いじわるしたくなるのは、自分が大切にされているかどうか心配だからでしょう。そんな心配は、しなくてもよいのです。みんなが大切にされ、みんなが喜べる天の国をイエスさまが示しました。わたしたちがお互いに大切にしようところに、天の国を見ることができるようです。

天の国はどんなところ？



聖書

マタイによる福音書25章1～13節

暗唱
聖句

だから、目を覚ましていなさい。
マタイ 25：13

聖書から…

皆さんは聖書を読んでどんなことを感じますか？好きな音楽を聴いたり映画を観たりするときのように、心を動かされることはありますか。ここまで「マタイ福音書」のイエスさまの話しを聴きながら、うれしくなったり、悲しくなったり、あるいは驚いたり、^踏躓くようにモヤモヤしたり…、そうした気持ちになることはありますか。イエスさまは天の国のたとえを話されました。「賢い」おとめと「愚かな」おとめの話しに、弟子たちは心穏やかではなかったでしょう。聖書からイエスさまの話しを聴くときに大切なことは、心を動かされることです。ゆさぶられることです。

イエスさまの天の国のたとえを聴いて、皆さんは何を感じましたか。特に青少年の皆さんにとって、「天の国（神の国）」とは今の自分に関係の薄い遠い（死後の）世界の話と思うかもしれません。けれどもイエスさまは遠い世界の話ではなく、今の私たちの生き方を問う話しをしておられるのです（聖書の学び参照）。今、私はイエスさまと共に生きようとしている“わたし”だろうか？今、私はイエスさまにあって出会いを与えられた隣人を喜ぶ“わたし”だろうか？何のために、どこに向かって生きているのかも分からなくなるような私たちです。イエスさまの言葉に「目を覚まされて（心を動かされ、ゆさぶられて）」、天の国に生かされている喜びを分かち合う者とされたいと思います。

分かち合おう

- 目を覚ましていなければならないときに、居眠りをした経験はありますか？この課のたとえ話しの居眠りは、私たち人間の「弱さ」を表していると思います。「賢い」も「愚か」もなく、全員が「眠り込んでしまった」（25：5）のです。「目を覚ましていなさい」と言われても、すべての人は眠り込む…。そもそも天の国に「ふさわしい」などという人は、誰がいるのでしょうか？たとえの最後に、イエスさまはダメを押すように言われました。「だから、目を覚ましていなさい」（25：13 暗唱聖句）。「目を覚ましていなさい」とは、どのようなことだと思いませんか？
- 「マタイ福音書」は、弟子たち全員が眠る中で十字架を前に目を覚まし祈り続けるイエスさまの姿を描きます（51課）。目を覚まし祈り続けてくださるイエスさまがおられるからこそ私たちではないでしょうか？たとえ話しの解釈は一つではありません。皆さんそれぞれが受け止めたことと「聖書の学び」の解釈と対話してみてください。

天の国はどんなところ？

聖書 マタイによる福音書25章1～13節

暗唱 聖句 だから、目を覚ましていなさい。
マタイ 25：13

聖書から…

イエスさまは「いつ天の国が来てもいいように、準備をなさい」と教えてくださいました。当時のランプは片手の中におさまるほどの大きさだそうです。火をつけると数時間はもちます。普通だったら一度入れた油で足りたでしょう。ですが天の国は私たちの都合では来てくれません。神さまが決められたときにやってくるのです。一人も減びないようにと、神さまはぎりぎりまで待っていてくださっているかのようです。

私たちは一生懸命がんばってもできなかつたり、失敗したりすることもあります。「神さまから見たら、どんなに小さな人も神さまの大切な子どもで、守って」（みんなで聴く聖書のおはなし）良い方へと導いてくださることを忘れないでください。

活動①

「ともしびをもって…」

①「キリストのへいわ」（『こどもさんびか改訂版』34番日本キリスト教団出版局）を賛美しましょう。今日の聖書箇所に合わせて、キリストの「ことば」が…、キリストの「ひかり」が…等と歌いましょう。

②オイルランプを作ってみましょう。

（材料）蓋つきの小さい空き瓶、古い木綿の切れ端（5cm×10cmほど）、直径1ミリ程のワイヤー30cm、サラダ油

1. 芯を固定させる台を作ります。空き瓶の底より少し小さい直径になるように、ワイヤーを1周巻き、そのままらせん状

に細く巻きます。瓶の縁より少し低いくらいの高さでやめます。

2. 芯を作ります。木綿の布を細長く丸め、1で作った台に入れます。先端が5mm出るようにして、残りはワイヤーの内側に収めます。芯が長いとススが出てしまいます。

3. 芯の入った土台を空き瓶に入れ、ぐらぐらしないよう調整し、芯が5mm出る程度までたっぷり油を入れて完成。油は揚げ物に使った使い古しのものでも可。

4. 火をつけてみましょう。取り扱いには十分気をつけてください。終わったら、火を消して、蓋をすると持ち運びに便利です。事前に、水入りバケツなどを用意しておきましょう。

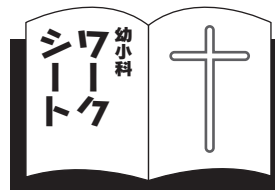


活動②

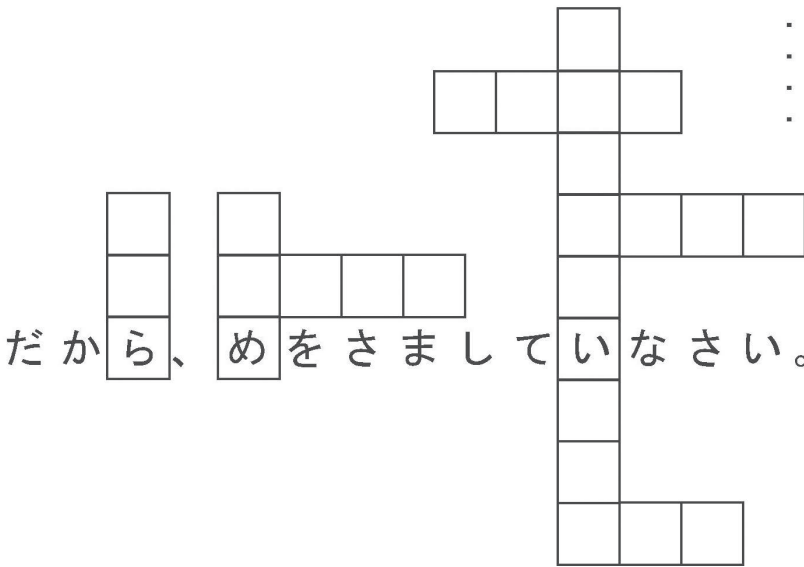
ワークシート

「目をさまして、よ～く見てみよう」

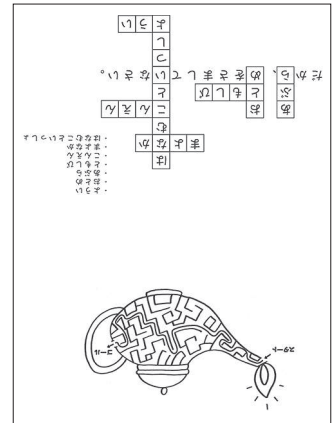
昔のオイルランプを見たことはありますか？ いろいろな模様がほどこされていて、とてもきれいです。模様のようなランプの迷路に拡大コピーしてチャレンジしてみよう。空白のランプには自分で迷路を作ってみたり、世界に一つだけの模様を描いてみましょう。もう一つは今日の聖書箇所に出てくる言葉がカギのクロスワードパズルです。解けるかな？ よ～く見てみてね。答えは事前に切り取ってください。



- ・ ようい
- ・ おとめ
- ・ あぶら
- ・ ともしび
- ・ こんえん
- ・ まよなか
- ・ はなむこといっしょ



答え



小さい者のひとりに

聖書

マタイによる福音書25章31～46節

暗唱
聖句

この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。
マタイ 25 : 40

右と左に

人の子が栄光に輝いて来るとき、どんなことが起こるかが描かれています。すべての国の人々を右と左に分けられます。右には、祝福され、約束された神の国を継ぐ人々。左には、呪われ、永遠の火の中に入れられる人々です。マタイははっきりとした「裁き」を強調しますが、それは、今の生き方を問うているのです。イエスの招きに応答するか拒否するか。そこでは「中立」は成り立たず、決断しかありません。そして、生き方の基準は、「わたしの兄弟である最も小さい者」にしたことと、しなかったことです。それはイエスにしたことであり、しなかったことだと言われます。「したこと」ばかりではなく「しなかったこと」に対しての判決でもあります。イエスに対する主告白だけでなく、愛を実践したかどうか問われます。「したこと」「しなかったこと」は、永遠のいのちと消えることのない火の結果をもたらすほど大変なことだと言われています。最終的な判決の前にはやり直しがききません。だから、やり直しのできる「今」どのように生きるかが問われています。

最も小さい者

「最も小さい者」とは、イエスの弟子たちを指していたと思われます(10:42)。イエスの弟子たちは、イエスに召し出され、派遣された人々でした。なにも持たず、食べるものや眠る場所は誰かの世話を受けねばなりません。そのような者たちに愛の実践をした

人々は、それがイエスへの愛の行いとして受け止められ、祝福の中へ入れられるのです。マタイの時代の教会も同じように、貧しく、病を知り、迫害され、牢に入れられる経験をし、そのような教会への励ましだったのかもかもしれません。

今の時代の中で「最も小さい者」とは誰でしょう。飢えている人々、渴いている人々、旅人、住む場所のない人々、戦争や暴力の中にある人々、獄に繋がれている人、排除されている人々は、絶えることはありません。そのような人々への愛の実践が問われます。教会でなくても、隣人愛を説き、「小さくされている人々」とともに生きる道を選ぶ人々は多くあります。教会が、イエスを主と告白しながら、実践を伴わないとしたならば、さらに「そのつもりがなく」排除していることすらあります。「…のために」ではなく、ただ「困っている人がいたら体がうごく」というのが祝福される側に置かれた人々のあり方だったのかもしれない。

インマヌエル

「信仰」と訳されるギリシア語ピスティスは、「信じて行動を起こす」、行動をもセットで信じる、ということなのだ和本田哲郎神父は言われます。イエスを信じるとは、「神を愛すること、人を愛すること」に集約されたイエスの招きに応じて立ち上がることです。それは、2つのことではなく、神を愛することは隣人を愛することです。裁きの主の前で、そのことが示されます。ここで言われているこ

とは行いによって救いに入ることができるといふことではありません。キリスト教会が審判において特別な位置づけをもち、他のすべての人々と変わらず、愛の行為についてのみ問われる（『EKK 新約聖書注解1/3 マタイによる福音書』教文館）ということです。主は今も「最も小さい者」たちの中に共に生きておられるからです。彼・彼女らにしないことは、イエスに対する否を表明していることとなります。

マタイ福音書では「インマヌエル」が鍵語です。イエスは、その名を付けられ（1：23）、「世の終わりまであなたがたと共にいる」と語られました（28：20）。愛の実践の一步を踏み出そうとするときに「わたしはあなたがたと共にいる」とイエスは語りかけてくださるのではないのでしょうか。

準備のための聖書日課			
8日	㊦	マタイ25:14~30	主人と一緒に喜んでくれ
9日	㊧	マタイ13:34~35	天地創造の時から隠されていたこと
10日	㊨	詩編16:7~11	主は右にいまし
11日	㊩	マタイ10:40~42	主の小さな弟子のひとり
12日	㊪	マタイ19:23~30	永遠の命を受け継ぐために
13日	㊫	マタイ28:16~20	主はいつも共におられる



成人科

●「最も小さい者」とは誰のことでしょう。まわりにいる誰を思い浮かべますか。なぜそう思ったのでしょうか。「誰が」小さくしたのでしょうか。今思い浮かべた時、「助けてあげなければいけない可哀そうな人」を想像したとしたら、どこか上から見てしまっているのかもしれませんが。私たちは何かを「してあげる」というより、出会った人々から問いかけを受けているのです。差別されている人々が問題なのではなく、そのような個性を持つ人々や立場に置かれている人々を排除する多数で強い側に自分を置いていることをこそ問われているのではないのでしょうか。

- 教会は「誰でもおいでください」といながら誰でも来られる雰囲気をつくっているのでしょうか。どんな教会だったら安心してそこにいることができると思いますか。工夫できることがあるとしたらどのようなことでしょうか。裁きが語られるのは、今をどう生きるかの問いかけです。イエスが生きておられる「最も低い場所」からの視線にどのように応答していきましょうか。
- アイヘンバーグの木版画「炊き出しの列に並ぶイエス」をインターネットで検索して、参考にしてみましょう。

小さい者のひとりに

聖書

マタイによる福音書25章31～46節

暗唱
聖句

この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。
マタイ 25 : 40

50
課

3
月
14
日

イエスさまが天使たちといっしょに来られる時、人々が右と左に分けられます。それはやり直しのきかない決定的な時です。右側の人たちは、神さまに祝福され、神さまが天地を造られたはじめの時から準備された約束の国に入ることができます。イエスさまは、「わたしがおなかがすいたときに食べさせてくれたから。のどが渴いていた時に飲ませてくれたから。旅をしていた時に泊まらせてくれたから。病気の時にお見舞いに来てくれて、牢屋に入れられた時に訪ねてきてくれたから」と言われました。でも、その人たちはどうしてかわかりません。イエスさまにそんなことをした覚えがなかったからです。「いつそんなことをしましたか？」と尋ねると、「わたしの兄弟である最も小さい者の一人にしたのはわたしにしたのだよ」と言われたのです。「小さい人」とは、どんな人でしょう。おなかがすいている人、住む家のない人、病気の人、弱い人、困っている人、寂しい思いをしている人でしょう。そんな人たちに親切にしたことは、イエスさまにしたことだと言われたのです。

左側の人たちは、永遠に消えない火の中に入れられてしまうのです。イエスさまがおなかがすいていた時に食べさせてくれなかったから。のどが渴いていた時に飲ませてくれなかったから。旅をしていた時に泊まらせてくれなかったから。病気の時にお見舞いに来てくれなかったから、牢屋に入



れられていた時に訪ねてくれなかったからです。その人たちも尋ねます。「いつそんなことをしませんでしたか？」イエスさまは答えます「最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしなかったのだよ」。親切にしなかったことも問われます。

イエスさまは私たちのどんなことを見ておられるでしょう。誰かに親切にしてあげた時、友だちを助けてあげた時、困っている人の手伝いをした時、イエスさまはとても喜ばれることでしょう。じゃあ、何もしなかったら？困っている人がいても助けてあげなかった、寂しい人がいた時に一緒にいてあげなかった、誰かに親切にしなかったら、とても寂しい思いをされるでしょう。イエスさまは、「困っている人、寂しい人にしたことはわたしにしたことと同じだよ」と言われます。助けてあげたいなと思っても勇気が出ずに、通り過ぎてしまうこともあるかもしれません。でも、どうしようか悩むことはとても大切な1歩です。イエスさまは、そんな人と一緒にいてくださるからです。

小さい者のひとりに



聖書

マタイによる福音書25章31～46節

暗唱
聖句

この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。
マタイ 25：40

聖書から…

イエスさまは弟子たちに、ご自身の再臨^{さいりん}の話をしてくださいました。そのとき「すべての国の民」(25：32)が集められ、右と左に分けられるということです。そして、右側の人たちは、天の国を受け継ぐ祝福が与えられ、左側の人たちは、呪われて永遠の火に入れられるということです。皆さんは、このイエスさまの話をして聞いて、どんなことを思いましたか？自分は「右」と「左」のどちらなのか？あの人は、この人は？ そうしたことを想像するかもしれません。けれども、イエスさまは弟子たちに、そして私たちに、何を語ろうとされたのでしょうか？

聖書を読んでいて、今日の箇所のように少しドキッとするような話しに出会うことがありますか？ でもそのときは、その話しをしているのが誰かを考えてみてください。今日の箇所はイエスさまです。「マタイによる福音書」をここまで一緒に読んできて、皆さん一人ひとりにとってのイエスさまとはどのような方か？ 思い起こしてみましよう。イエスさまは、私たちの誰かを左側に選り分けて永遠の火に投げ込みたいと思っているのではなく、私たちが天の国を受け継ぐ者として、ご自身の愛に生きることを望んでおられます。「最も小さな者の一人にしたのは、わたしにしてくれたこと」(25：40)。私たちの隣を生きる人の中にも、イエスさまがおられます。

分かち合おう

- 新型コロナウイルスの危機は、日常生活を大きく変えたばかりでなく、私たち人間の自己中心性ということも露^{あら}わにしたのではないのでしょうか？ 先週、東日本大震災の発生から10年を迎えました。野中宏樹牧師(鳥栖キリスト教会)は「3.11を忘れない 祈りの絆」(2020.7.15 全国放送)の中で、コロナ危機における「緊急事態宣言」だけでなく、原発事故による「緊急事態宣言」が未だに発令中であることに触れ、私たち社会が改めて他者に対する「想像力」や「共生力」を培ってゆく必要を述べています。イエスさまの言われた「最も小さな者の一人」とは誰のことなのか？ いつも想像することからはじめたいと思います。
- 『エリック』(河出書房新社／2012年・著：ショーン・タン／訳：岸本佐知子)は、相手のことがよく分からないながらも、共に生きるお互いとして、相手を想像することの大切さを語りかけているように感じました。皆さんは、どう感じるでしょうか？ 小さなサイズの絵本です。ぜひ、読んでみてください。

50
課

3
月
14
日

小さい者のひとりに

聖書

マタイによる福音書25章31～46節

暗唱
聖句

この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。
マタイ 25：40

聖書から…

私たちは大好きなイエスさまを喜ばせる方法を知っています。それは私たちがもっているものを困っている人、助けを必要としている人に分けることです。では私たちはいったい何を持っているのでしょうか。

まさに今日の暗唱聖句を生きたようなマザー・テレサはこう話してくれました。「自分の子どもとか、夫や妻に、何かすてきな言葉をかけることからはじめなさい。あなたがいる社会、職場、学校などで困っている人を助けることからはじめなさい。どんなことでもかまわないのです。まず実行にうつしましょう」（『マザー・テレサ』文やなぎや・けいこポプラ社）。このように、自分の家族やお友だちに対して、できることから始めていきたいと思います。あなたは神さまからたくさんの良いものをいただいています。平和を作り出す道具として、神さまが用いてくださいますように。

活動①

「何ができる？ たまもの発見ゲーム！」

- ①「飢えている人と」（『こどもさんびか改訂版』128番日本キリスト教団出版局）を賛美しましょう。
- ②輪になって、バトンの代わりになるものを一つ持ちます。バトンを持った人は、自分の賜物（神さまから与えられたもの）を発表します。発表したら、バトンを次の人にわたします。小さなメンバーや自分では「わからない」場合は、できるよ



うになったこと、得意なことを周りの人が発表してあげましょう。にぎれるようになった手、元気な泣き声、歩けるようになったこと…きっとそれは神さまを喜ばせ、だれかを励まし助けるために、神さまが与えてくださったプレゼントです。

活動②

ワークシート

「何ができる？ さあ、やってみよう！」

チャレンジシート①：だれかに、伝えたい言葉や助けることを考えて、一週間の中でチャレンジしてみましょう。

④妹のきがえを手伝ってあげる／家にいる人の肩たたきをする

チャレンジシート②：さらに社会に向けて自分たちの住んでいる地域で行われている働きについて調べてみたり、教会の人に聞いてみましょう。またそのことを覚えて祈り、私たちにできることを考えてみましょう。

絵本紹介『はんぶんあげてね』

絵・文 木下敦子／日本キリスト教団出版局

くまの子がおいしいパンを半分お友だちに分けようと持って出かけていくと、次々にちょうだいと森の仲間がやってきます。たくさんあったパンはどんどん小さくなって…ドキドキハラハラしますが、最後にほっとするお話です。



チャレンジシート①

じぶん いっしゅうかん

自分が一週間でチャレンジしたいこと

だれに

つたえることば・行動 こうどう

()

()

()

()

()

()



チャレンジシート②

ちいき

地域でおこなわれているはたらきを調べよう しら

グループのなまえ

どんなはたらき?

()

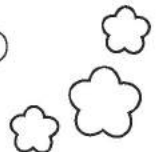
()

()

()

()

()



共に目を覚まして

聖書

マタイによる福音書26章36～46節

暗唱
聖句

誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。
マタイ 26 : 41

イエスの苦しみ

ゲツセマネは、「油圧搾器」を意味します。イエスの祈りが絞り出すような祈りであったことが想像されます。イエスは弟子たちといっしょにゲツセマネというところにきて、ペトロとゼベダイの子ヤコブとヨハネだけを伴い、他の弟子たちとは離れた場所で祈られました。この3人は、高い山の頂^{いただき}でイエスの変貌^{へんぼう}を見た弟子たちでした(17:1～8)。神的なイエスの姿を見た弟子たちは、苦しみもだえるイエスの姿の証人ともなったのです。

イエスは、苦しみもだえて祈ります。十字架を前にして恐怖に飲み込まれそうです。さらに「死ぬほど悲しい」(26:38)思いの中、そばにいてほしい弟子たちは、目を覚ましていられず眠り込んでしまいます。神に対して、「なんとかこの杯を過ぎ去らせてください」と祈りますが神は沈黙されます。「しかし、み心のままに」との祈りは、39節の中に続けて書かれています。その間にはどれだけの苦しみの祈りがあっただろうと想像されます(イエスはうつ伏せになって祈っています)。そして、ふたたび祈る時の「どうしても過ぎ去らないのならみ心のままに」との祈り(26:42)には絶望にも似たものを感じます。イエスは敵からだけでなく、仲間から捨てられ、神から捨てられる孤独の中で祈っておられました。

共に

弟子たちは、そのようなイエスのそばでいっしょに目を覚ましていることができませんでした。「心は燃えているも肉体は弱い」(26:41)は、「気持ちはあるけど体がついていけない」ということではありません。ヘブライ思想での「肉」は、からだも心も含めた人間全体を表します。神は私たちに神に仕える霊を与えてくださっているのに、私たちは自分自身に仕えることに余念がないのです(ローマ7:18参照)。「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい」とは、誘惑を避けるよう目を覚まして祈ることではなく、「あなたがたが試みに遭ったとき、誘惑に抵抗できるように用心していないさい、そして神の助けを求めて祈りなさい」(『現代聖書注解 マタイによる福音書』D.R.A.ヘア著/塚本恵訳、日本基督教団出版局)ということです。イエスは、苦しみもだえて祈りに祈ったあげく、「み心のままに」という祈りを絞り出しているのではないのでしょうか。逃げることができず、ただ委ねていくしかない姿です。しかし、そのイエスの姿は、同時に私たちにも「み心のままに」と委ねていくことを教えてくれるのではないのでしょうか。納得しようができませんが、どうしようもなくなるとき、神が沈黙しておられるように思える時の私たちの姿を重ねていくことができます。イエスは弟子の弱さをよくご存じでした。「共に」あることのできない者たちに、それでも「共に」と語りかけるイエスは、現実を見てあきらめないし、見捨てることはないのです。

立て、行こう

三度目にイエスは、「時が近づいた」と立ち上がります。すっきりと立ちあがったというより、ボロボロになりながらようやく立ち上がる姿を想像します。喜んでそこに突き進んでいくというより、できれば逃げたいけれども逃げられない立ち上がり方です。力強い光輝く栄光のイエスの姿ではなく、何もできずに引き渡されていく姿です。しかし、それはイエスが神に対して徹底して従順であった姿です。自分の頑張りを捨てて、神に委ねることへと導かれたのです。ボロボロになっても受け止めてもらえる信頼があったのです。自分を裏切る者にも向かいあっていく姿に、ユダに対する慈しみすら感じます。眠り込んだ

準備のための聖書日課

15日	㊦	マタイ17:1~8	主イエスの正体
16日	㊧	ローマ7:13~25	肉は罪の法則のもとに
17日	㊨	テサロニケー 5:1~11	眠る者は夜眠る
18日	㊩	ヘブライ5:7~10	祈りと願いを ささげる主
19日	㊪	ヨハネ16:16~24	悲しみから喜びへ
20日	㊫	ヨハネ16:25~33	いのちの勝利

弟子たち、自分を裏切った弟子、最も親しいところにいた「愛する者」への思いが透けて見えます。顔をそらすのではなく、向き合うためにイエスは立ち上がっていかれます。

51
課

3月
21日



● ゲツセマネで祈るイエスの姿に何を感じますか。自分だったら誰に「助けて」と言えますか。弱さを隠さずに「一緒に祈って」と訴えることができますか。そのような関係づくりをしているでしょうか。独りでがんばるのではなく、だれかに助けを求めても良いとイエスは示してくださっていますが、安心して声をあげられるのは、どのような時・人でしょうか。そのような信頼関係をつくっていくためにどのようなことができるでしょうか。

● 弟子たちはイエスと一緒に祈ることができませんでしたが、そんな弟子たちにも期待するイエスの姿を思いめぐらしてみましよう。何度も失敗する(裏切りも含めて)自分に重ねてしまうところはありませんか。目を覚まして祈ることのできなかつた弟子たちに、なお声をかけ続けるイエス。自分を裏切ろうとするものにまで正面から向き合うイエスのまなざしをどのように受け止めるか話し合ってみましよう。人間の努力を超えて、共に生きてくださるイエスの思いを受け止めます。それぞれの課題を分かち合い、祈る時間をもちます。

共に目を覚まして

聖書

マタイによる福音書26章36～46節

暗唱
聖句

誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。
マタイ 26 : 41

51課

3月21日

弟子たちと最後の食事をとられたイエスさまは、ゲツセマネというところに行かれました。神さまに祈るためです。ペトロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に、みんなから少し離れたところでお祈りされました。この3人は以前に、イエスさまの姿が光り輝いて、モーセとエリヤと一緒にいるところを見た3人でした。今日は、もっと違うイエスさまの姿を見ることになります。イエスさまは、これから十字架につけられることがわかっていました。イエスさまは、神さまの子だから、進んで十字架の道をゆかれたのでしょうか。いいえ、一生懸命に神さまにお祈りする姿がここにはあります。3人の弟子たちを連れていかれたのは、心細くて、今から大変なことが起こるといふ時に一緒にお祈りしてほしいかたのかもしれない。「そばにいて起きていてね」とイエスさまに言われたのに、ペトロたちは眠ってしまいます。イエスさまは神さまに必死でお祈りします。苦しくて苦しくて、なんとか逃げ出したいと思っていました。だから神さまに「どうか、この杯を過ぎ去らせてください」と祈ります。「杯を過ぎ去らせてください」というのは、十字架につかなくて良いようにしてくださいという意味です。嫌なことは逃げ出したいくなります。イエスさまも逃げたいと思ったことでしょう。弟子たちのところに来てみると、まだ眠っています。がっかりしたかもしれません。また神さまにお祈りします。「どうし



てもだめなら、神さまのみ心が行われますように」と。逃げたいときは逃げて良いのです。でも、今回はだめでした。これはイエスさましかできないことだからです。ようやくイエスさまは決心して立ち上がります。嫌だな、逃げたいと思うようなときにも、それが神さまのみ心なら向かっていくことができます。弟子たちのところに行くと、まだ眠っています。イエスさまと一緒に目を覚ましてお祈りしたいと思ったかもしれませんが、できませんでした。イエスさまはそんな弟子たちのことをちゃんとわかっていて「さあ行こう」と言われます。

イエスさまは、「神さまはすべての人を愛してくださって、どんな時にも一緒にいてくださる」と教えてくださいました。逃げられなくなってしまう時も、誰も味方してくれなくて寂しくなる時があっても、神さまと一緒にいてくださるから立ち上がっていくことができることを示してくださいました。

共に目を覚まして



聖書

マタイによる福音書26章36～46節

暗唱
聖句

誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。
マタイ 26 : 41

聖書から…

十字架を目前にして、イエスさまはゲツセマネという所に行かれ神さまに祈られました。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい」(26 : 38)。イエスさまは「わたしは死ぬばかりに悲しい」と言われました。そして「ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい」と言われました。「死ぬばかりに悲しい」とは、どれほど深い悲しみの中におられたのでしょうか？「ここを離れず、わたしと共に」とは、どれほど大きな不安の中におられたのでしょうか？ イエスさまの心の内を少しでも想像したいと思います。

私たちは自分が深い悲しみにあるとき、あるいは強い不安に襲われるとき、誰かにその思いを理解して欲しいと願うでしょう。そして、少しでも自分の思いが受け止められていると感じるなら、そこにどれほど大きな救いを覚えるでしょうか。でも実際には、自分の思いがなかなか人に受け止められていないと感じるように、自分も誰かの悲しみや不安な気持ちに寄り添うことは難しいのかもしれませんが。「共に」を求められた弟子たちは、しかしイエスさまのそばで眠るのです(26 : 40)。私たち人間とは、そのような存在です。けれども、そのことを承知の上で、イエスさまは「立て、行こう」と私たちを招かれます。

分かち合おう

- 自分の思いがなかなか人に受け止められていないと感じるように、自分も誰かの悲しみや不安な気持ちを十分に理解することは難しいのではないのでしょうか。他者の思いに寄り添おうとする気持ちは大切です。しかし、寄り添うことの難しさを忘れて安易な言葉かけで相手を傷つけてしまうこともあるかもしれません。「共に生きよう」との招きを受けている私たち、人と人にはどのような寄り添いがあるのでしょうか？
- イエスさまは、十字架を前にして祈られたゲツセマネで弟子たちに「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい」と言われました。悲しいときは悲しい、不安なときは不安、そのように言うことも大切ではないでしょうか。「クリスチャンは弱音を吐いたり、マイナスな気持ちになったりしてはいけない」。そうしたことを聞いたり、言われたりしたことはありますか？ イエスさまは本当に悲しい気持ちを素直に言い表されました。悲しいと感じる自分を無理に乗り越える必要はありません。それも大切な私たちの人生の一部です。

51課

3月21日

共に目を覚まして

聖書 マタイによる福音書26章36～46節

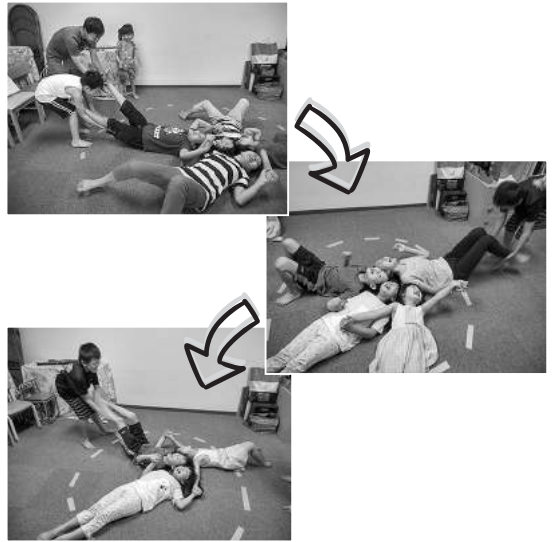
暗唱 聖句 誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないさい。
マタイ 26：41

聖書から…

ペトロとヤコブ、ヨハネの三人は、悲しみ祈るイエスさまの姿を見ました。今までの力に満ちたイエスさまとはなんだか様子が違います。しかも弟子たちはイエスさまに共に目を覚ましてほしいと言われたのに眠くて眠くて、気づいたらぐっすり…。しかしイエスさまはそんな弟子たちを見捨てず、「さあ、行こう」と声をかけてくださいました。

「インマヌエル」と呼ばれるイエスさまは、決してご自分から手を放さず、むしろ眠ってしまった私たちに、それでも「共に」歩こうと呼びかけてくださるお方なのです。ですから私たちは差し出されている手を握り返すだけでよいのです。

って、イエスさまと一緒に寝ているメンバーをどんどん抜いていきましょう。
*インターネットで、「だいこんゲーム」で検索できます。



51課

3月21日

活動①

「さあ、行こう」

- ①「主イエスとともにあるきましょう」(『ふくいんこどもさんびか』90番いのちのことば社)を賛美しましょう。
- ②頭が内側になるように円になって仰向けに寝ころび、隣の人と手をつなぎます。足をのばしたところにガムテープで印をつけたら準備完了です。
- ③イエスさま役の人が、輪になって寝ている人の足を引き抜きます。印の外にお尻が出たらOKです。
- ④引き抜かれた人はイエスさまの弟子にな

活動②

ワークシート

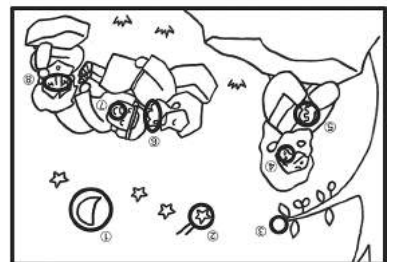
「目を覚まして」

ワークシートを使って、まちがいさがしをしましょう。

上と下で違うところが8つあるので、探してみましよう。見つけれられるでしょうか。

答え

共に寝の去聲の球①、口の去聲の中々部②、小の去聲の部③、木の去聲と工ノ部④、道の去聲と工ノ部⑤、雲の去聲と工ノ部⑥、雲の去聲と工ノ部⑦、雲の去聲と工ノ部⑧







十字架上の神の子

聖書

マタイによる福音書27章32～56節

暗唱
聖句

百人隊長…は…「本当に、この人は神の子だった」と言った。
マタイ 27：54

十字架を取り巻く人々

イエスの十字架は、ゴルゴタ（「されこうべ」の場所）で執行されます。ムチ打たれ、嘲られ、引き出されていきます（27：27～31）。その途中、キレネ人シモンはイエスの十字架を無理やり担がされます。たまたまそこにいた人でしょう。共観福音書全部に名前が登場します。マルコ福音書では、「アレクサンドロとルフォスとの父」（マルコ15：21）と記されていますので、後に原始教会で一員となったのかもしれませんが。たまたまの出来事が、その人の人生に大きな影響をあたえ、子どもたちにもそれが伝えられていく様子がかがうことができます。「たまたま」には神の不思議があります。

人々は「ユダヤ人の王」（27：37）としてイエスをからかい十字架につけていきます。期待通りでない「メシア」を捨てる民衆やユダヤ人指導者たちと、ローマ皇帝以外の「王」を認めない帝国の力による圧力を感じます。

「強盗」と訳されている「レースタイ」は、イエスの捕縛の場面でも登場します（26：55）。もともとは農民でしたが、貧農や土地を持たない労働者は、支配者層から搾取され、負債や暴力によって土地から追い出され、強盗行為に頼るしかなかった人々でした。その中には、金持ちから奪い取ったものを貧しい者たちに分け与えていたグループもあったようです（『共観福音書の社会科学的注解』ブルース・マリーナ／リチャード・ロアボー著 新教出版社参照）。「イエスではなくバラバを」（27：21）との民衆の声は、バラバがその

ような農民から支持された「強盗団」のひとりだったからなのかもしれません。

十字架のイエス

十字架は、嘲り、暴力、孤独の極みです。十字架刑は、ローマ帝国の国家に逆らう者、社会秩序を乱す政治犯の極刑と言われる処刑法です。「神の子なら」「み心なら」「自分を救ってみろ」と、嘲りの声が重なります。一緒に処刑されたふたりの強盗ですら、十字架の上でイエスをののしります。弟子たちは離れ去り、神からも見捨てられる絶望の極みでした（27：46）。「これはわたしの愛する子」との声を聴いたヨルダン川の出来事もよぎったかもしれません。「どうして」と叫びたくなります。マタイ福音書では、イエスが大声で叫んで息をひきとられると地震が起こり、岩が裂け（ナホム1：5～6参照）、墓が開いて眠っていたからだが生き返る（イエスの復活後、人々に見られる）という不思議な出来事が起こります（エゼキエル37章参照）。神が積極的に顕れたという表現です。

主告白

マタイによる福音書では、「百人隊長」は好意的に描かれます（8：5～13参照）。十字架の最も近くにいて不思議な出来事を見た百人隊長が、「本当にこの人は神の子だった」と告白します。「裂けた神殿の垂れ幕」（岩波版注では、「至聖所の前の垂れ幕」）は、「異邦人が神にちかづくことを妨げていた祭儀制

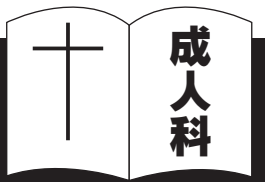
52課

3月28日

度の解消を象徴する」(『現代聖書注解マタイによる福音書』D.R.A. ヘア 塚本恵訳、日本基督教団出版局)と推測されています。何かを隔てていたものが真っ二つに裂かれ、神が共におられることが顕わに普遍的になったことを現しているのではないのでしょうか。

女たちは、そこにいました。最後まで従い、イエスの死と復活の証言者となっていきます。マリアたち(当時のよくある女性の名前)は、匿名ではなく名前を持った固有の存在として立ち上がってきます。ゼベダイの子らの母は、名前が記されていませんが、「飲むべき杯を飲む」と言われたイエスの苦しみに従った人として描かれているのかもしれませんが(20:20～22)。言葉をもたなかったマリアたちが、イエスの招きに応え、立ち上がらせられ、復活の知らせをもたらす声としてイエスから遣わされていきます。

準備のための聖書日課			
22日	㊦	マルコ15:21～32	ルフォスの父シモン
23日	㊧	ローマ16:13	主に結ばれたルフォスとその母
24日	㊨	マタイ20:20～28	ゼベダイの息子たちの母
25日	㊩	詩編22:1～22	なぜわたしをお見捨てになるのか
26日	㊪	マタイ27:15～26	群衆の愚かさ
27日	㊫	マタイ27:27～31	まことの王を求めて



- 十字架につけられるイエスの周りの人々に注目してみましょう。ど

んな物語がそこには起こっているでしょう。だれに自分を重ねてみますか。聖書の受け止め方は、その時その時で違いがあります。「正しい読み」というより、私たちの人生の折々で迫ってくる言葉、私たちに行動を引き起こさせる、あるいは立ち止まらせる言葉だからです。今の感想を分かち合ってみましょう。十字架の前で何を見るのでしょうか。

- 詩編22編を読みます。「なぜわたしをお見捨てになるのですか」と叫びたくなる

苦悩のなかで詩編作者が見たものは何だったでしょう。人々に捨てられ神に捨てられた孤独のイエスが十字架の上で口にした言葉は何だったのでしょうか。私たちの人生の中で「どうして」と問うた場面がありましたか。そんな証しがあれば分かち合ってもらいます。

- 分断を作り出していた幕が真っ二つに裂け、異邦人やおんなたちという当時は軽んじられた人々がイエスに寄り添い、主告白をします。バプテストは自分の言葉で信仰告白をします。どんなにつたなくても精いっぱい告白と行いは、尊いものとされているのです。

十字架上の神の子

聖書

マタイによる福音書27章32～56節

暗唱
聖句

百人隊長…は…「本当に、この人は神の子だった」と言った。

マタイ 27 : 54

52
課

3月
28日

イエスさまは、捕らえられ、十字架につけられていきます。たたかれ、裸にされ、みんなから、ばかにされていきます。重い十字架を担がされ、ゴルゴタというところまで連れていかれます。途中で、キレネのシモンという人は、イエスさまの代わりにその十字架を無理やり担がされます。その人は弟子ではありませんでした。たまたまその騒動を見ていただけかもしれません。その時は意味もわからずに担がされたイエスさまの十字架です。

十字架につけられたイエスさまを、ローマの兵士たちがばかにします。イエスさまと一緒に二人の強盗が十字架につけられましたが、その人たちも「神の子なら自分を救ってみろ」、律法学者や祭司長たちも「他の人を救ったのに自分のことを救えない王さまだ。十字架から下りてこい」とばかにします。

お昼 12 時頃になるとあたりが暗くなりました。昼なのに真っ暗です。それが3時まで続きます。イエスさまは十字架の上で「神さま、どうして私をお見捨てになったのですか」と叫ばれました。周りにいた人たちはますますイエスさまをあざ笑います。そしてもう一度、大きな声を上げて、息をひきとられました。そのとたん、エルサレム神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けました。地震が起こり、岩が裂けて不思議な出来事が起こりました。ローマの百人隊長は、その様子を見て「この人は、



本当に神の子だった」と言ったのです。神さまを知っていたユダヤ人ではなく、外国人の百人隊長の告白です。神殿の幕は、人と人を隔てるものです。「神さまは、ユダヤ人の味方。外国人には神さまのことはわからない」と思っていた人もたくさんいました。でもイエスさまの十字架のもとで、「本当に神の子だった」と告白したのは、その外国人の隊長でした。

イエスさまの弟子たちはバラバラに逃げてしまいましたが、十字架のもとには、マリアたちがいました。イエスさまに従って仕えてきた人たちです。その中のひとり、「ゼバダイの子たちの母」と呼ばれる人です。その人の名前は書かれていませんが、息子のヤコブとヨハネは、イエスさまの弟子でした。息子たちといっしょにイエスさまのお話をきいて、イエスさまに最後まで従っていきたく思っていたのでしょう。

イエスさまの十字架のまわりには、いろんな人たちがいました。ばかにする人、信仰告白をする人、最後まで従っていこうとした人。どんな思いでそこにいたのでしょうか。

十字架上の神の子

青少年科



聖書

マタイによる福音書27章32～56節

暗唱
聖句

百人隊長…は…「本当に、この人は神の子だった」と言った。
マタイ 27：54

聖書から…

「自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」（16：24 47 課）と言われたイエスさまが、今まさに十字架につけられています。イエスさまご自身の「十字架」とは、実際の十字架刑です。当時の世界を支配していたローマ帝国が、帝国に邪魔な存在を抹殺するための残酷極まりない処刑の方法です（聖書の学び参照）。イエスさまの十字架の話しを読むたびに思います。どうしてイエスさまは、そんな残酷な刑を受けなければならなかったのか？ と。どうしてそこまでして、ご自身の「十字架」を背負わなければならなかったのか？ と。

昨年末から「マタイによる福音書」を一緒に読んできました。この号の最初のお話は、イエスさまがバプテスマを受けられた物語でした（40 課）。イエスさまは私たちと同じように、バプテスマを受け水に身を沈められました。水は、命とそして死を象徴します。イエスさまはバプテスマを受けることによって、命と死とが混在する私たちの世界に身を沈め、そこに生きることを決心してくださったのです。十字架とは、この世界の「死」の象徴です。暴力の極み、不条理の極み、絶望の極みです。すべての命の「インマヌエル」として、イエスさまはその「極み」を受けられました。

分かち合おう

- 今、私たちの社会に十字架刑はありません。でも「聖書の学び」に「十字架は、嘲り、暴力の極みです」とあるように、人の命が身体的な暴力によって、また言葉の暴力（嘲り・罵り）によって苦しめられている現実の後を絶ちません。そこにどれほどの絶望があることでしょうか。そうした現実がなくなる限り、私たちの世界はイエスさまを今日も十字架につけているのかもしれませんが（1 コリ 2：2、ガラ 3：1 等参照。十字架につけられてしまったままのキリスト）。改めてイエスさまの十字架とは何でしょうか？ 話し合ってみましょう。
- 「マタイによる福音書」を 13 回（11 月 29 日からだと 18 回）にわたって読んできました。これまでの学びを振り返って、何か印象に残ったイエスさまの言葉（聖書の言葉）はありますか？「学ぶことは、変わること」とも言われます。イエスさまの言葉（聖書の言葉）との出会いが、私たちが新しくしてくれることを願います。私は「常に聖書の前でルーキー（新人）」でいたいと思っています（『教会学校ブックレット 2017』）。皆さんは、いかがでしょうか？

52 課

3 月 28 日

十字架上の神の子

聖書

マタイによる福音書27章32～56節

暗唱
聖句

百人隊長…は…「本当に、この人は神の子だった」と言った。
マタイ 27：54

聖書から…

とうとうイエスさまは十字架にかかられました。イエスさまの十字架の周りにはいろいろな人が聖書に登場します。近くでイエスさまをあざ笑う人、遠くでイエスさまを見守る人、外国人や女性たち…みんな同じ十字架のイエスさまを見ていますが、それぞれ違う姿です。私たちもイエスさまのことや十字架のことを聞いたとき、いろいろな反応をします。それは自然な反応でしょう。私たちにはそれが許されています。

今週は「受難週」、イエスさまの十字架の苦しみを思うときです。十字架の周りにいたいろいろな人たちの姿に、自分のことを重ねて考えてみてください。どこから、どんな顔で、イエスさまの十字架を見えますか？

活動①

「イエスさまの近くにいた人たちはどんな顔？」

- ①「イエス様ごめんなさい」（プレイズワールド 14番 いのちのことば社）を賛美しましょう。
- ②イエスさまの十字架の近くにいた人たちはいろいろな顔をしていました。イエスさまの苦しむ姿を見て悲しい顔、「本当に神の子なのか？」と疑う顔、十字架の出来事がこわくて恐ろしさに震える顔など、どんな顔だったかいろいろと想像してみてください。「この人は本当に神の

子だった」と言った百人隊長はどんな表情だったのでしょうか？

活動②

ワークシート

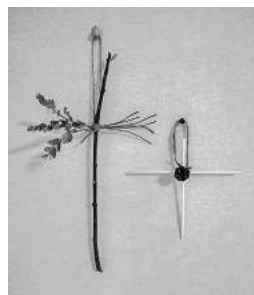
「あなたはどこにいた？」

今日の箇所に登場する人々は十字架のイエスさまをどこにいて見ていたのでしょうか。聖書をよく読み想像して、ワークシートを切り取り、画用紙に貼ってみましょう。自分なりの言葉で、せりふも書き加えてみましょう。

活動③

「十字架オーナメントをつくろう」

- ①木の枝を2本、十字架の形に組み、ひもで固定します。裏にヒモで輪をつけたらオーナメントになります。
- ②わりばしを十字架の形に組み、ひもで固定します。ビーズや木の実、小さな造花などをボンドで接着しましょう。

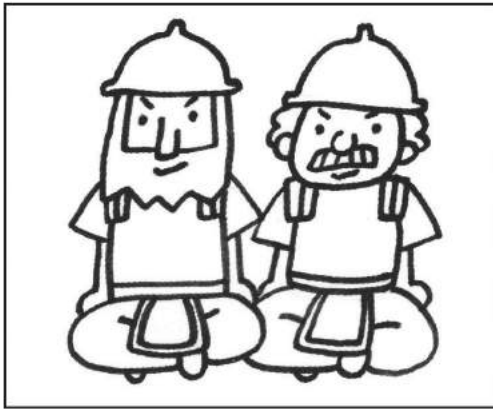
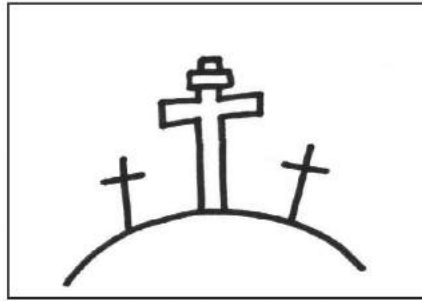
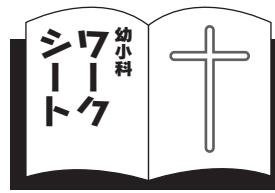


※取り扱いに注意しましょう。

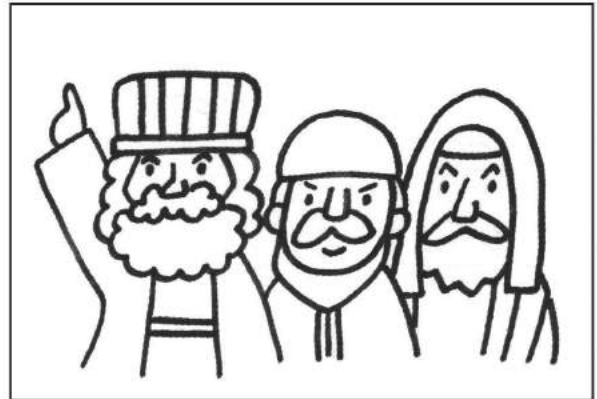
絵本の紹介『かおかお どんなかお』

柳原良平 こぐま社

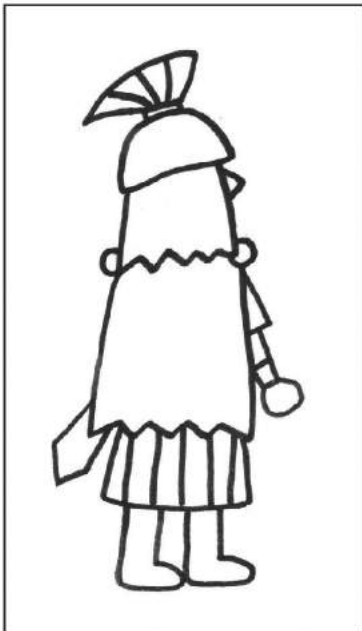
いろんなかお（表情）がでできます。子どもと一緒にまねをしながら読んでみると、子どものほうが上手にまねできて驚いたり、「いたずらなかお」はそのままだ！と思ったり。親子で楽しめる一冊です。



(見張りの兵士たち 35-36節)



(祭司長や律法学者、長老たち 41節)



(百人隊長 54節)



(大勢の婦人たち 55-56節)

「人は



「人」
人差指で漢字“人”を



空書する



「パン」
つまんだ親指と人差指を

だけで



素早く開く

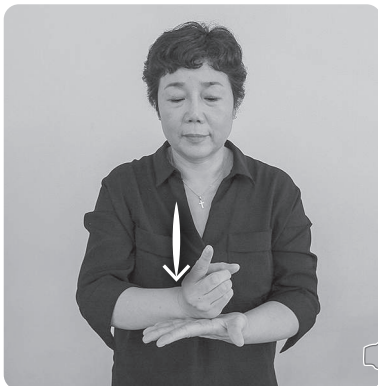


「食する」
すぼめた手を口元に近づける



「だけ」
人差指を伸ばした右手を

生きるものではない。



左掌に打ち付ける



「生きる」
両手拳を握り、軽く肘を張り



左右に広げる

神の



「違ふ」
両手親指と人差指を



手首を反対にねじるように
同時に動かす



「神」(指文字「か」)
中指腹に親指を当てた3指

口から出る一つ一つの言葉で



「ことば」(「言う」)
両人差指を口元から



交互に前方に動かす

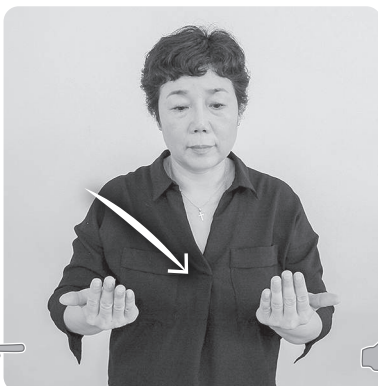


「言葉」(カギ括弧)
両手人差指で「」を示す

生きる」



カギ括弧「」の位置を移動
(一つ一つを表現)



「頂く」
両掌上向きを自分に引寄せる



「生きる」
両肘を軽く張り左右に広げる

暗唱聖句 カード

新共同訳

- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>



「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。マタイ 3 : 17

41課 1月10日



「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」 マタイ 4 : 4

42課 1月17日



「わたしが来たのは…廃止するためにではなく、完成するためである」 マタイ 5 : 17

43課 1月24日



「彼はわたしたちの愚い、わたしたちの病を担った」 マタイ 8 : 17

44課 1月31日



行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。 マタイ 10 : 7

45課 2月7日



だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまざっている。

マタイ 10 : 31

46課 2月14日



わたしにまざらない人は幸いです。 マタイ 11 : 6

47課 2月21日



わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。

マタイ 16 : 18

48課 2月28日



お前の王がお前のところにおいてになる、柔和な方で…荷を負うろばの子、子ろばに乗って。

マタイ 21 : 5

49課 3月7日



だから、目を覚ましていなさい。

マタイ 25 : 13

50課 3月14日



この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。 マタイ 25 : 40

51課 3月21日



誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていないなさい。

マタイ 26 : 41

52課 3月28日



百人隊長…は…「本当に、この人は神の子だった」と言った。

マタイ 27 : 54

暗唱聖句 カード 口語訳

- 線で切り取って使用してください。
- ホームページからカラー印刷ができます。
- <http://www.bapren.com/>

40課 1月3日



てんから声があつて言った、「これはわたしの愛する子、わたしの心になう者である。」

マタイ 3 : 17

41課 1月10日



「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」

マタイ 4 : 4

42課 1月17日



「わたしが…廃するためではなく、成就するためにきたのである」

マタイ 5 : 17

43課 1月24日



「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」

マタイ 8 : 17

44課 1月31日



行って、「天国が近づいた」と宣べ伝えよ。

マタイ 10 : 7

45課 2月7日



それだから、恐れることはない。あなたがたは、多くのすずめよりも、まさった者である。

マタイ 10 : 31

46課 2月14日



わたしにつまずかない者は、さいわいである。

マタイ 11 : 6

47課 2月21日



わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。

マタイ 16 : 18

48課 2月28日



あなたの王がおいでになる、柔和なおかたで…くびきを負うろばの子に乗って。

マタイ 21 : 5

49課 3月7日



だから、目をさましていないさい。

マタイ 25 : 13

50課 3月14日



これらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。

マタイ 25 : 40

51課 3月21日



誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていないさい。

マタイ 26 : 41

52課 3月28日



百卒長…は…「まことに、この人は神の子であった」と言った。

マタイ 27 : 54

聖書教育



特集

ペンテコステメッセージ

塩山宗満

神のかたちである人間

渡辺政友

連載

神学校週間をおぼえて

濱野道雄

時代の中で聖書を読む

松藤一作

ご意見、ご感想をお待ちしております。

FAX ● 048-883-1092 Eメール ● seishokyouiku@bapren.jp (編集担当)

聖書教育

● 2020年11月20日発行・発売 ● 定価 1,200円 (税込)

発行人 中田 義直

編集人 長尾 なつみ

発行 日本バプテスト連盟

〒336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 1-2-4

TEL : 048-883-1091 FAX : 048-883-1092

日本バプテスト連盟 HP <https://www.bapren.jp/>

聖書教育 HP <https://www.bapren.com/>

ご注文は連盟販売管理室まで hanbai-kanri@bapren.jp

郵便振替口座 00150-9-192579

印刷 ニューライフミニストリーズ (新生宣教団)

● 内容についての編集責任は日本バプテスト連盟にあります。

● ワーク・教材以外の複製はご遠慮ください。

● 聖書は日本聖書協会新共同訳を使用しています。

©2020 日本バプテスト連盟

● 乱丁落丁はお取り替えいたします。日本バプテスト連盟販売管理室までご連絡ください。

● 表紙 三浦あや

● みんなで聴く聖書のおはなしカット 香月 藍

● レイアウト JC ユニット

● 幼小科ワークシート 吉崎 愛



表紙「柔和な王さま」